

男女共同参画社会に関する意識調査
報告書

令和8年3月
館林市

目次

1	調査の概要	
(1)	調査の目的	1
(2)	調査項目	1
(3)	調査設計	1
(4)	回収結果	1
(5)	集計・分析にあたって	1
2	回答者の属性	
(1)	性別	2
(2)	年代	2
(3)	職業	2
(4)	家族構成	3
(5)	結婚	3
3	調査の結果	
I	男女の役割や地位に関する意識について	4
II	仕事と家庭生活等の両立について	32
III	男女の人権について	45
IV	男女共同参画社会について	56
4	自由意見	62
5	調査票様式	76

・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 調査の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 調査の目的

市民の男女共同参画に関する意識や考え方を調査し、施策立案・推進に役立てるもの。また、「第7次館林市男女共同参画基本計画」策定の基礎資料とするもの。

(2) 調査項目

- I 男女の役割や地位に関する意識について
- II 仕事と家庭生活等の両立について
- III 男女の人権について
- IV 男女共同参画社会について

(3) 調査設計

調査地域：館林市全域

調査対象：市内在住の18歳以上の男女

標本数：1,000人(男女各500人)

抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出

調査方法：郵送配布・郵送回収又はオンライン回答

調査期間：令和7年8月20日(水)～9月25日(木)

(4) 回収結果

配付数		郵送回収	オンライン回答	回収数	回収率
男性	500	135	69	204	40.8%
女性	500	210	65	275	55.0%
その他	-	1	0	1	-%
不明	-	5	0	5	-%
合計	1,000	351	134	485	48.5%

(5) 集計・分析にあたって

◇回答比率(%)は、小数点第2位を四捨五入して算出したものです。したがって、回答比率を合計しても100%にならない場合があります。

◇設問によっては、複数回答の結果、回答比率の合計が100%を超える場合があります。グラフ中のN数(Number of case)は、対象の母数を表します。

◇本文中の選択肢について、長い文は簡略化しています。

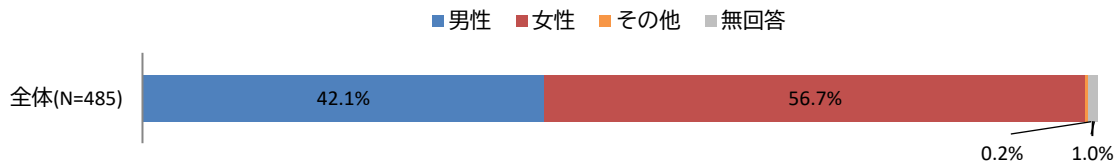
◇本文及びグラフにおいて、「今回調査」は本調査を、「前回調査」は令和2年度の調査を、「内閣府」は「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和6年9月実施)を、「群馬県」は「男女共同参画社会に関する県民意識調査」(令和6年12月実施)を表しています。

◇今回調査では、性の多様性を考慮し、性別に「その他」という選択肢を設けましたが、回答者数が少ないため、性別での分析では男女のみを対象としています。

..... 2 回答者の属性

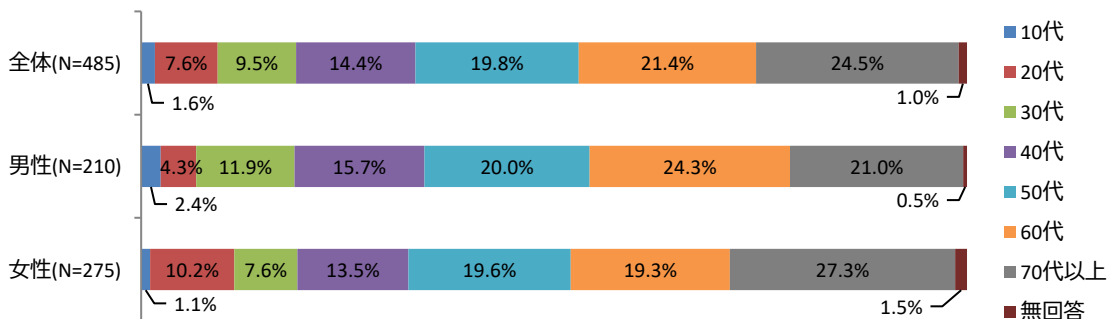
(1) 性別

「男性」が42.1%、「女性」が56.7%、「その他」が0.2%、「無回答」が1.0%となっている。



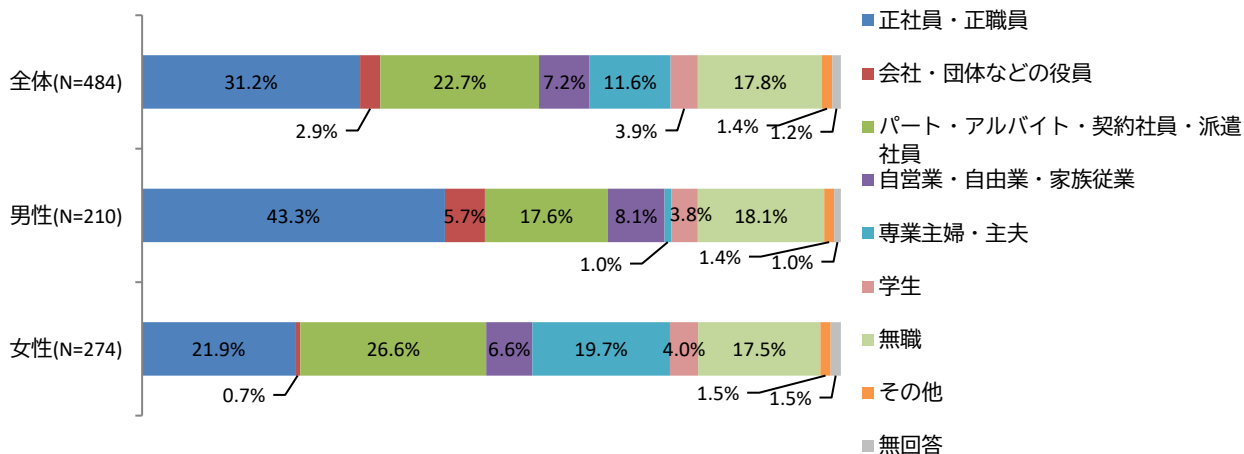
(2) 年代

全体、男性、女性ともに、50代、60代、70代以上で65%以上を占めている。



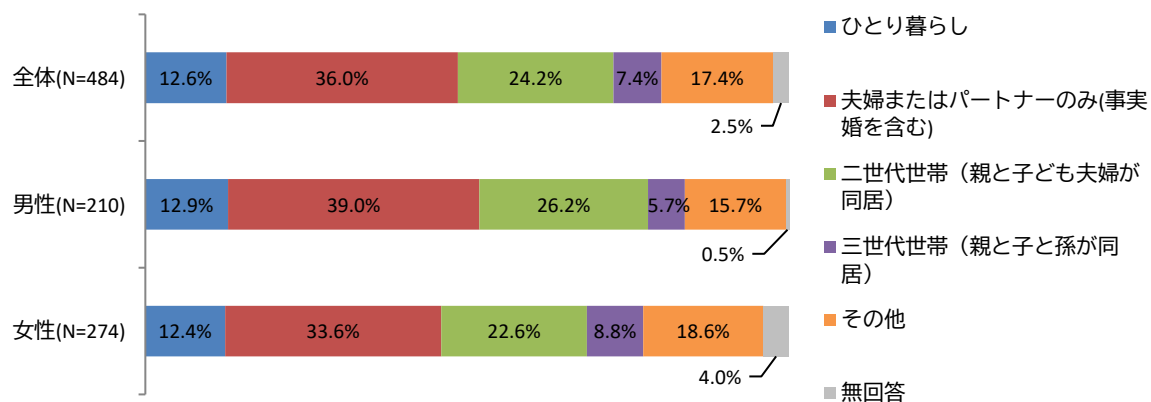
(3) 職業

「正社員・正職員」では、男性が43.3%であるのに対し、女性は約半数の21.9%である。また、「パート・アルバイト・契約社員・派遣社員」では、男性が17.6%であるのに対し、女性は26.6%となっている。



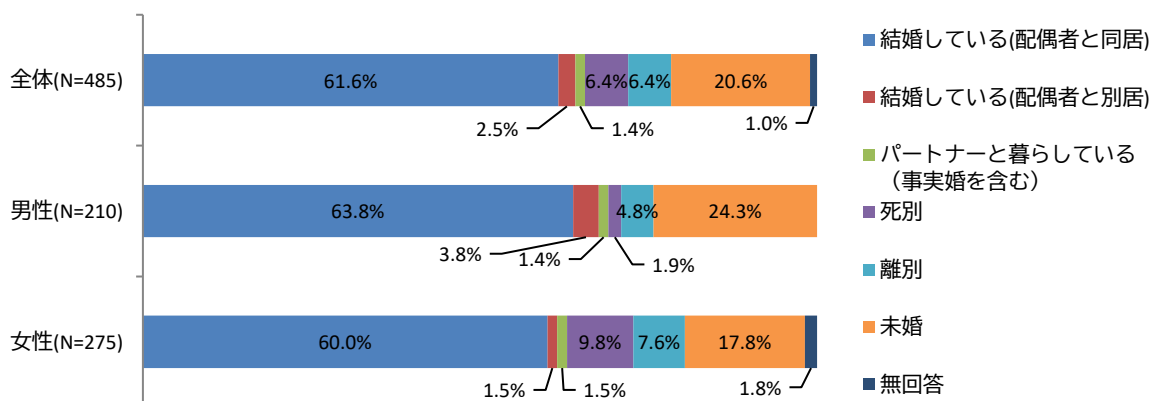
(4) 家族構成

「夫婦またはパートナーのみ」が最も多く(全体 36.0%、男性 39.0%、女性 33.6%)、次いで「二世世代世帯」(全体 24.2%、男性 26.2%、女性 22.6%)となっている。



(5) 結婚

「結婚している(配偶者と同居)」が最も多く(全体 61.6%、男性 63.8%、女性 60.0%)、次いで「未婚」(全体 20.6%、男性 24.3%、女性 17.8%)となっている。



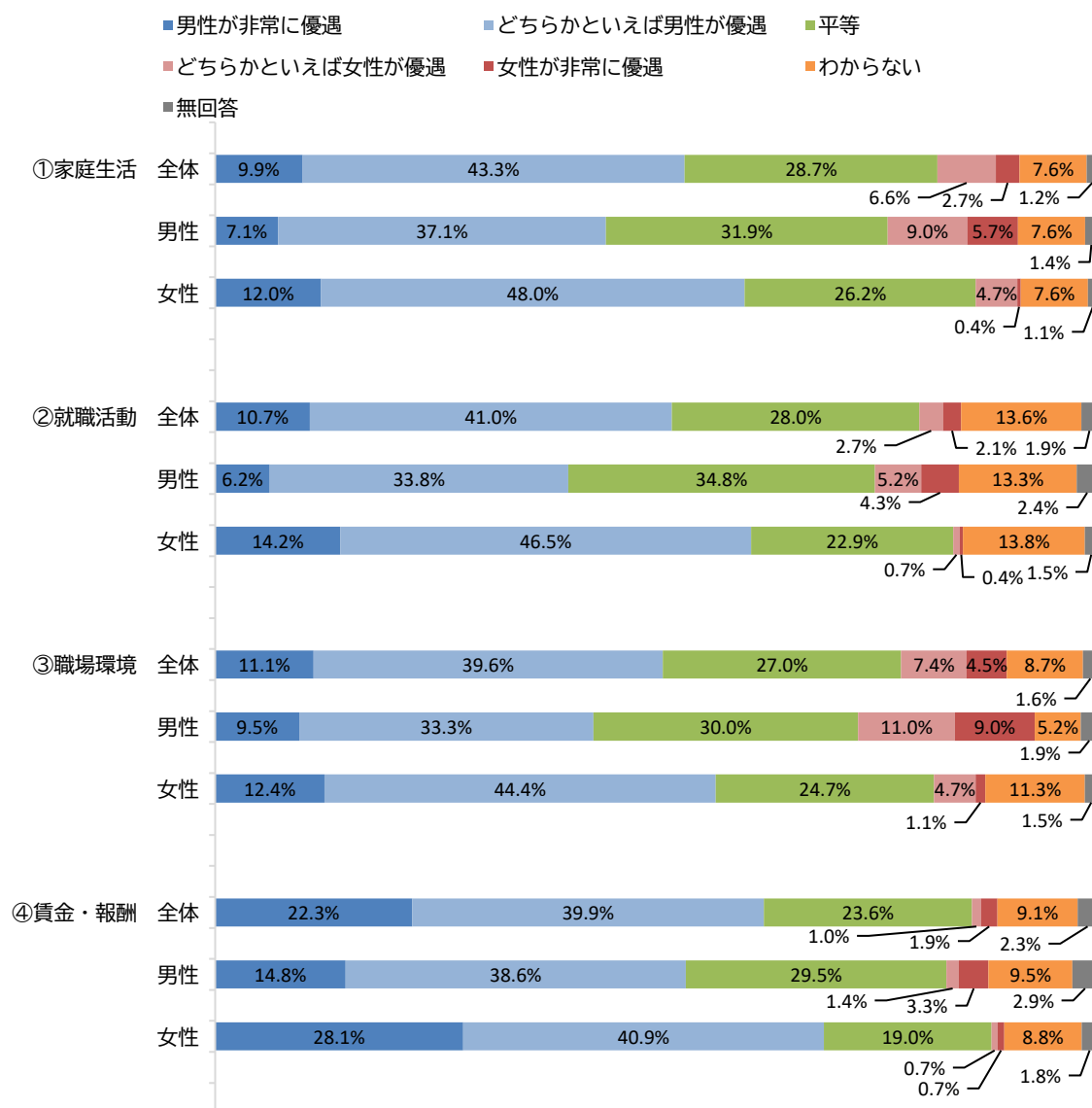
I 男女の役割や地位に関する意識について

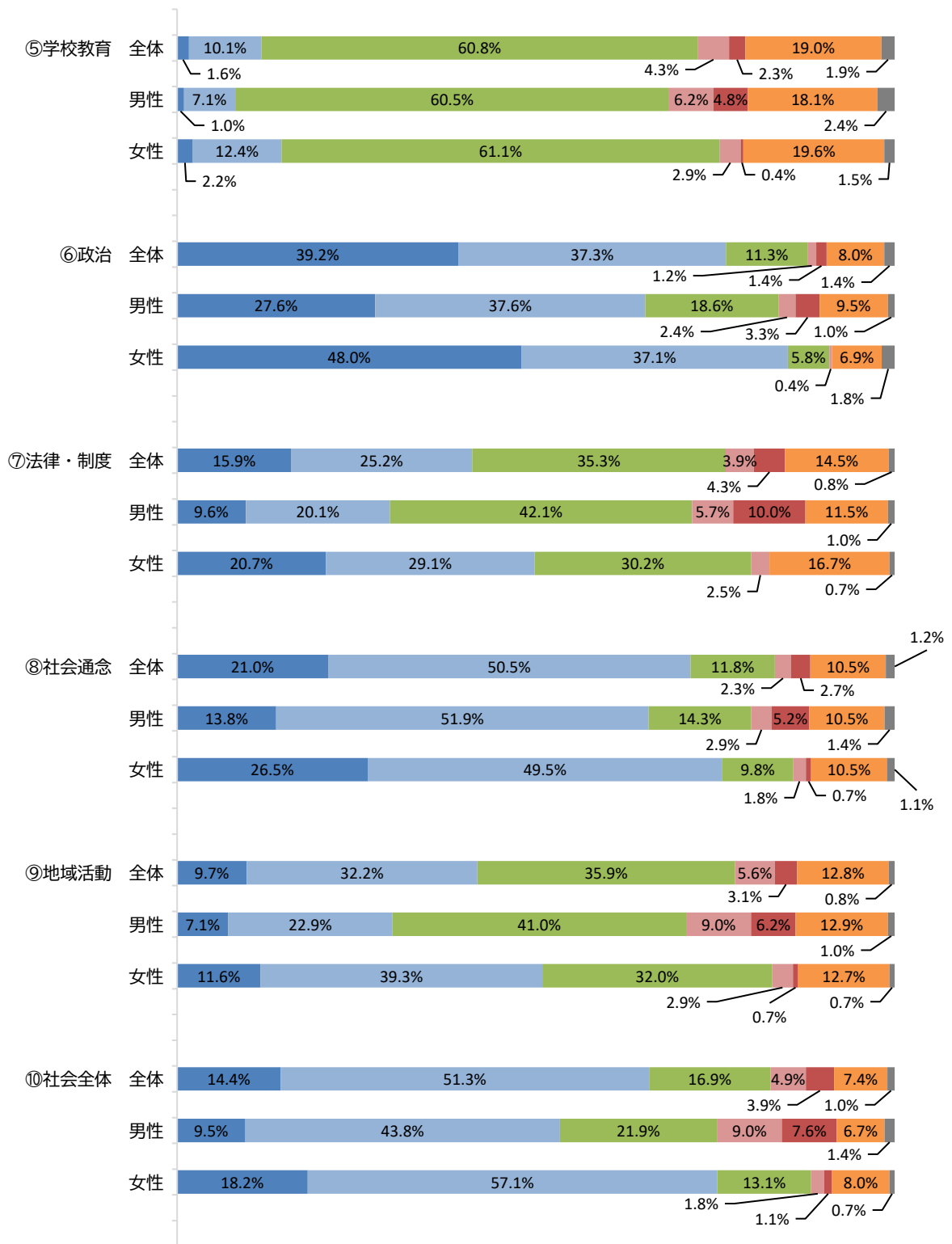
問1 あなたは、次の①～⑩の各分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

学校教育では平等の意識が浸透しつつあるが、それ以外の分野では『男性優遇』の傾向が強い。

男女の地位について、「平等」と回答した人の割合が高い分野は、「⑤学校教育の場」(60.8%)、「⑨地域活動」(35.9%)、「⑦法律・制度」(35.3%)の順となっている。

それ以外の分野では『男性優遇』(「男性が非常に優遇」と「どちらかといえば男性が優遇」の合計)の傾向が強い。特に「⑥政治の場」が76.5%、「⑧社会通念」が71.5%、「⑩社会全体」が65.7%となっており、これらの分野では男性優遇の傾向が顕著である。





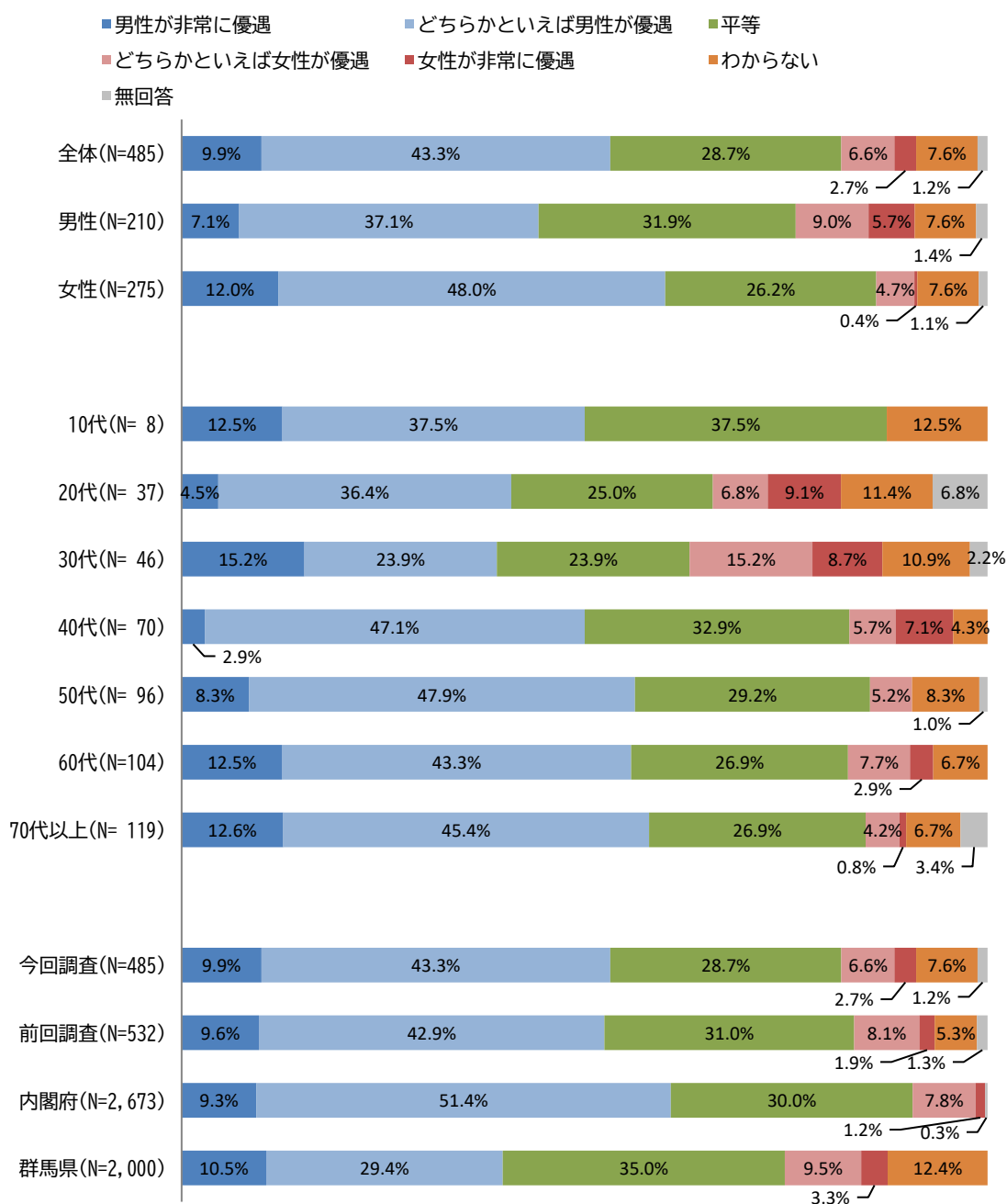
【問1 分野ごとの集計】

①家庭生活の場で

『男性優遇』が5割を超え、女性のほうが不平等感を持っている。

全体の回答では『男性優遇』（「男性が非常に優遇」と「どちらかといえば男性が優遇」の合計）が過半数(53.2%)を占め、次いで「平等」が28.7%となっている。

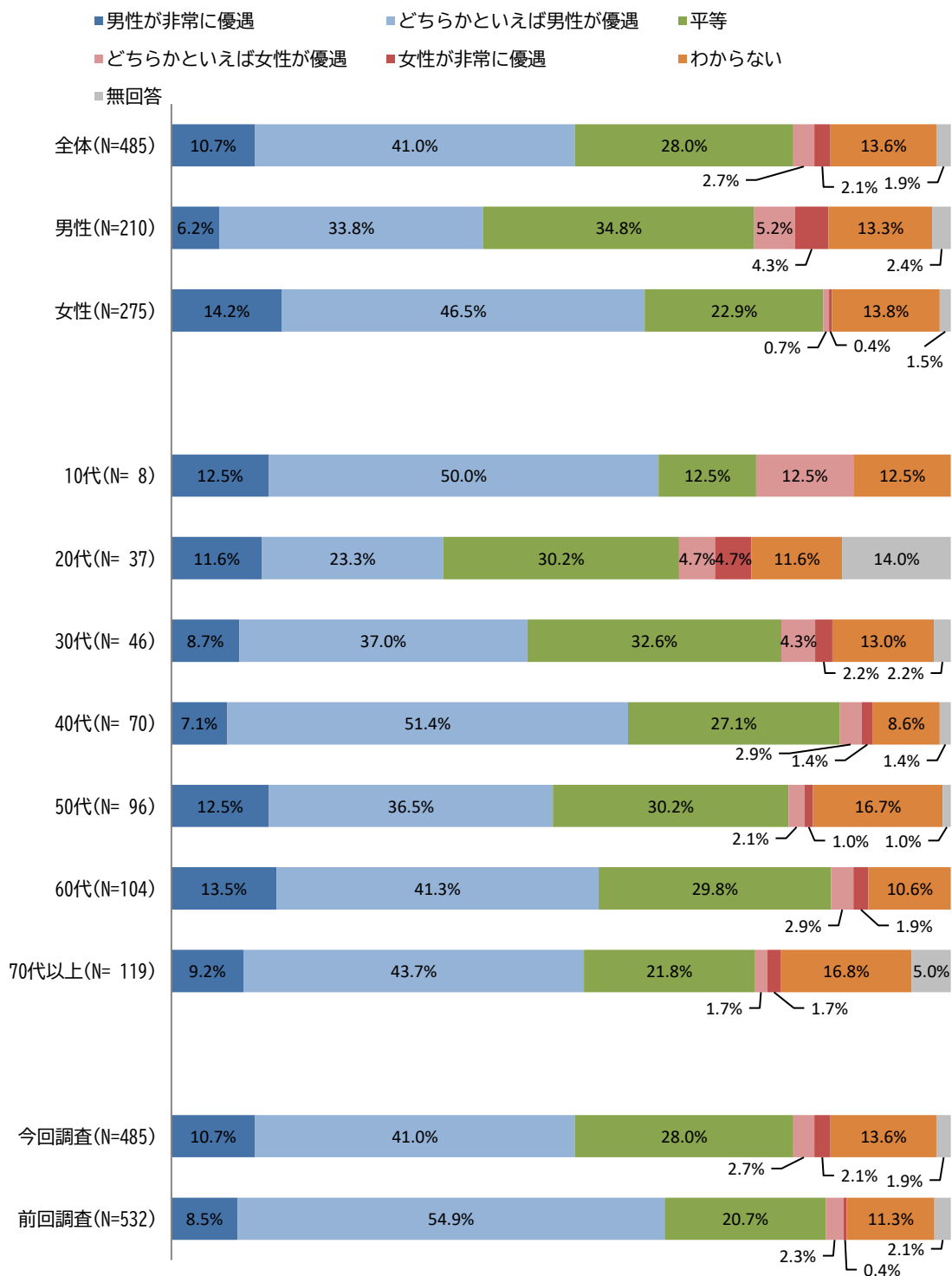
男性の回答では『男性優遇』が44.2%、「平等」が31.9%となっているのに対し、女性の回答では『男性優遇』が60.0%、「平等」が26.2%となっており、性別による意識の差が見られる。



②就職活動の場で

『男性優遇』が約5割を超え、女性のほうが不平等感を持っている。

全体では『男性優遇』が51.7%と過半数を占め、次いで「平等」が28.0%となっている。男性は『男性優遇』が40.0%、「平等」が34.8%に対し、女性は『男性優遇』が60.7%、「平等」が22.9%となっており、性別による意識の差が見られる。

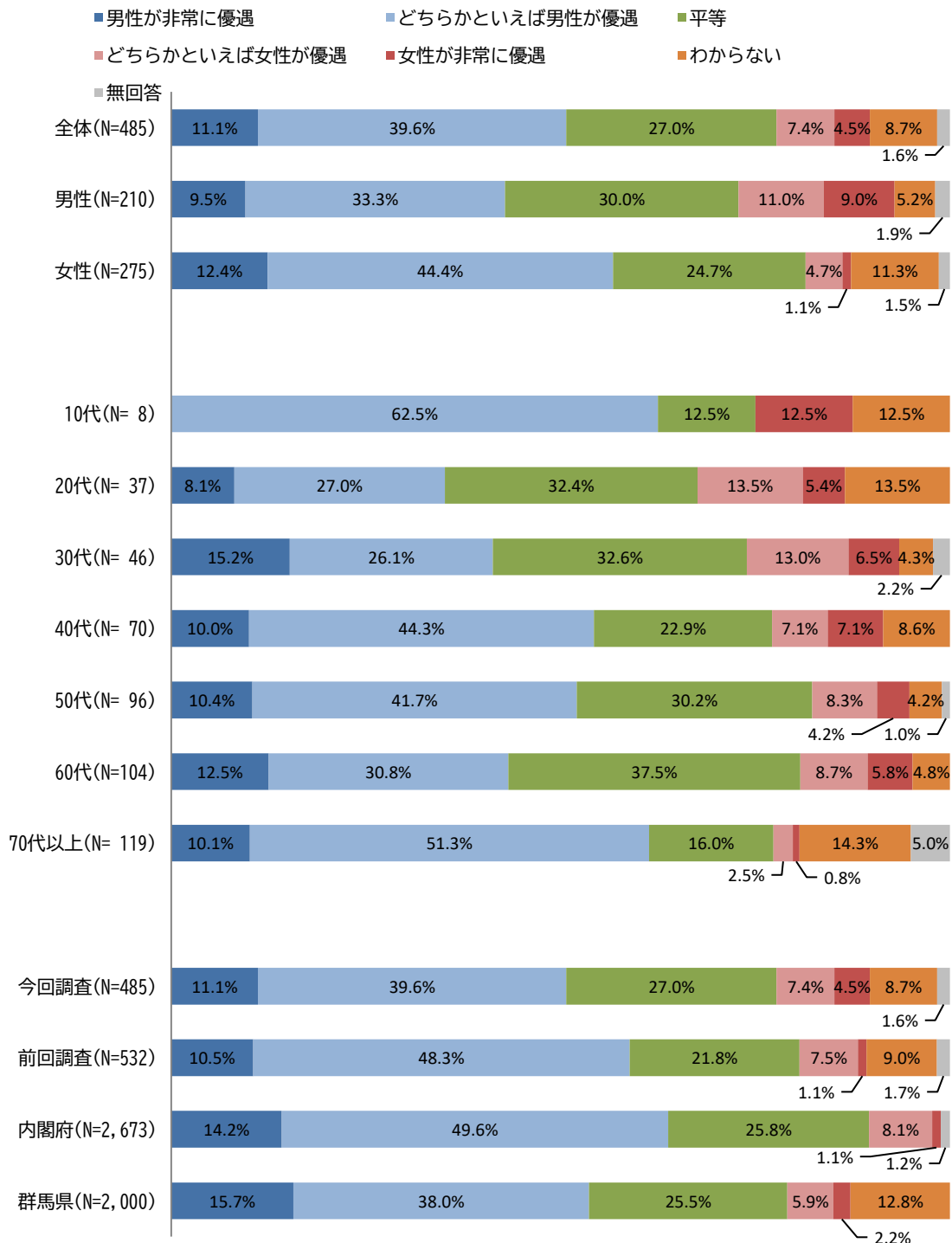


③職場環境の面で

『男性優遇』が5割を超え、前回よりも平等感がやや強くなっている。

前回調査では、『男性優遇』と答えた割合が58.8であったのに対し、今回調査では50.7と8.1ポイント低下した。

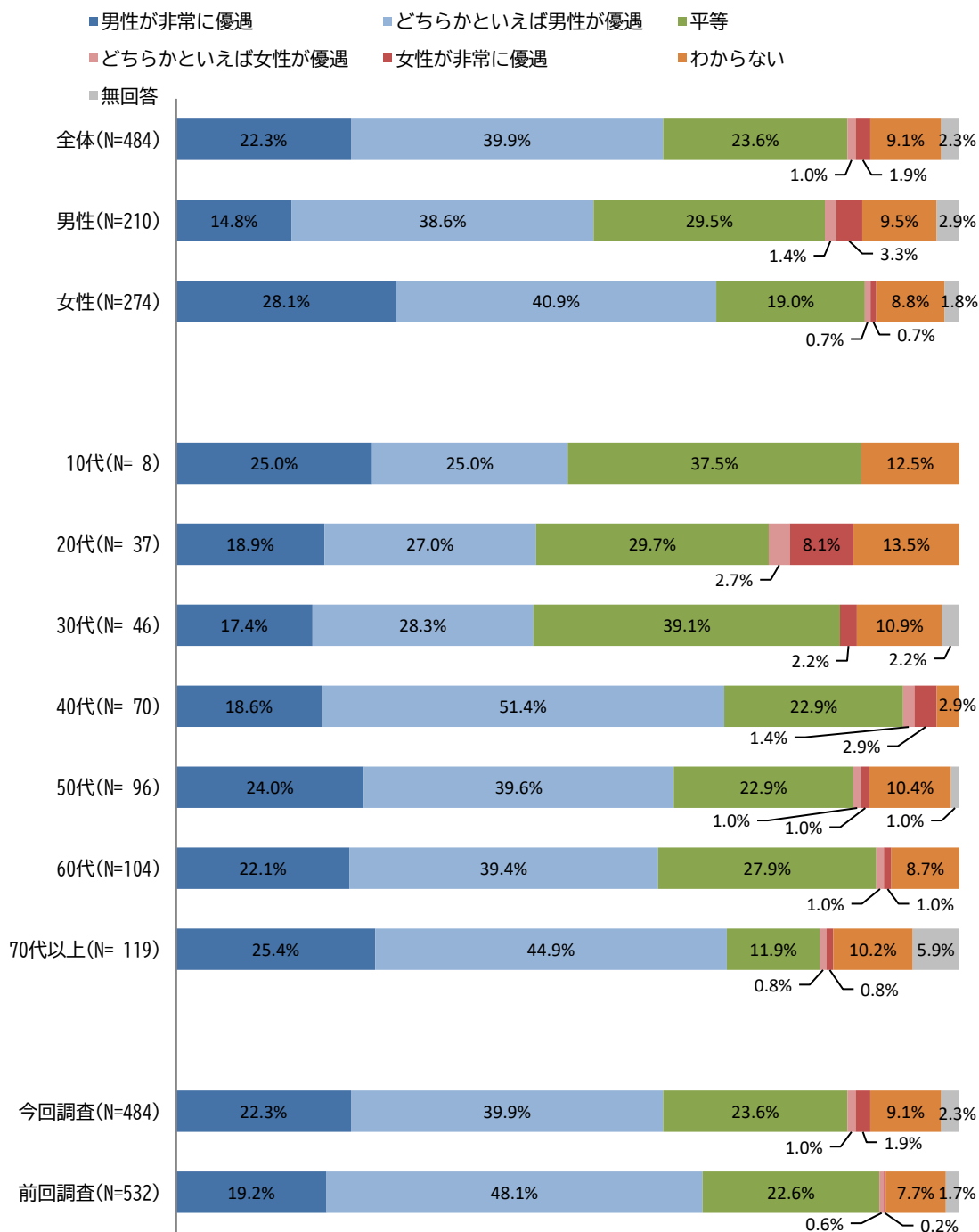
また、「平等」の割合は前回が21.8%、今回は27.0%であり、男性優遇の意識が薄れ、平等感がやや強まっている。



④賃金・報酬の面で

『男性優遇』が6割を超え、40代～70代で割合が特に高い。

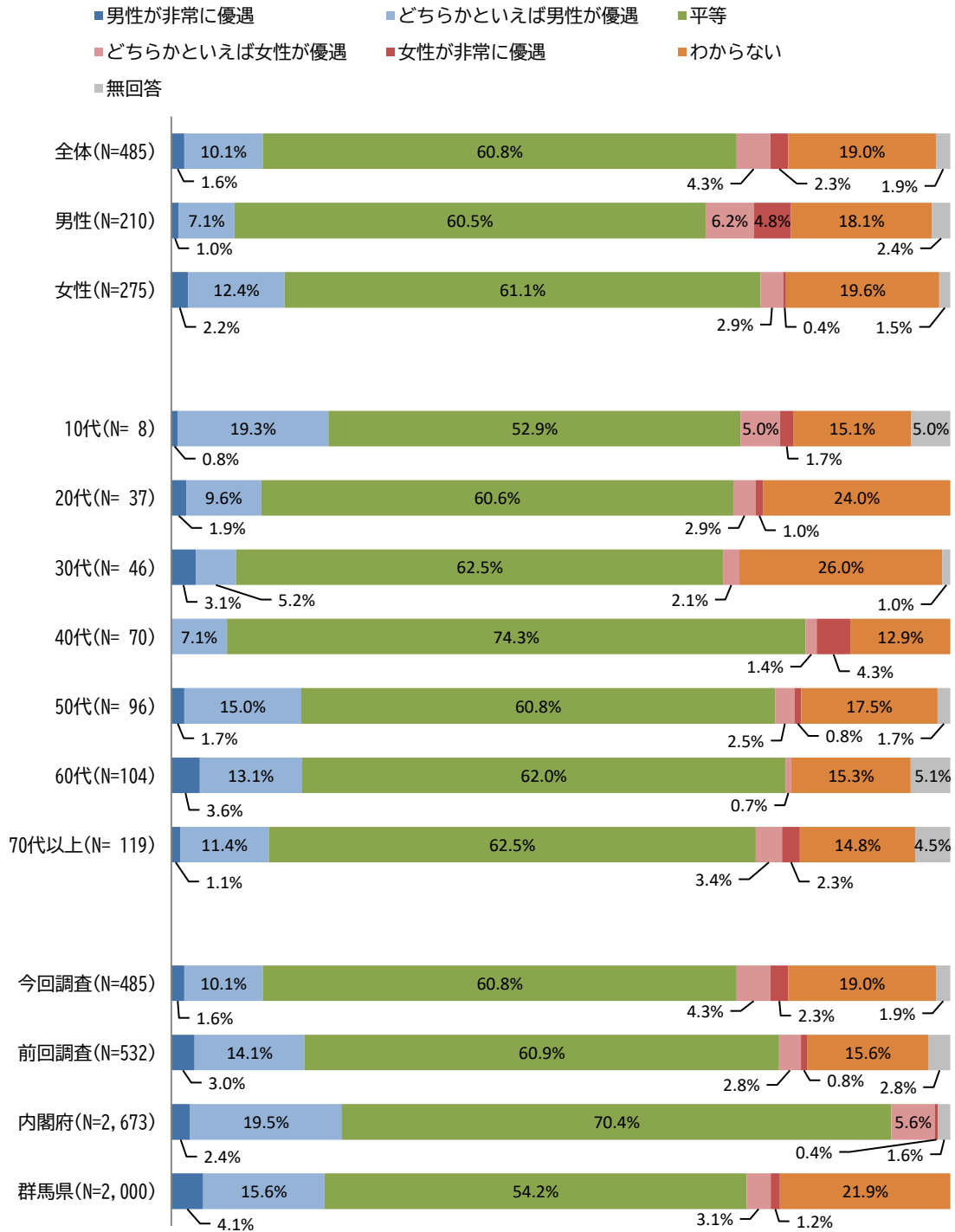
年代別に見ると、40代～70代の『男性優遇』と答えた割合は、6割を超えている。また、男女別で見ると、女性の回答は『男性優遇』の割合が高く、約7割となっている。一方で若年世代である10代及び30代では、「平等」と回答した人が4割前後となっている。



⑤学校教育の場で

「平等」が6割を超え、性別、年代を問わず割合が高い。

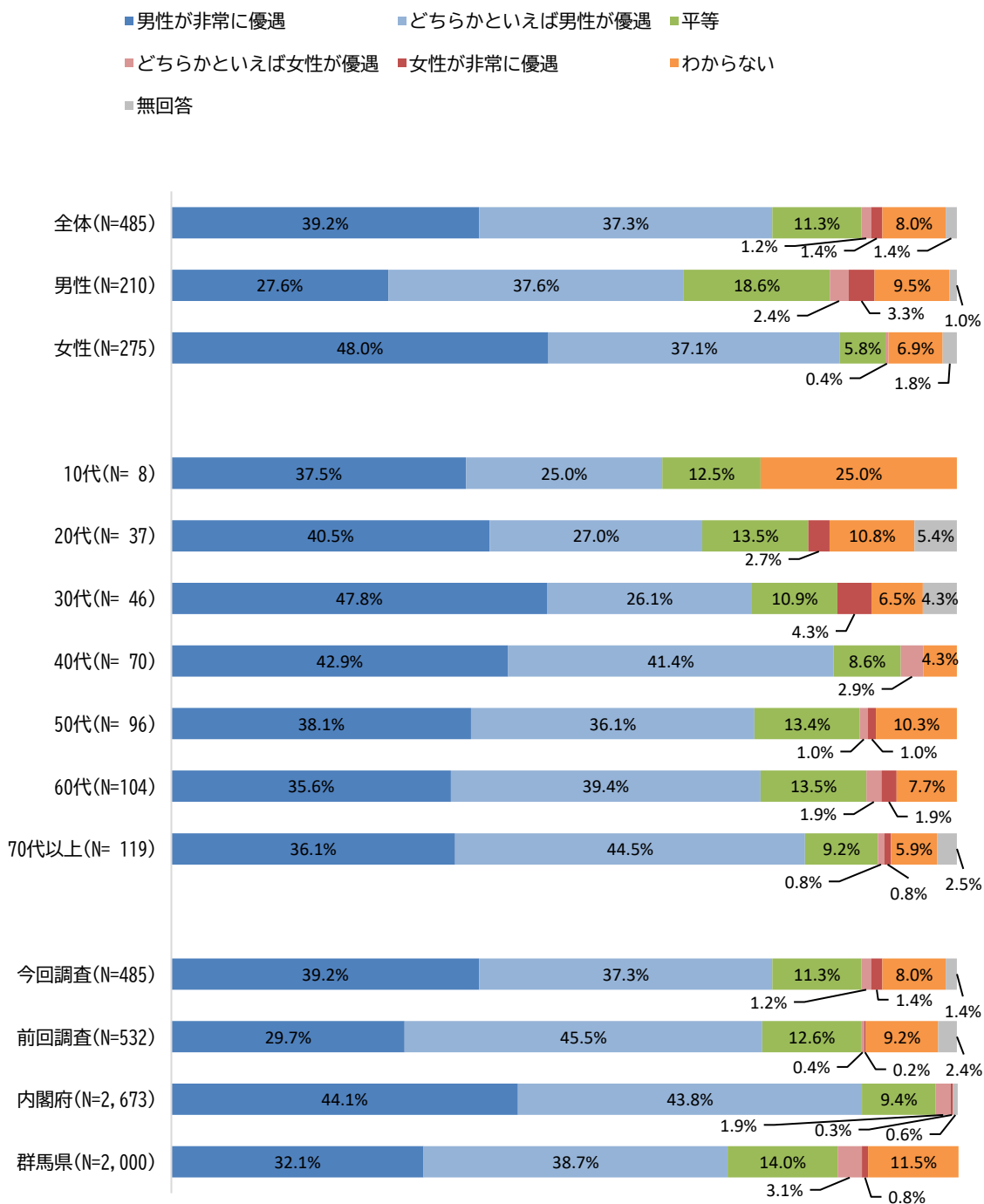
男女別・年代別にみても「平等」の割合が高い。今回調査で「平等」と答えた割合は、内閣府と比較すると、9.6ポイント低くなっている。



⑥政治の場で

『男性優遇』が約8割で、女性のほうが不平等感を持っている。

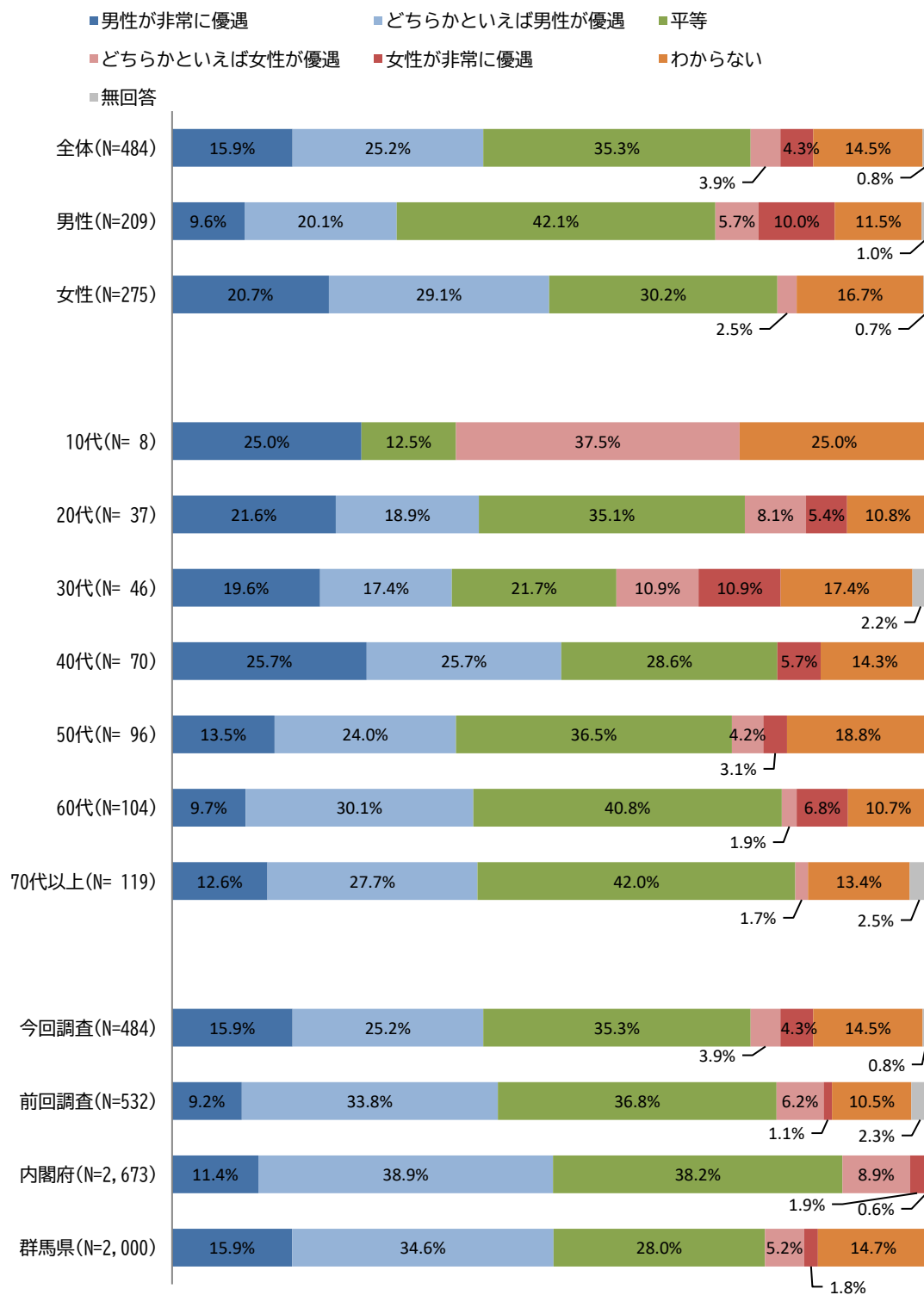
男女別・年代別にみても『男性優遇』の割合が過半数を超えている。「平等」の割合は、男性の回答が18.6%であるのに対し、女性の回答は5.8%と12.8ポイント低くなっており、男性よりも女性のほうが不平等感を持っている。



⑦法律や制度の上で

『男性優遇』が4割を超えるが、男性では「平等」が『男性優遇』を上回る。

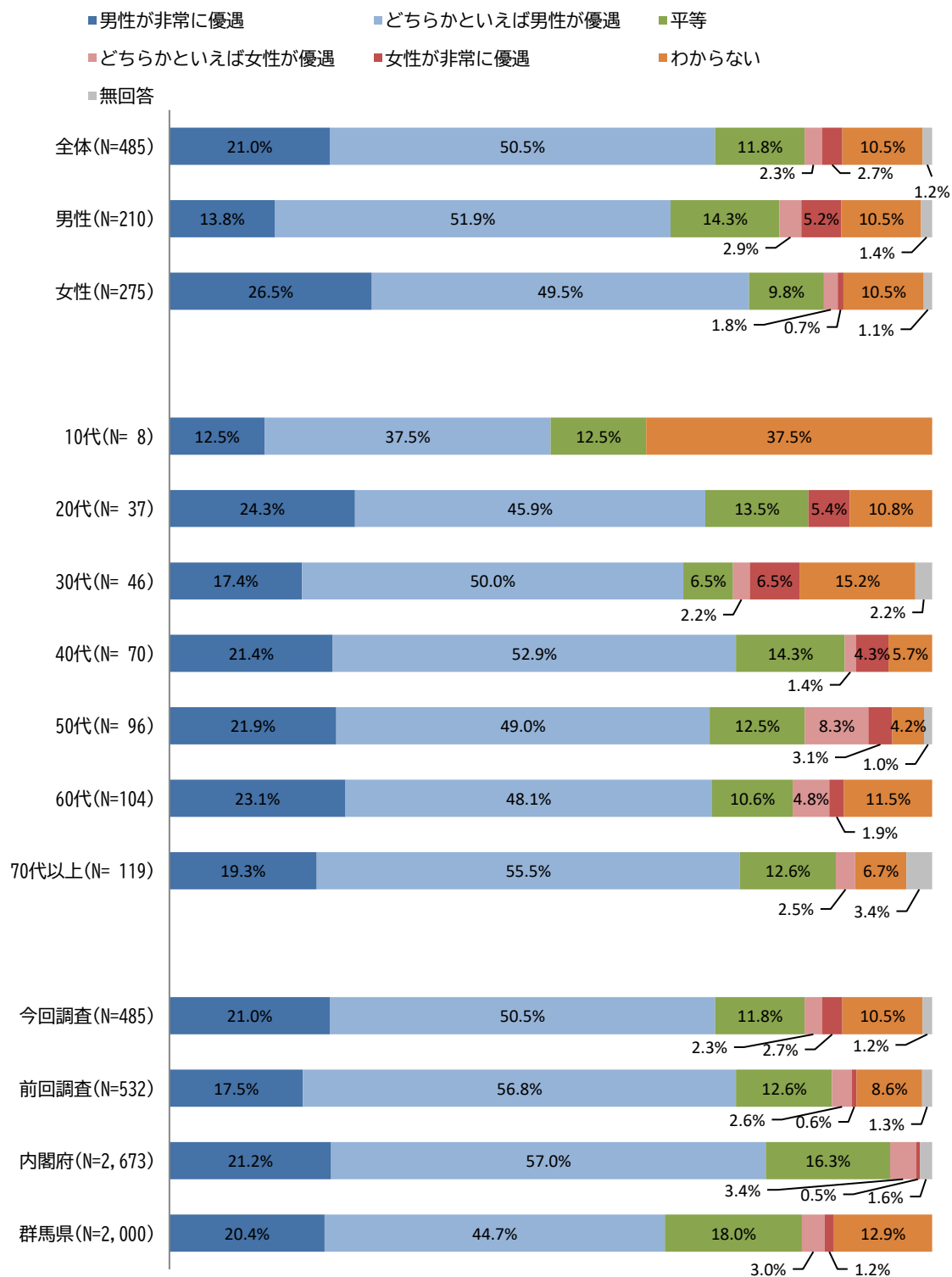
男性は「平等」(42.1%)が最も高く、『男性優遇』(29.7%)を上回っているのに対し、女性は『男性優遇』(49.8%)が最も高く、「平等」(30.2%)を上回っており、性別による意識の差が見られる。



⑧社会通念・習慣・しきたりなどで

『男性優遇』が7割を超え、女性のほうが不平等感を持っている。

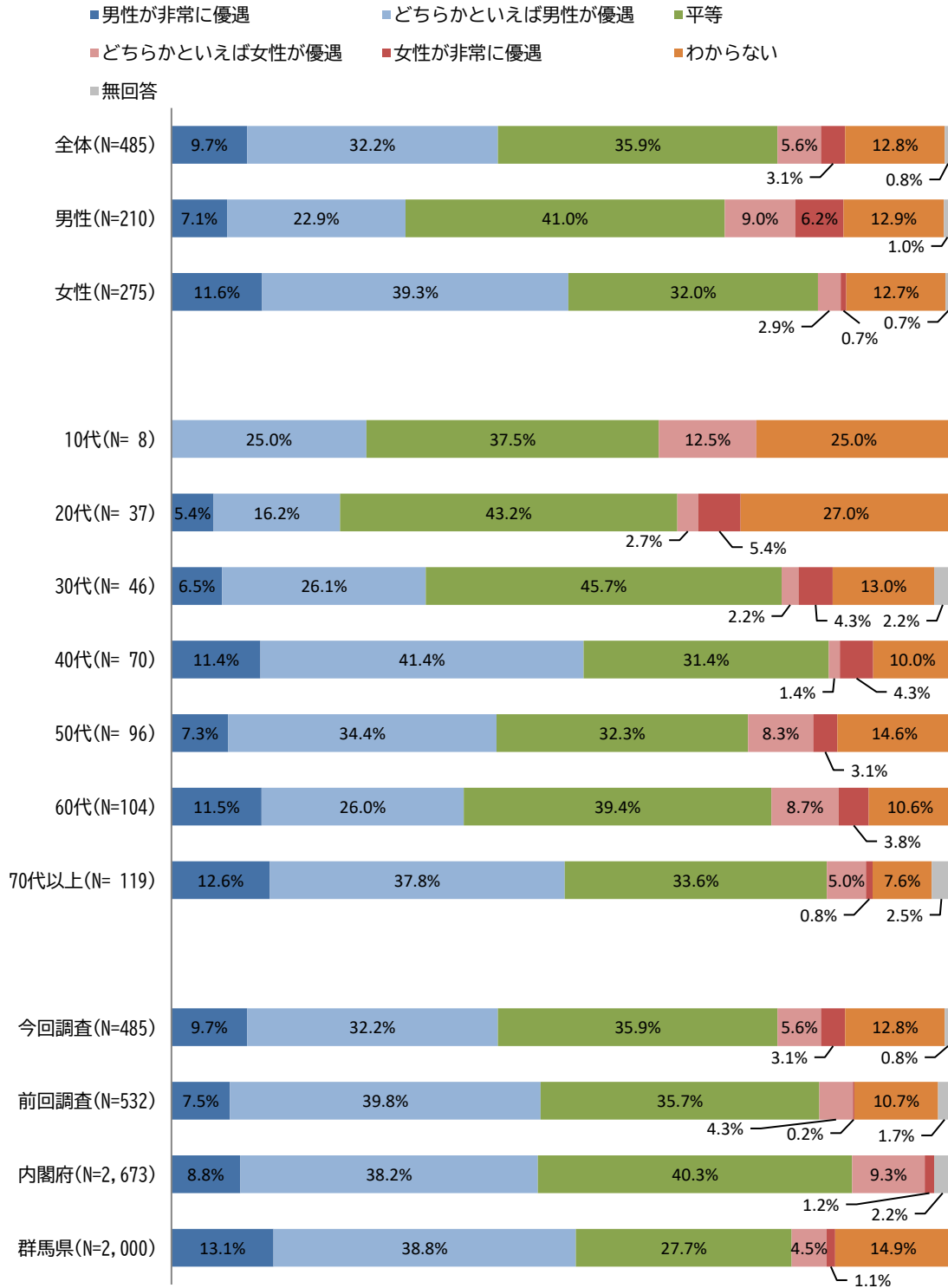
全体では『男性優遇』の割合が71.5%となっており、前回調査の74.3%よりも若干低くなっているものの、女性では76.0%と高い数値を示しており、女性4人のうち3人以上は『男性優遇』と回答している。



⑨地域活動の場で

『男性優遇』が4割を超えるが、男性では「平等」が『男性優遇』を上回る。

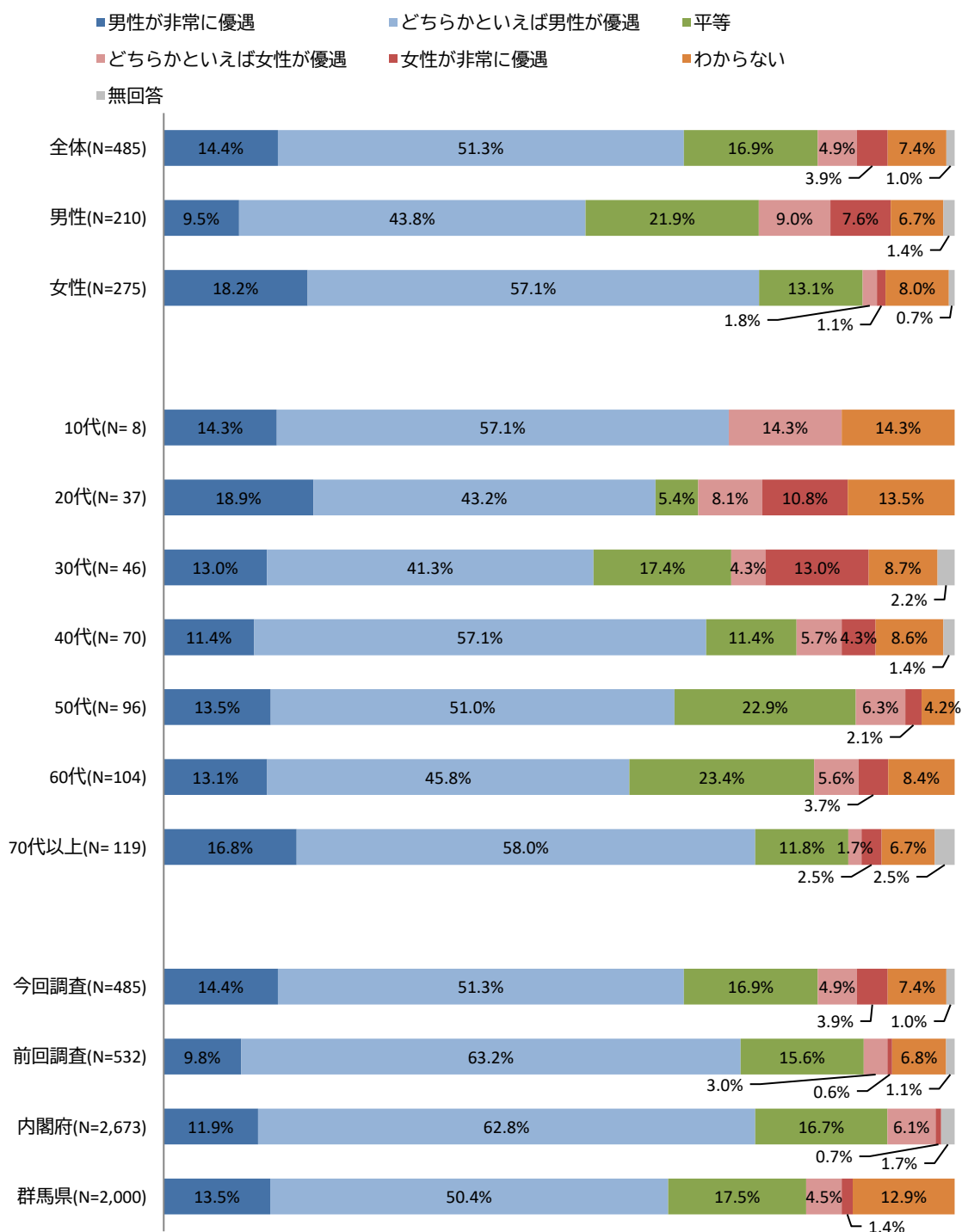
『男性優遇』と答えた人の割合は41.9%で、前回調査の47.3%に比べて若干低下している。「平等」と答えた男性の割合は、41.0%であり、『男性優遇』（30.0%）を上回っている。



⑩社会全体で

『男性優遇』が約7割で、女性のほうが不平等感を持っている。

全体では『男性優遇』の割合は65.7%となっており、前回調査の73.0%と比べ若干低い。また、『男性優遇』と回答した女性の割合は75.3%と非常に高く、年代別に見ても、すべての年代において『男性優遇』の割合が高い。

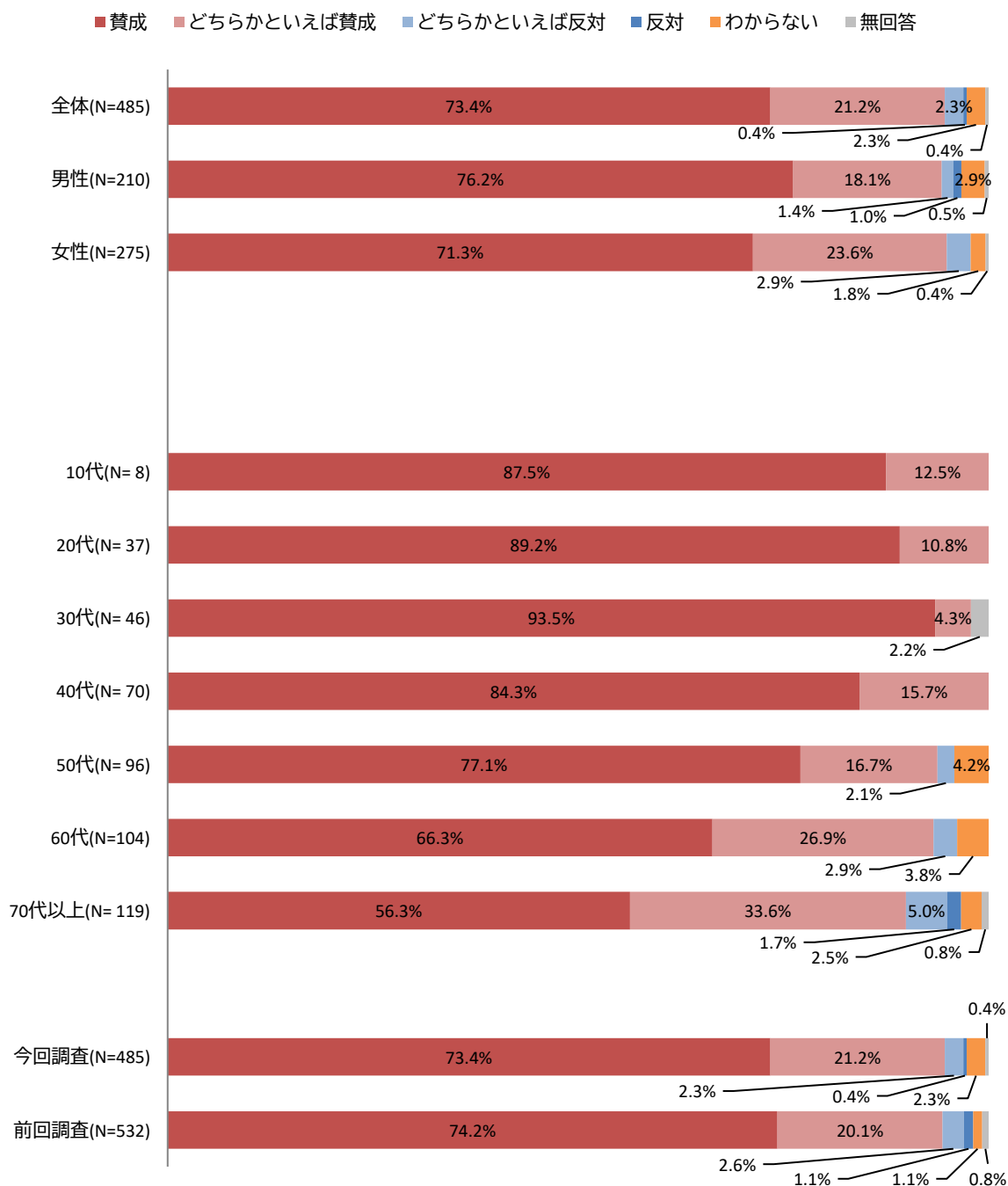


問2 あなたは、結婚に関する次の①～⑦の考え方についてどう思いますか。

①結婚する、しないは個人の自由である

『賛成』が9割を超え、性別、年代を問わず割合が高い。

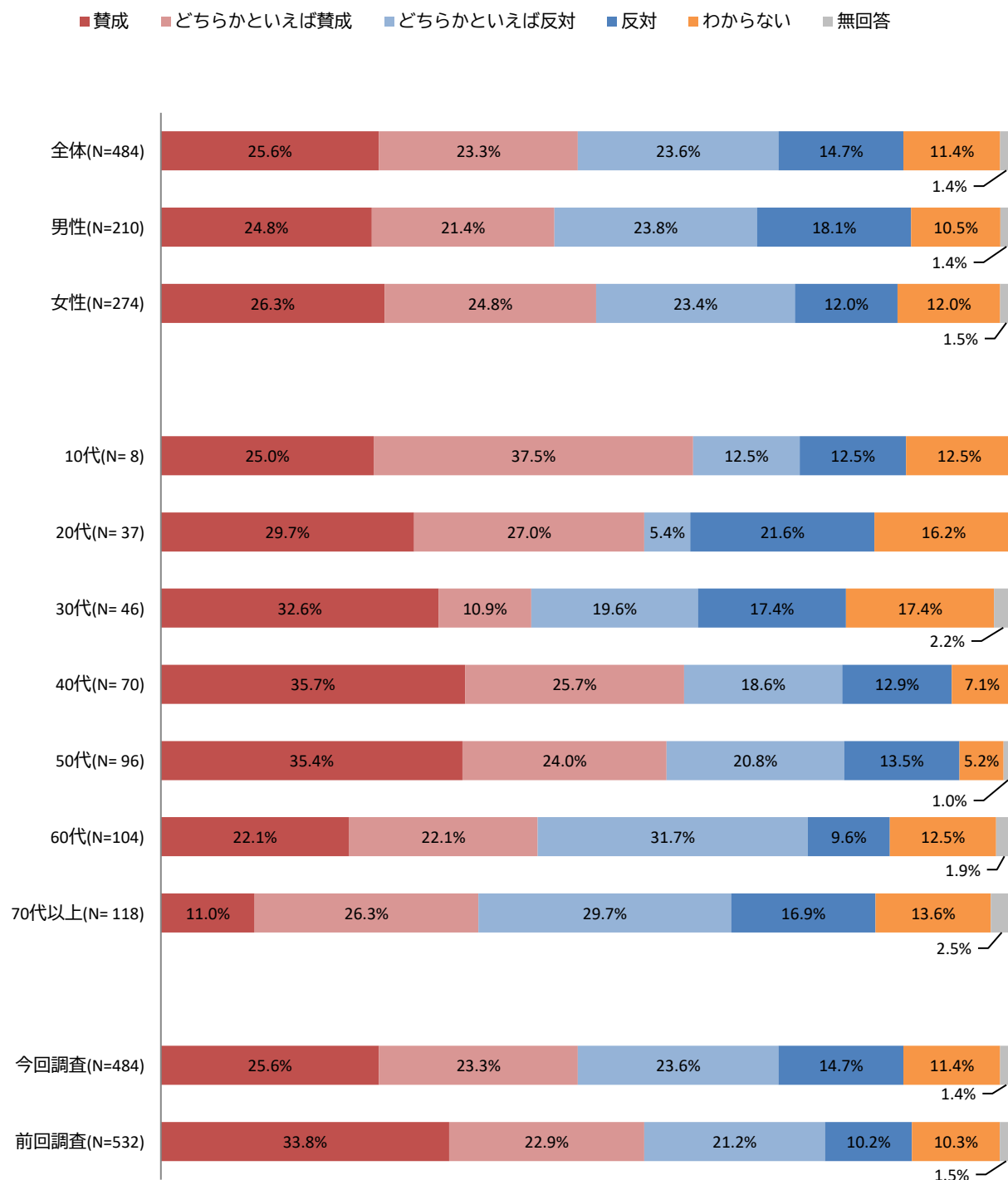
性別・年代別問わず『賛成』（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計）が大多数となっている。年代別に見ると、10代、20代、40代は『賛成』が100%である。



②夫婦は別々の姓を名乗っても構わない

『賛成』が約5割だが、70代以上では『反対』が『賛成』を上回る。

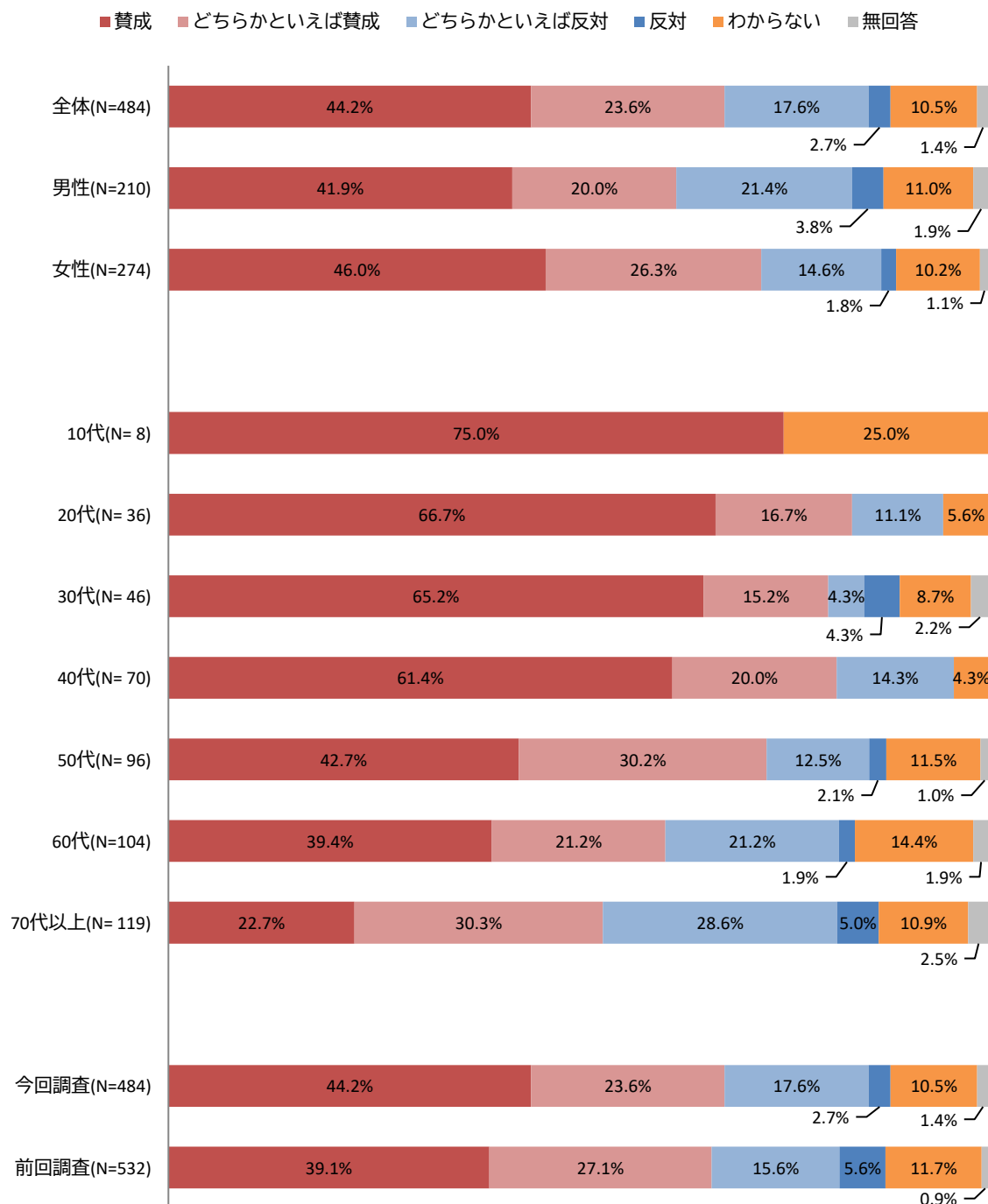
全体では『賛成』(48.9%)が前回調査(56.7%)を下回った。また、男性よりも女性のほうが夫婦別姓に『賛成』する割合が高い。なお、70代以上の『反対』(46.6%)が『賛成』(37.3%)を上回っている。



③結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない

『賛成』が約7割で、女性のほうが『賛成』の割合が高い。

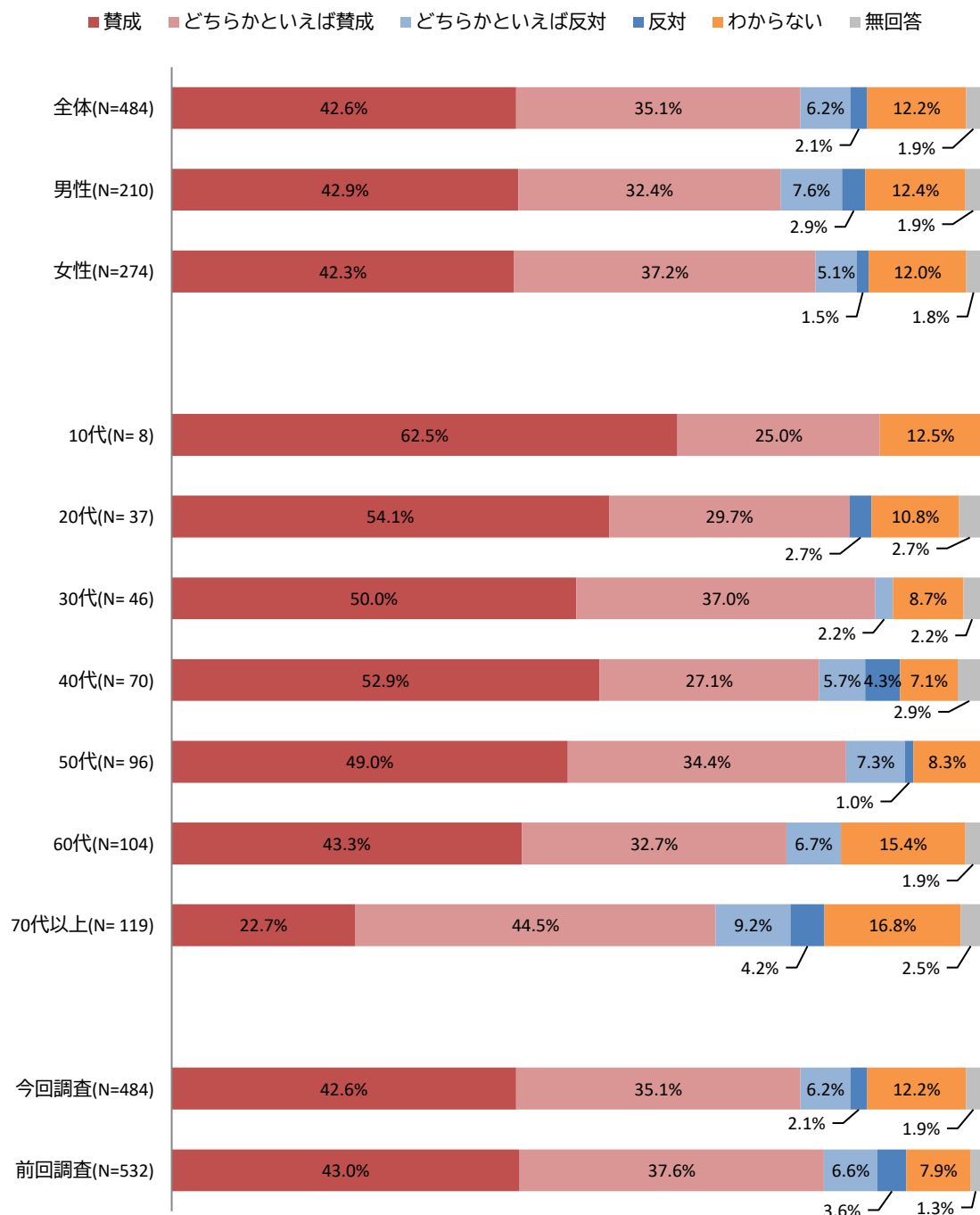
全体では『賛成』(67.8%)のほうが『反対』(20.3%)を大きく上回っている。また、男女別では、『賛成』と答えた男性が61.9%、女性が72.3%と、女性のほうが『賛成』の割合が高い。



④愛情や信頼がなくなれば離婚するのもやむを得ない

『賛成』が約8割で、性別、年代を問わず割合が高い。

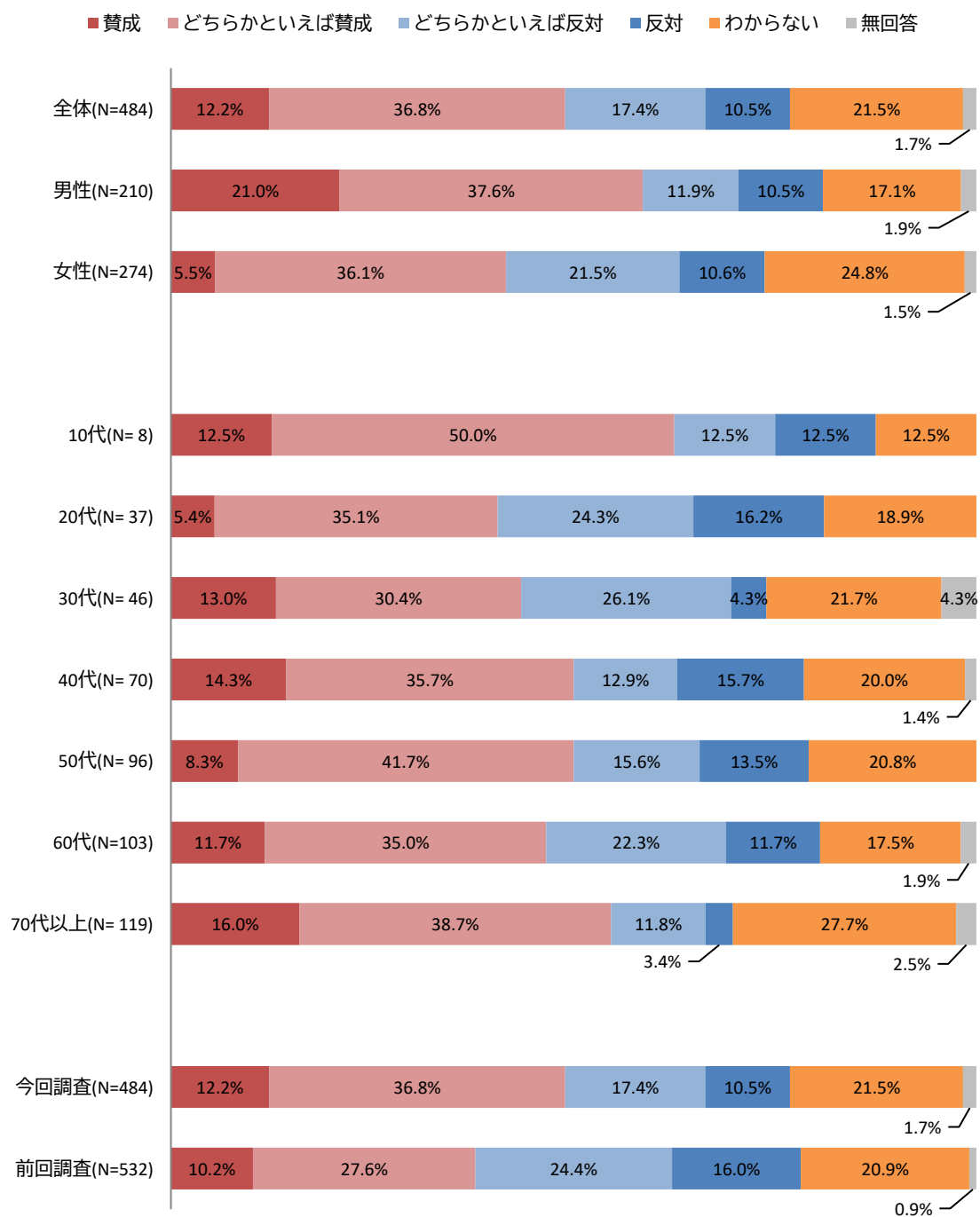
全体では『賛成』(77.7%)となっており、男性より女性のほうが『賛成』の割合が高い(男性75.3%、女性79.5%)ものの、性別や年代を問わず『賛成』の傾向は強い。



⑤子どもがいたら離婚しないほうがよい

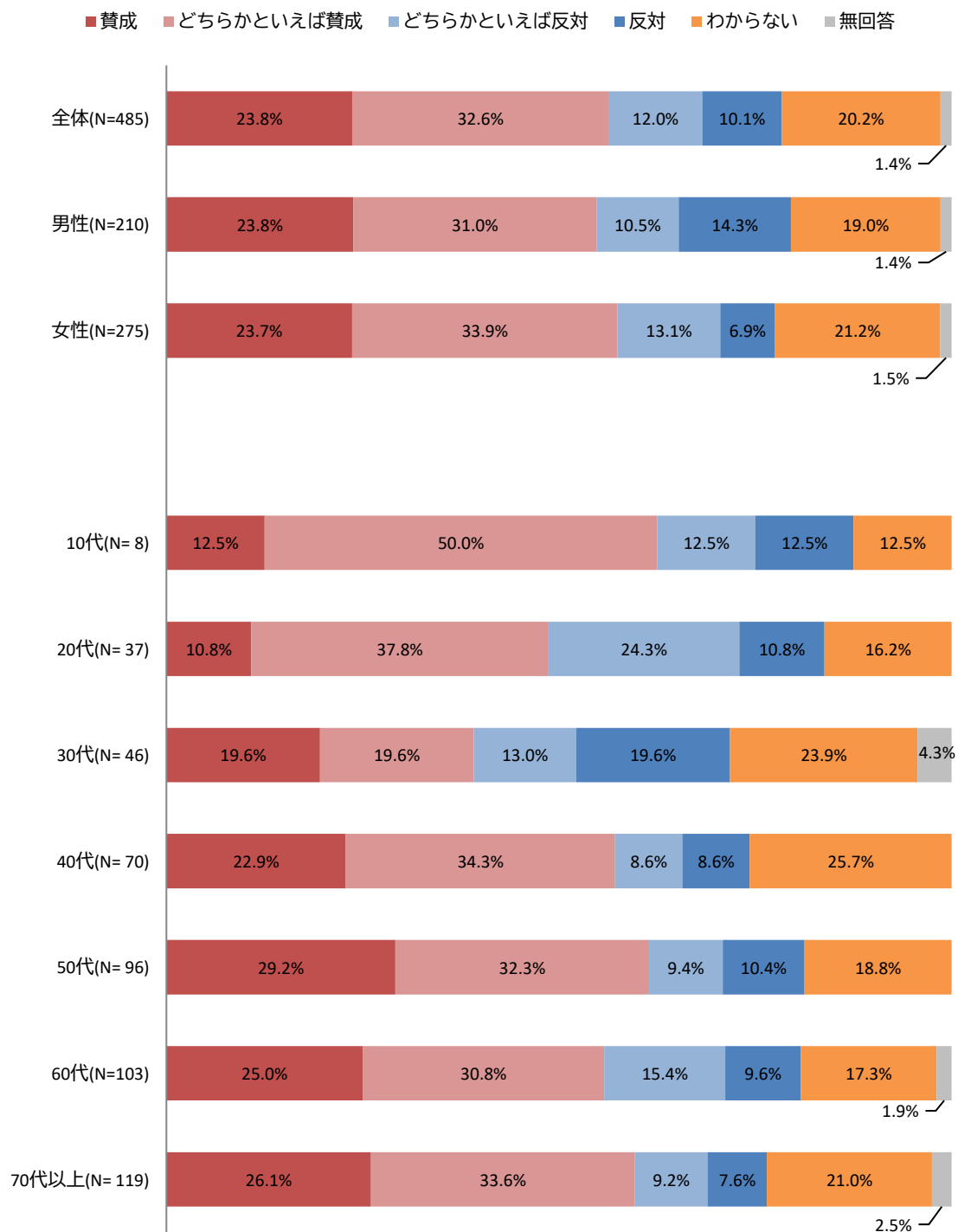
『賛成』が約5割で、男性のほうが『賛成』の割合が高い。

全体では『賛成』(49.0%)が『反対』(27.9%)より高くなっている。前回調査では『賛成』(37.8%)より『反対』(40.4%)が高かったことから、『賛成』の傾向がやや強まっている。また男女別で見ると、男性(58.6%)が女性(41.6%)を大きく上回っている。



『賛成』が約6割だが、20代・30代では他の年代と比べて『反対』の割合がやや高い。

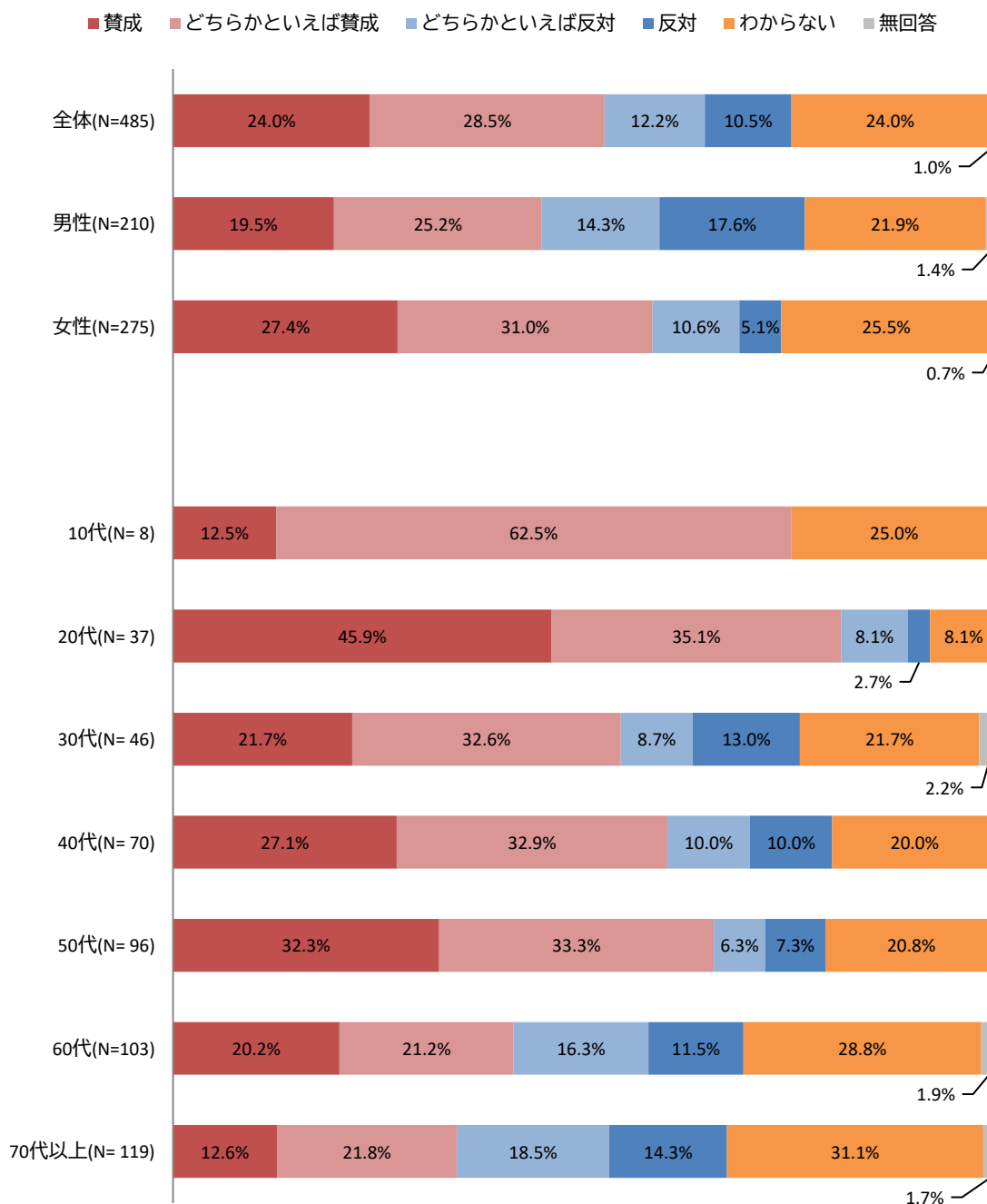
全体では『賛成』が過半数(56.4%)を超え、『反対』(22.1%)を大きく上回っている。また年代別に見ると、20・30代の反対の割合は3割を超え、やや高くなっている。



⑦同性同士の結婚も法律に基づく結婚と同様に理解され、制度なども利用できるとよい 新規

『賛成』が5割を超え、10代・20代で『賛成』の割合が特に高い。

全体では『賛成』が過半数（52.5%）を占めている。年代別に見ると、10代（75.0%）、20代（81.0%）と『賛成』の割合は非常に高くなっている。また、60代、70代以上の約3割が、『反対』としている。

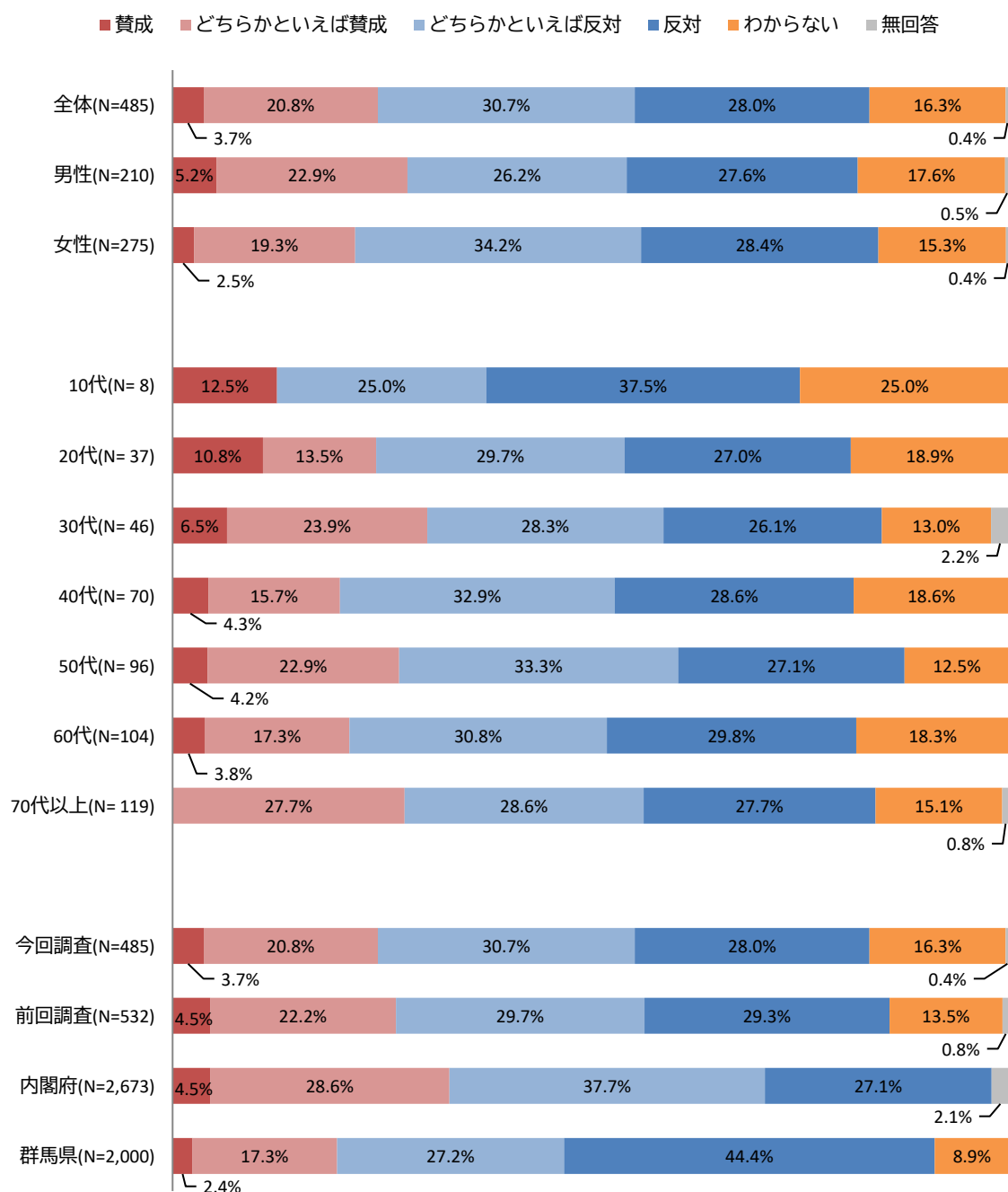


問3

(1) あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守る」働き方についてどう思いますか。

『反対』が約6割で、女性のほうが『反対』の割合がやや高い。

全体では、『反対』(58.7%)が『賛成』(24.5%)を大きく上回っている。男女別で見ると、女性(62.6%)のほうが男性(53.8%)よりも『反対』の割合が高い。

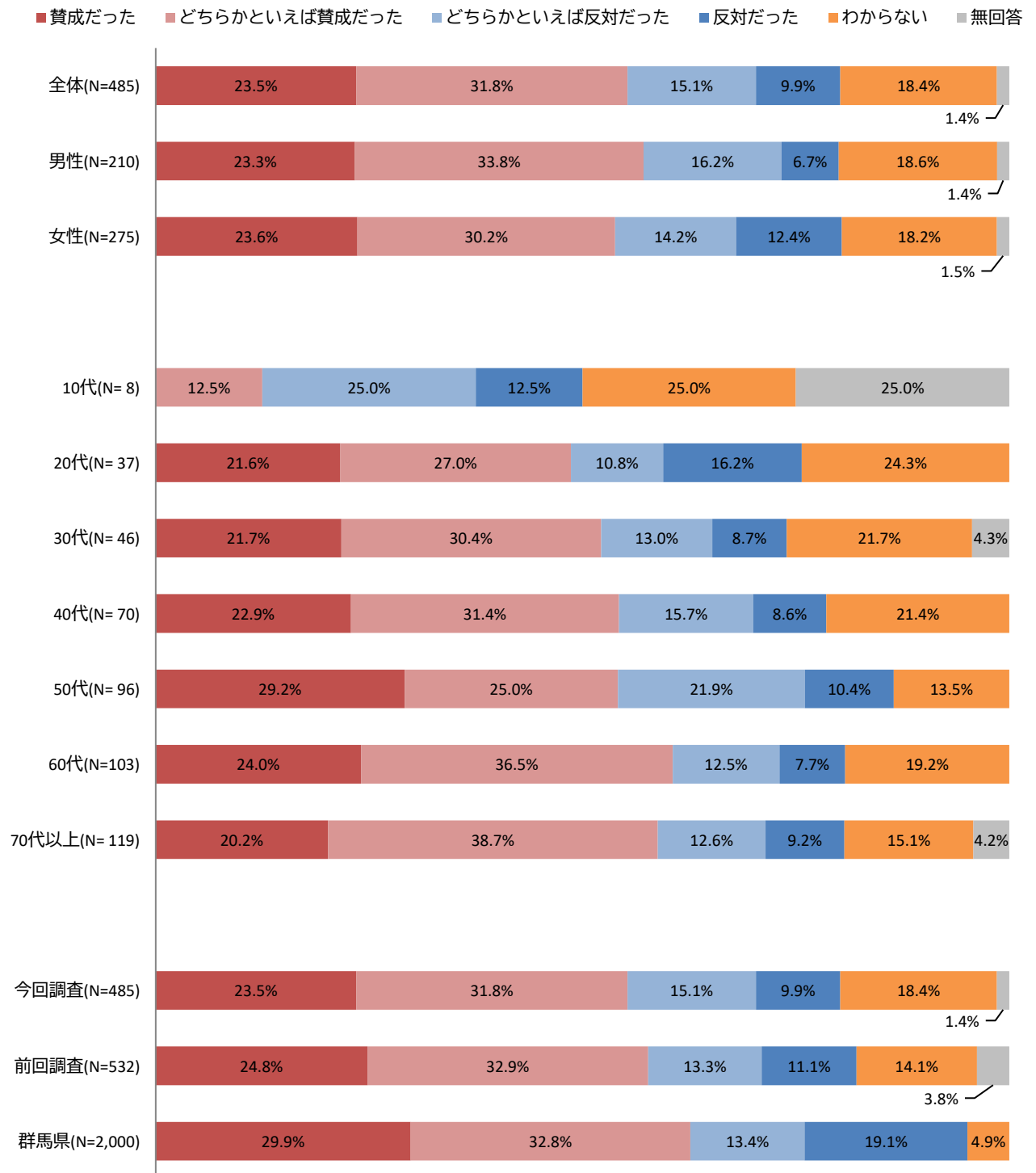


(2) (1) の内容について、子どものころ、あなたの家庭ではどのような考えでしたか。

『賛成』が約6割だが、群馬県調査と比べてやや低い。

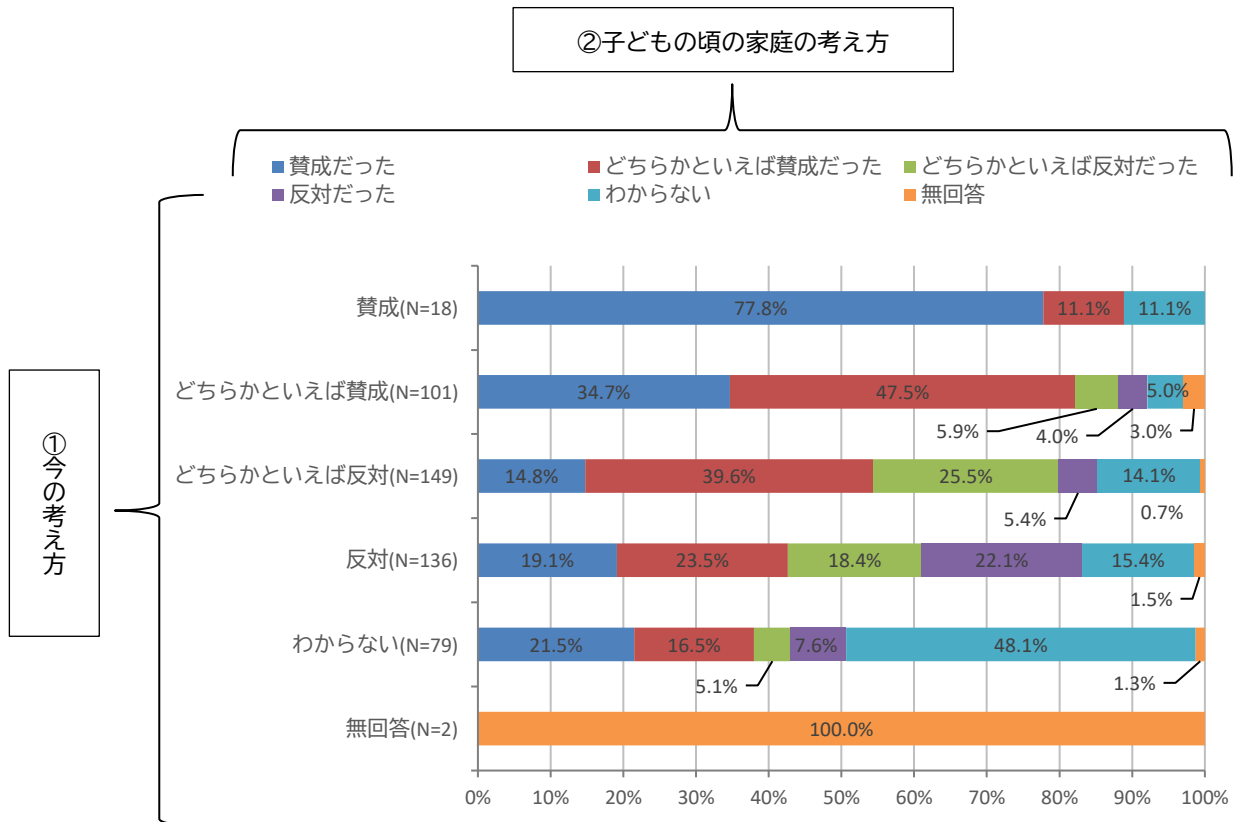
『賛成』と回答した人の割合がやや高い年代は、60代(60.5%)、70代以上(58.9%)で、ともに6割前後となっている。

また群馬県調査と比較すると、『賛成』の割合は7.4ポイント低くなっている。



子どもの頃の家庭の男女の役割分担の状況が、成長後の考え方に影響している

「①今の考え方」と「②子どもの頃の家庭の考え方」の関係を見ると、子どもの頃「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という考え方に『賛成だった』家庭の場合、今の考え方も『賛成』と答える傾向が強い。

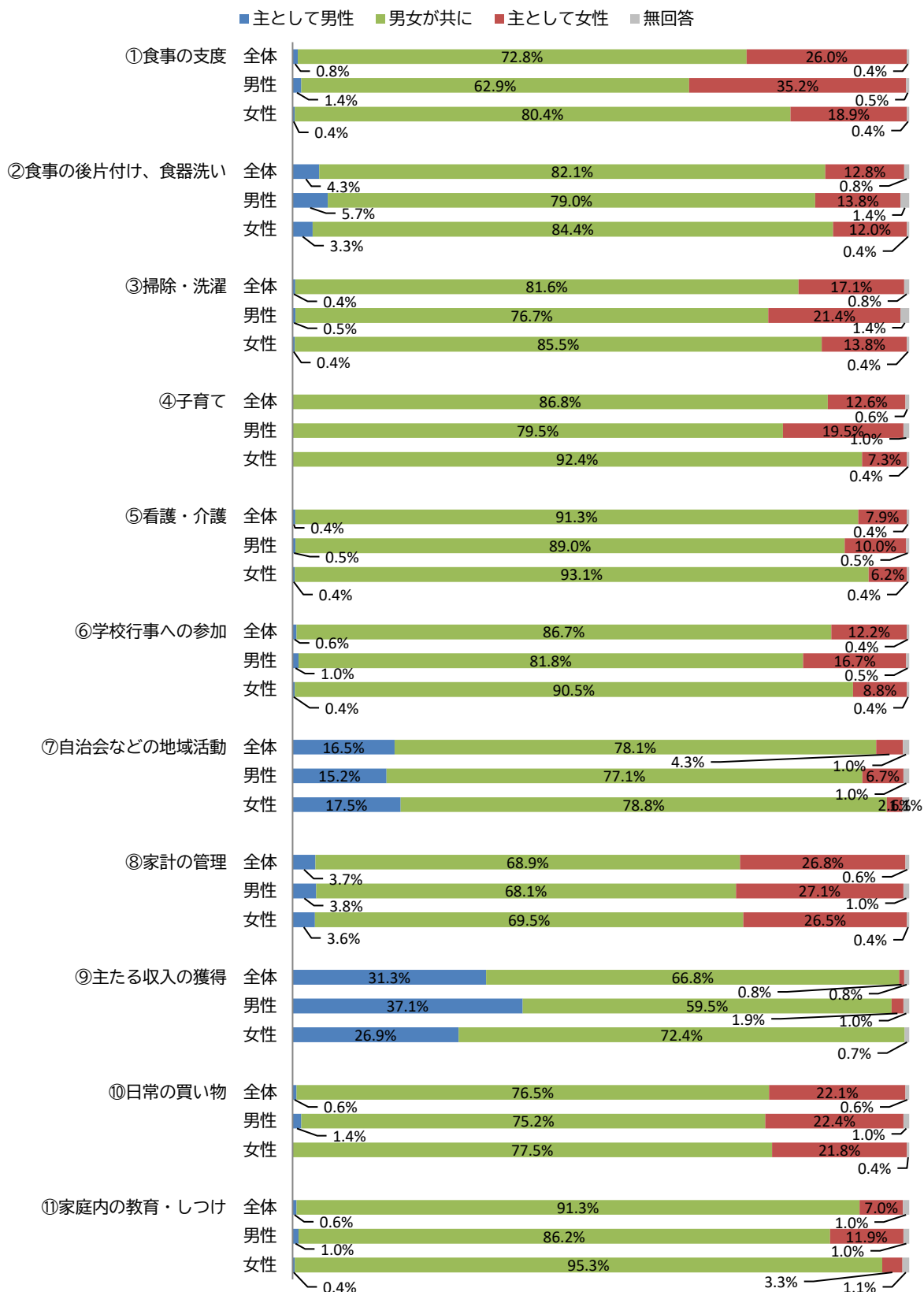


問4

(1) あなたは、次のような家庭内における理想の役割について、どのように担っていきたいと考えますか。

すべての項目で「男女が共に」が最も高く、11項目中9項目で7割を超えている。

家庭内の役割については、全体ではすべての項目で「男女が共に」が最も高く、『⑧家計の管理』と『⑨主たる収入の獲得』を除いては、7割以上となっている。『⑨主たる収入の獲得』では、「主として男性」(31.3%)が他の項目に比べて高くなっている。また、『⑧家計の管理』では、「主として女性」(26.8%)が他の項目に比べて高くなっている。



①②③④⑧ (全体N=485、男性N=210、女性N=275)

⑤⑦⑨⑩⑪ (全体N=484、男性N=210、女性N=274)

⑥ (全体N=483、男性N=209、女性N=274)

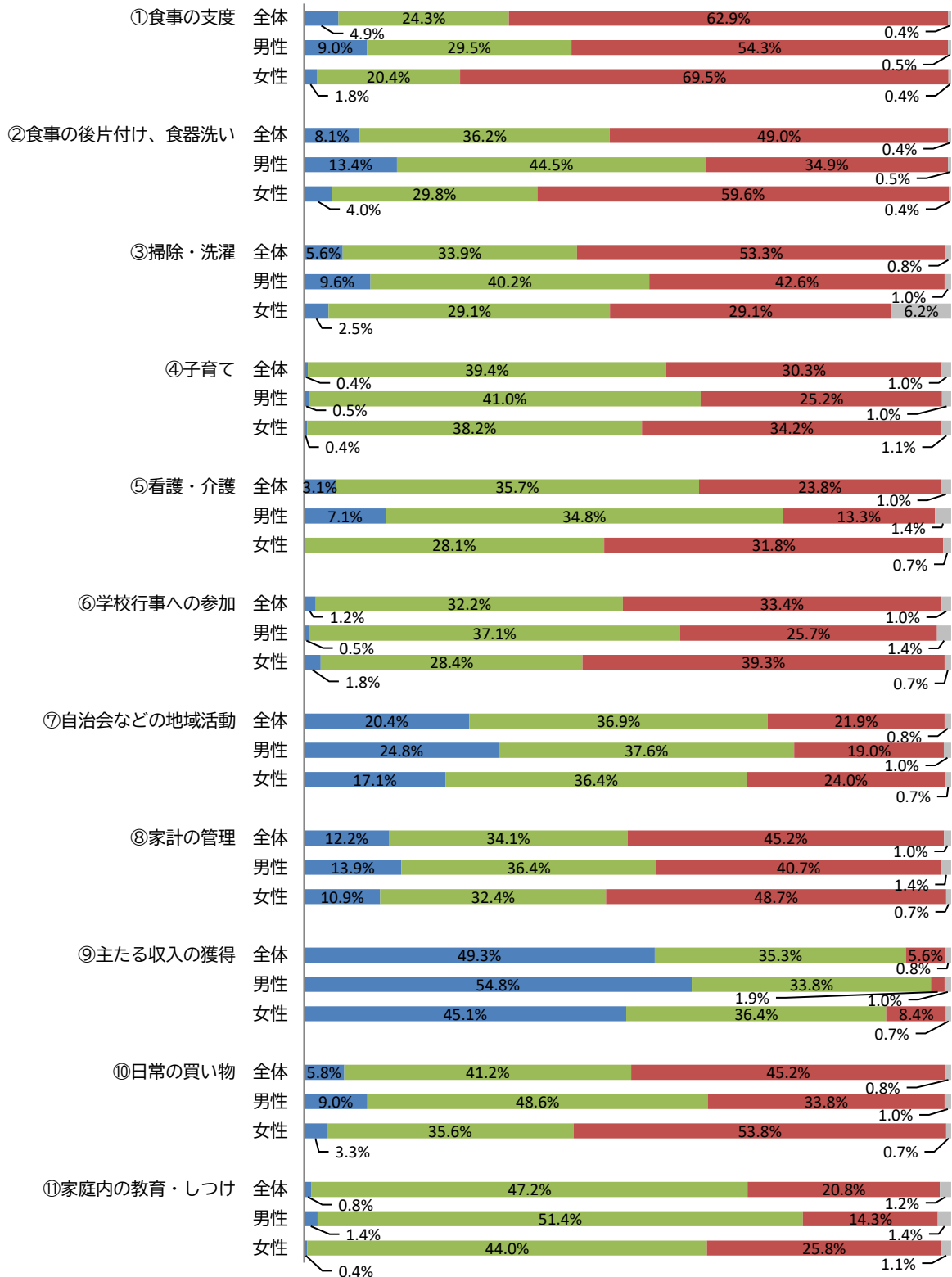
※新規調査項目：「⑩日常の買い物」

(2) あなたは、次のような家庭内における現状の役割について、どのように担っていきたいと考えますか。

11項目中6項目で「主として女性」が最も高く、4項目で「男女が共に」、1項目で「主として男性」が最も高くなっている。

家庭内の役割について、「主として女性」の割合が最も高いのは、全体では11項目中6項目となっている。また、「主として男性」の割合が最も高いのは、『◎主たる収入の獲得』（49.3%）の1項目のみである。

■主として男性 ■男女が共に ■主として女性 ■無回答



①④⑥⑦⑨⑩⑪ (全体N=485、男性N=210、女性N=275)

②③⑧ (全体N=484、男性N=209、女性N=275)

⑤ (全体N=484、男性N=210、女性N=274)

※新規調査項目：「⑩日常の買い物」

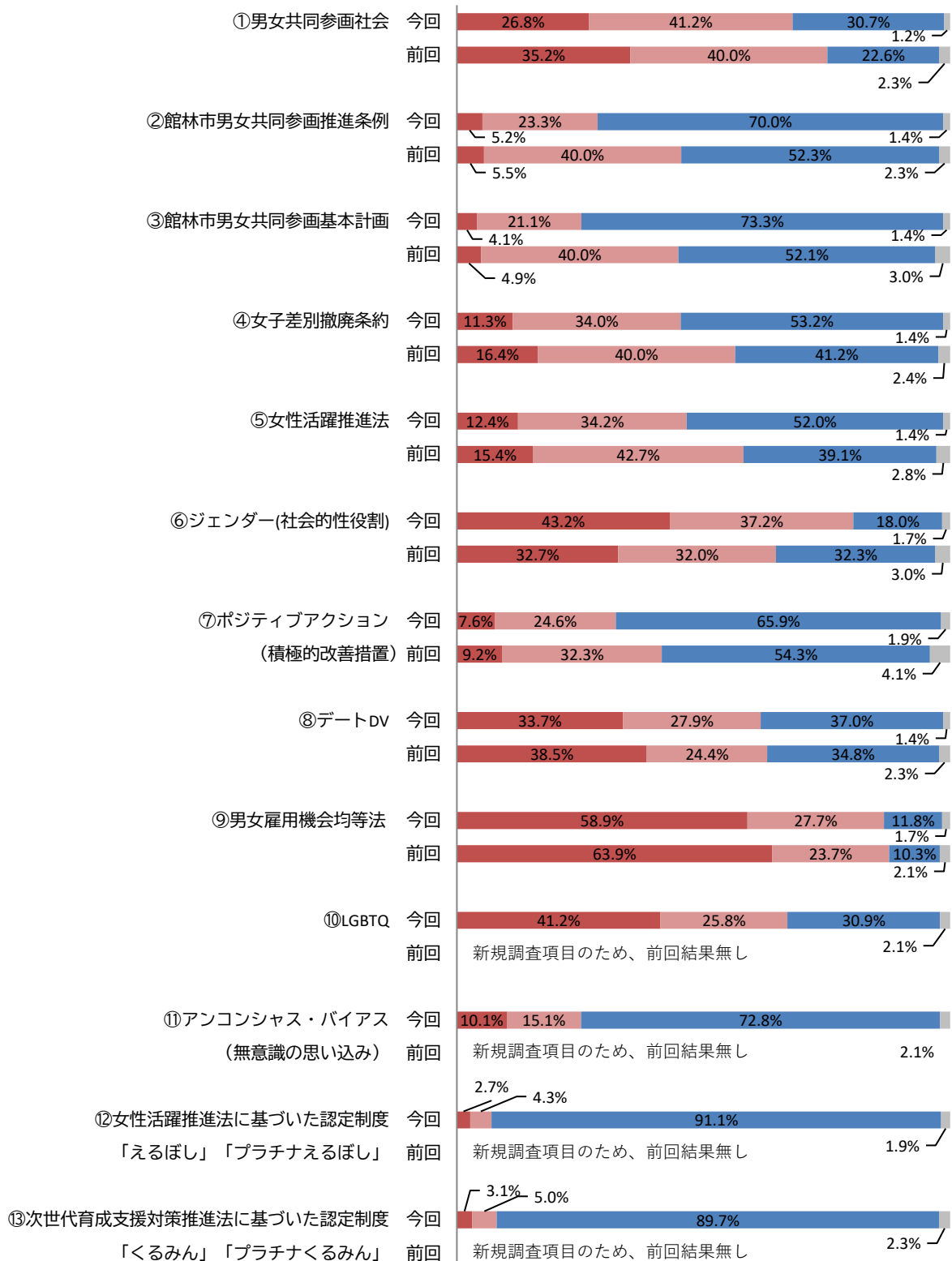
問5 あなたは、次の①～③の言葉や法律、市の事業についてどの程度知っていますか。

市の男女共同参画推進条例や基本計画、今回調査からの新規項目についての認知度は低い。

『知っている』（「知っている」と「聞いたことがある」の合計）は、『⑨男女雇用機会均等法』（86.6%）、『⑥ジェンダー（社会的性役割）』（80.4%）、『①男女共同参画社会』（68.0%）が高くなっている。

一方で、「知らない」は、『③館林市男女共同参画基本計画』（73.3%）、『②館林市男女共同参画推進条例』（70.0%）、『⑦ポジティブアクション（積極的改善措置）』（65.9%）が高く、これら3項目はすべて前回調査よりも「知らない」と答えた割合が高くなっている。

■知っている ■聞いたことがある ■知らない ■無回答



今回①④⑤⑩⑪⑫ (全体N=485、男性N=210、女性N=275)

今回②③⑥⑨⑬ (全体N=484、男性N=210、女性N=274)

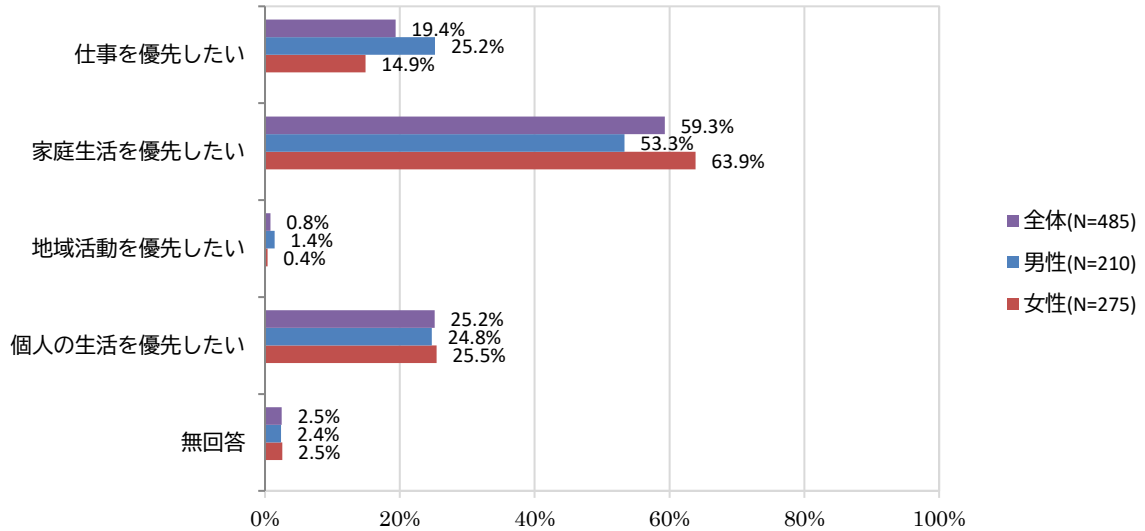
今回⑦⑧ (全体N=484、男性N=209、女性N=275)

前回 (全体N=532、男性N=228、女性N=300、その他N=2)

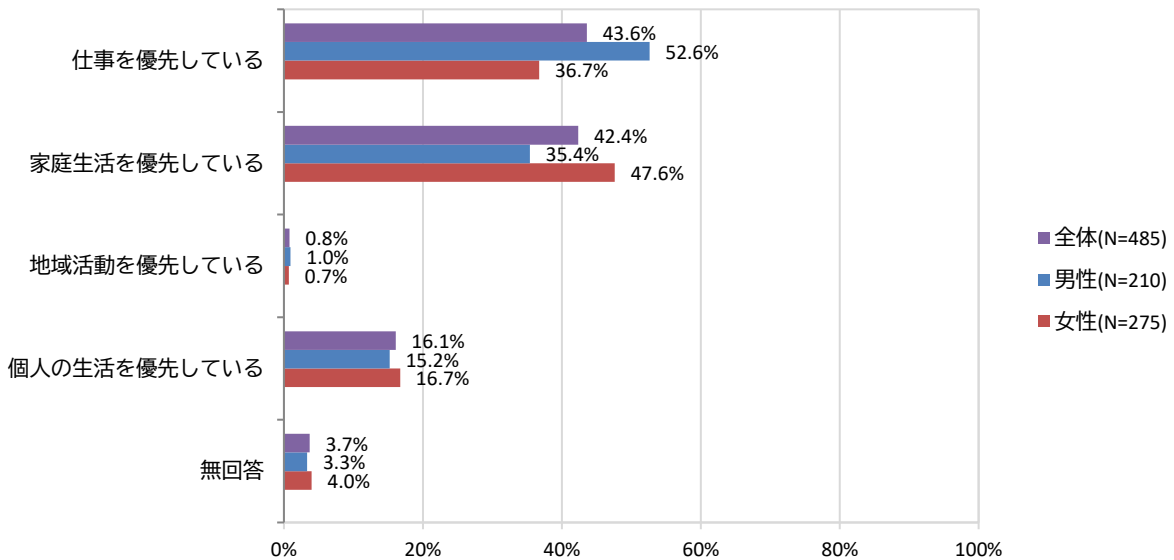
II 仕事と家庭生活等の両立について

問6 生活における「仕事」「家庭生活」「ボランティアなどの地域活動」「個人の生活(学習・趣味など)」についてうかがいます。

(1) あなたが理想とする優先順位を付けてください。



(2) あなたの現実の優先順位を付けてください。

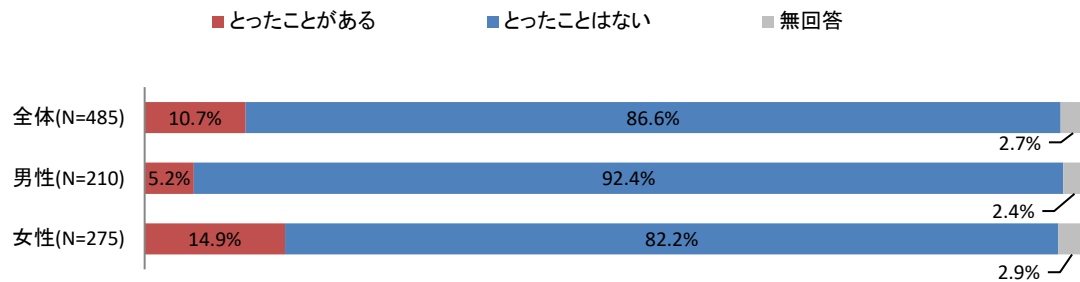


理想の優先順位では「家庭生活を優先したい」が最も高いが、現実の優先順位では「仕事を優先している」が最も高くなっている。

理想の優先順位は家庭生活、個人の生活、仕事、地域活動の順だが、現実の優先順位は仕事、家庭生活、個人の生活、地域活動の順となっており、現実では仕事の順位が一番高くなっている。

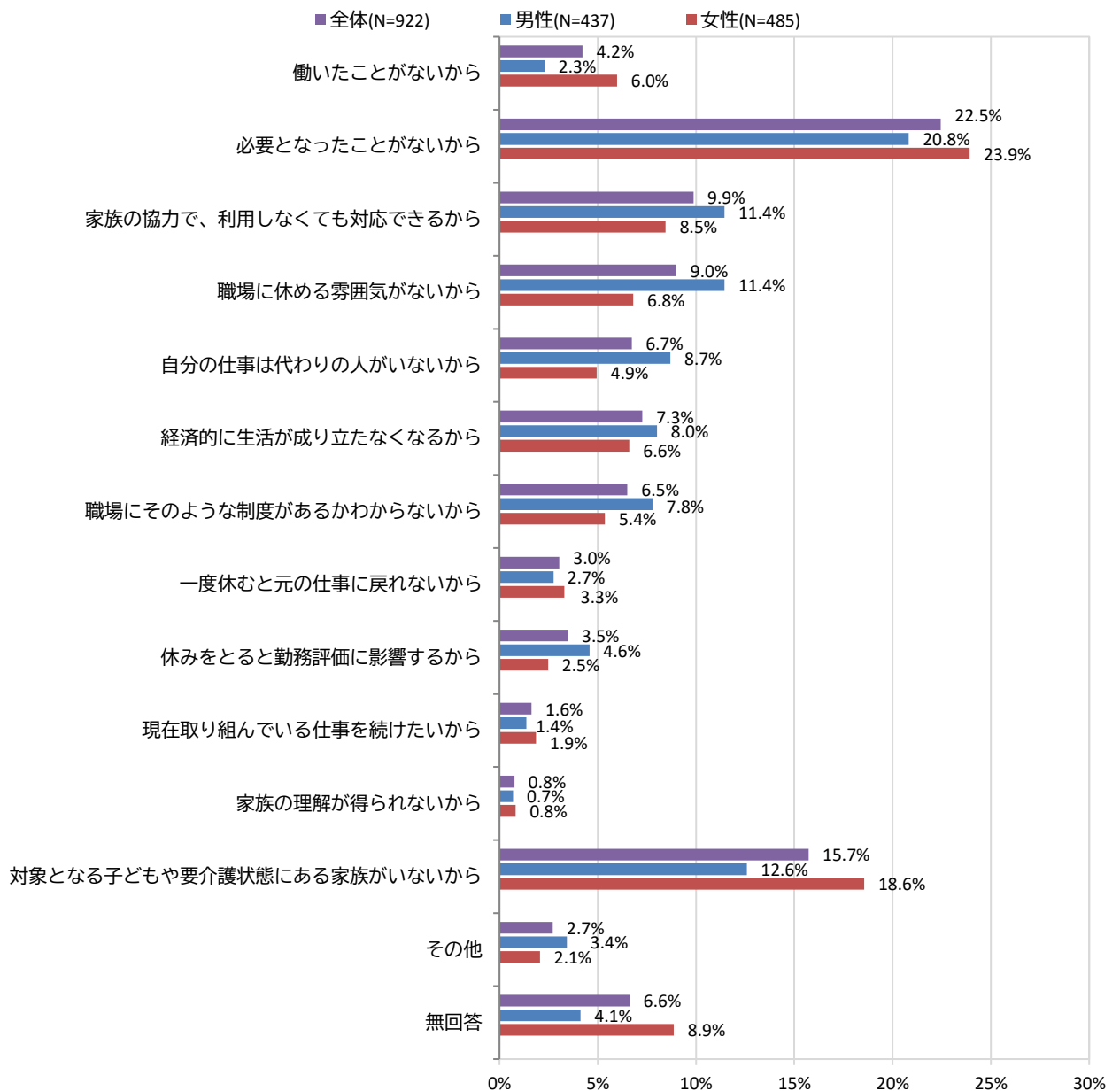
問7

(1) 育児や家族介護を行うために、法律に基づき育児休業や介護休業を取得できる制度があります。あなたは、この制度を活用したことがありますか。



(2) (1) の制度をとったことがない方にうかがいます。その理由は何ですか。
(当てはまる全ての回答)

新規



現時点で休業の制度を必要としないため、約9割が休業制度を利用していない。

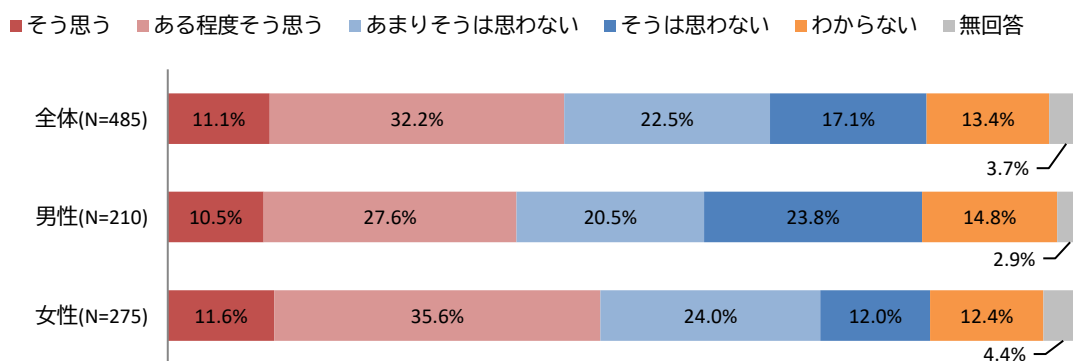
男性、女性ともに、休業を「とったことがある」の割合はかなり低い。その理由については様々であるが、割合として特に高いのは「必要となったことがないから」（全体 22.5%）、「対象となる子どもや要介護状態にある家族がないから」（全体 15.7%）となっている。また、男性の約1割が「職場に休める雰囲気がないから」と答えている。

問8 あなたは、育児休業などをとることについて、現在、社会や企業の支援は十分だと思いますか。

(1) 育児休業

『思う』が約4割だが、男性では『思わない』が『思う』を上回っている。

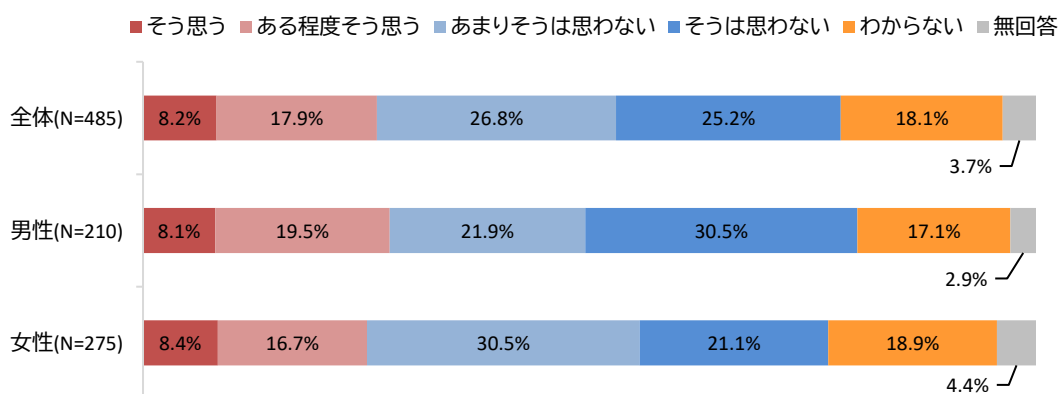
女性の『思う』（「そう思う」と「ある程度そう思う」の合計）は『思わない』（「あまりそうは思わない」と「そうは思わない」の合計）を上回っている。男性はその逆となっており、全体としては4割強の人が『思う』と回答しており『思わない』を若干上回っている。



(2) 介護休業

『思わない』が5割を超え、男女ともに同じ傾向である。

全体、男女別ともに、『思う』の割合は『思わない』の割合を大きく下回っている。

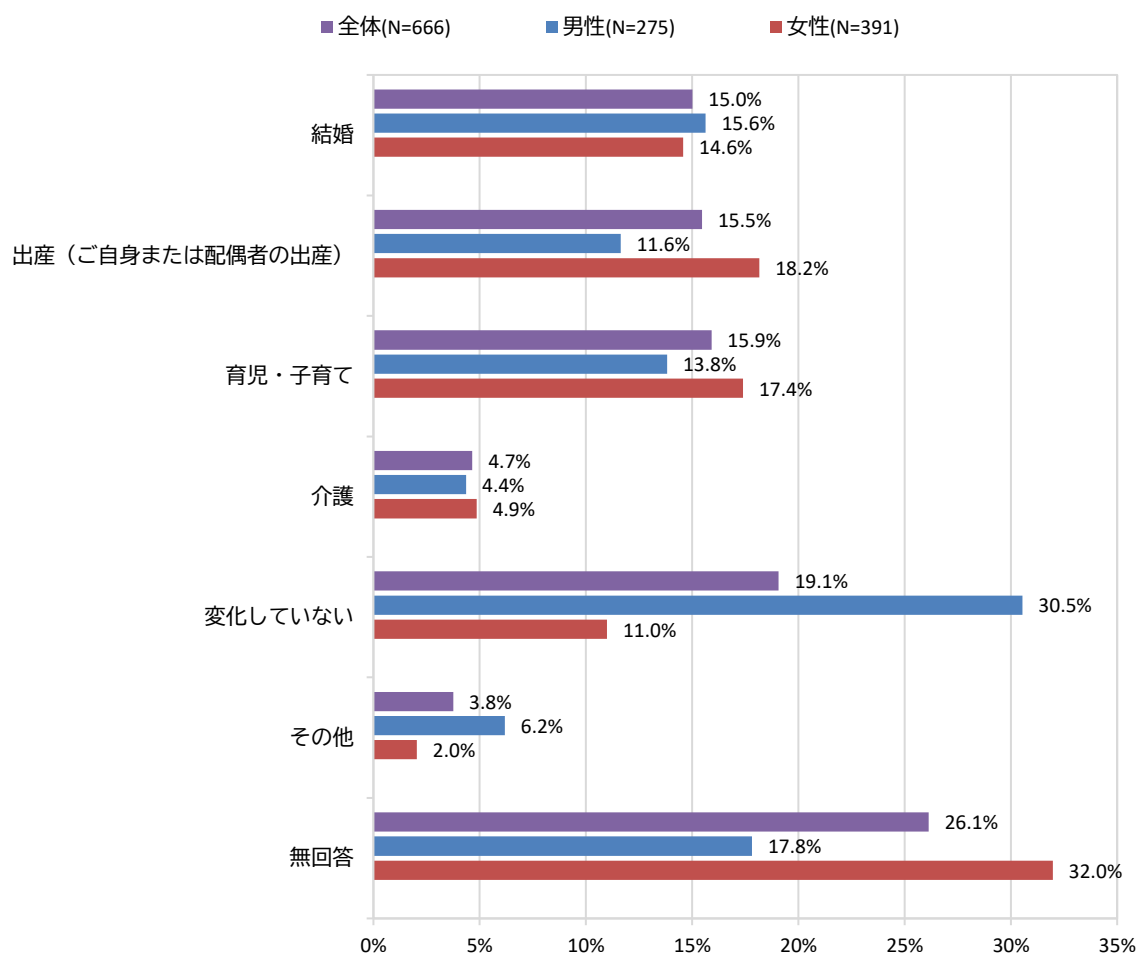


問9 働いている方のみお答えください。

(1) あなたの働き方が変化したことがありますか。(当てはまるすべての回答)

「変化していない」の割合が最も高く、性別による差がみられる。

女性は、「出産」や「育児・子育て」で働き方が変化した割合が項目の中で高く、男性は、「結婚」や「変化していない」と答えた割合が高くなっている。働き方が変化していない男性が3割を占めているのに対し、結婚や出産、育児・子育てにより働き方が変化した女性の割合は、働き方が変化していないと答えた女性よりも多くなっている。

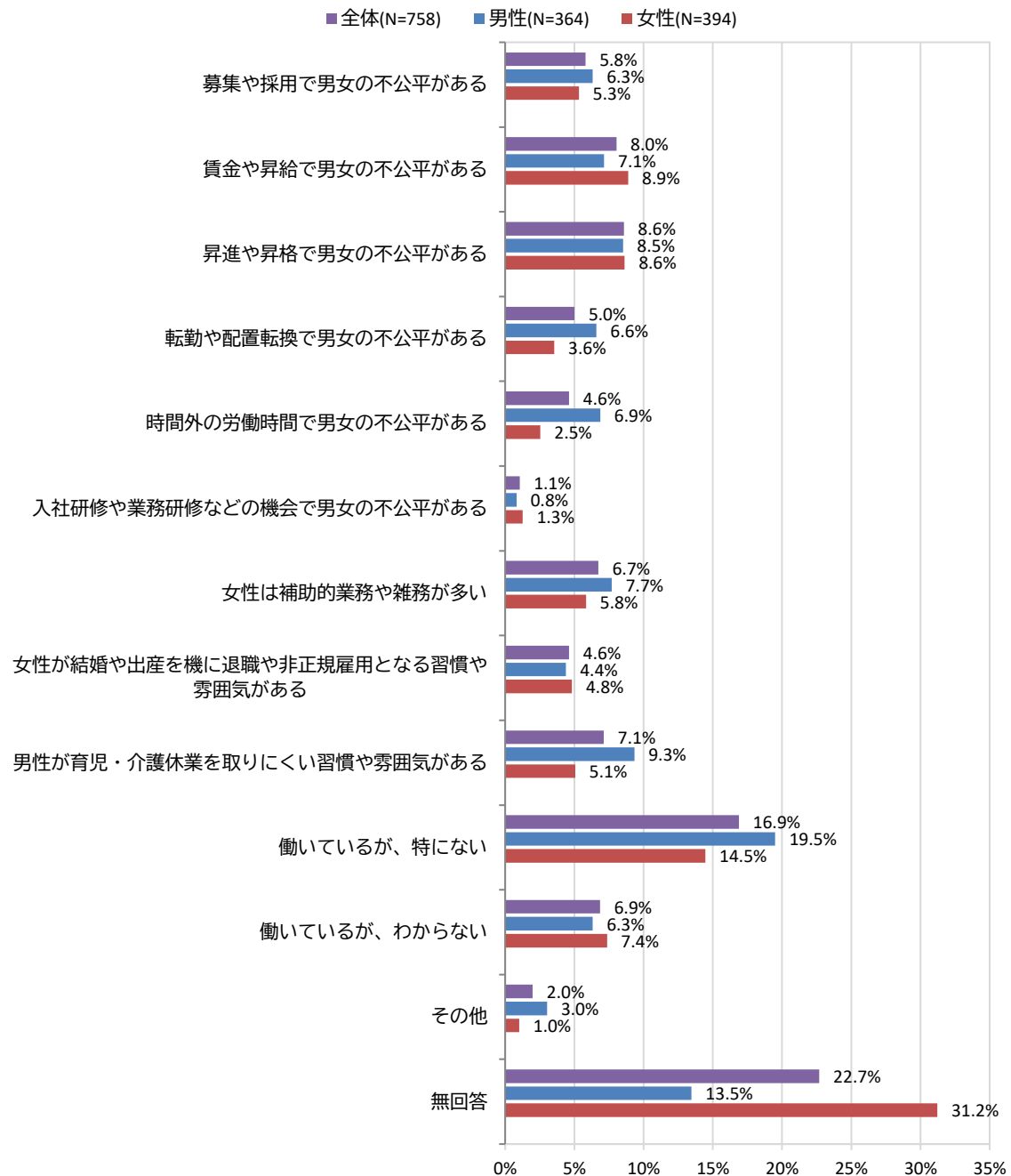


(2) あなたの職場では、男女間に次のような不公平や制度の未整備はありますか。

(当てはまるすべての回答)

「働いているが、特にない」の割合が最も高いが、約2割にとどまる。

割合の高い順に「働いているが、特にない」(16.9%)、「昇進や昇格で男女の不公平がある」(8.6%)、「賃金や昇給で男女の不公平がある」(8.0%)、「男性が育児・介護休業を取りにくい習慣や雰囲気がある」(7.1%)となっている。

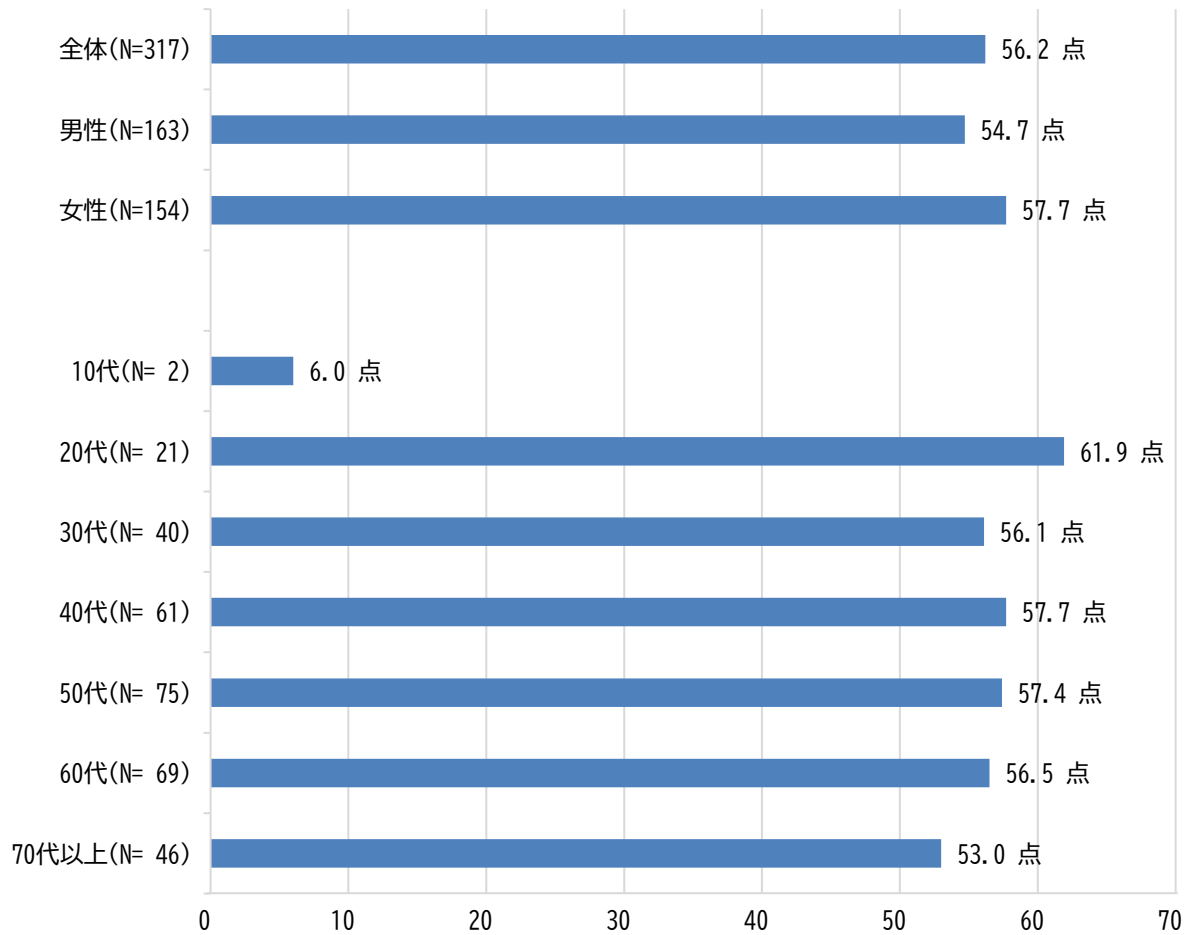


※新規調査項目：「転勤や配置転換で男女の不公平がある」「時間外の労働時間で男女の不公平がある」

(3) あなたのワーク・ライフ・バランス度を点数化すると、何点ですか。

ワーク・ライフ・バランス度は平均 56.2 点。

性別での差は、男女間ではあまり見られなかった。10代を除いたすべての年代は5割を超え、20代(61.9点)が最も高かった。

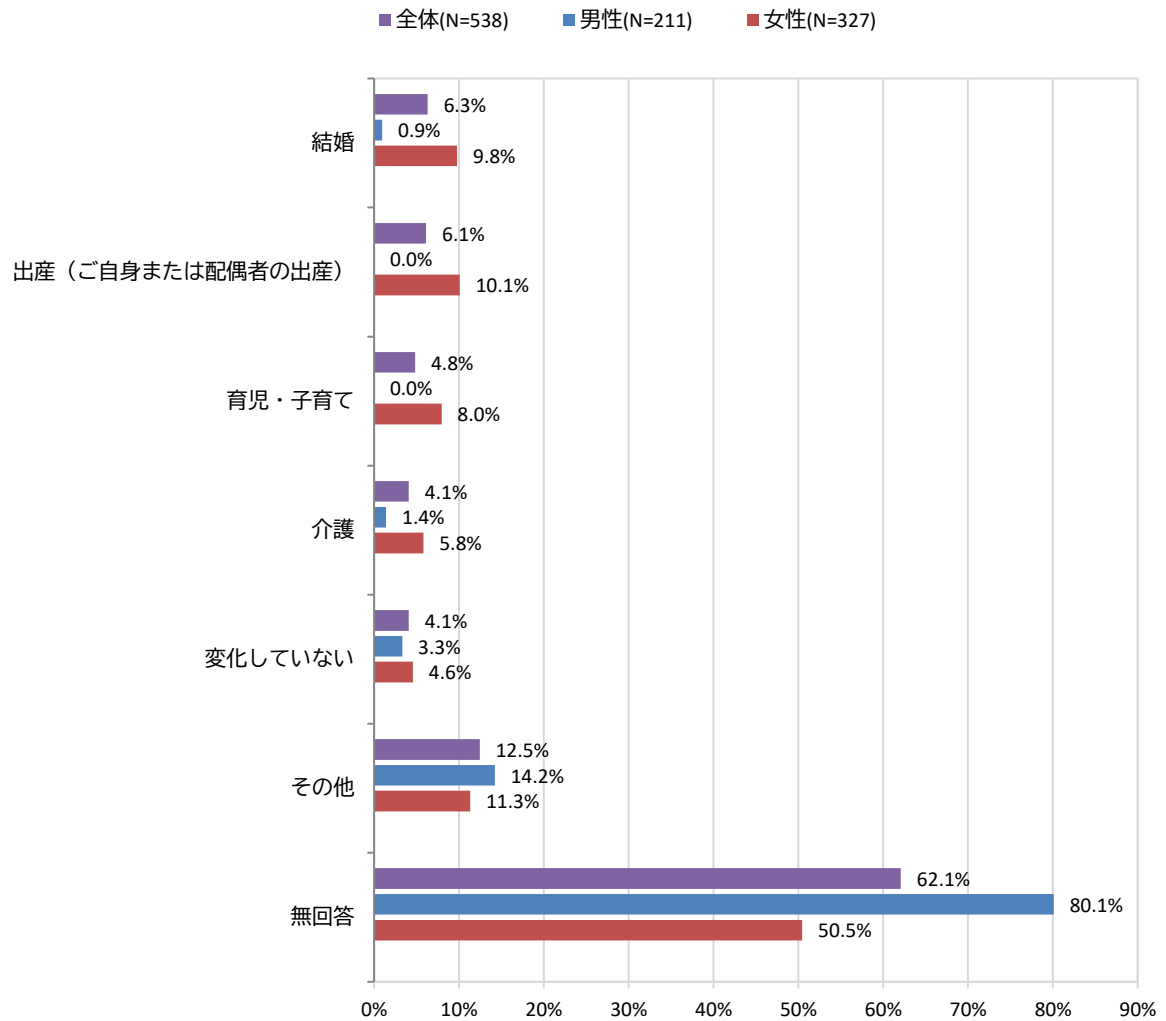


問10 働いていない方のみお答えください。

あなたが仕事を辞めたきっかけ(当てはまるすべての回答)

女性では結婚、出産、子育てがそれぞれ約1割で、性別による差が見られる。

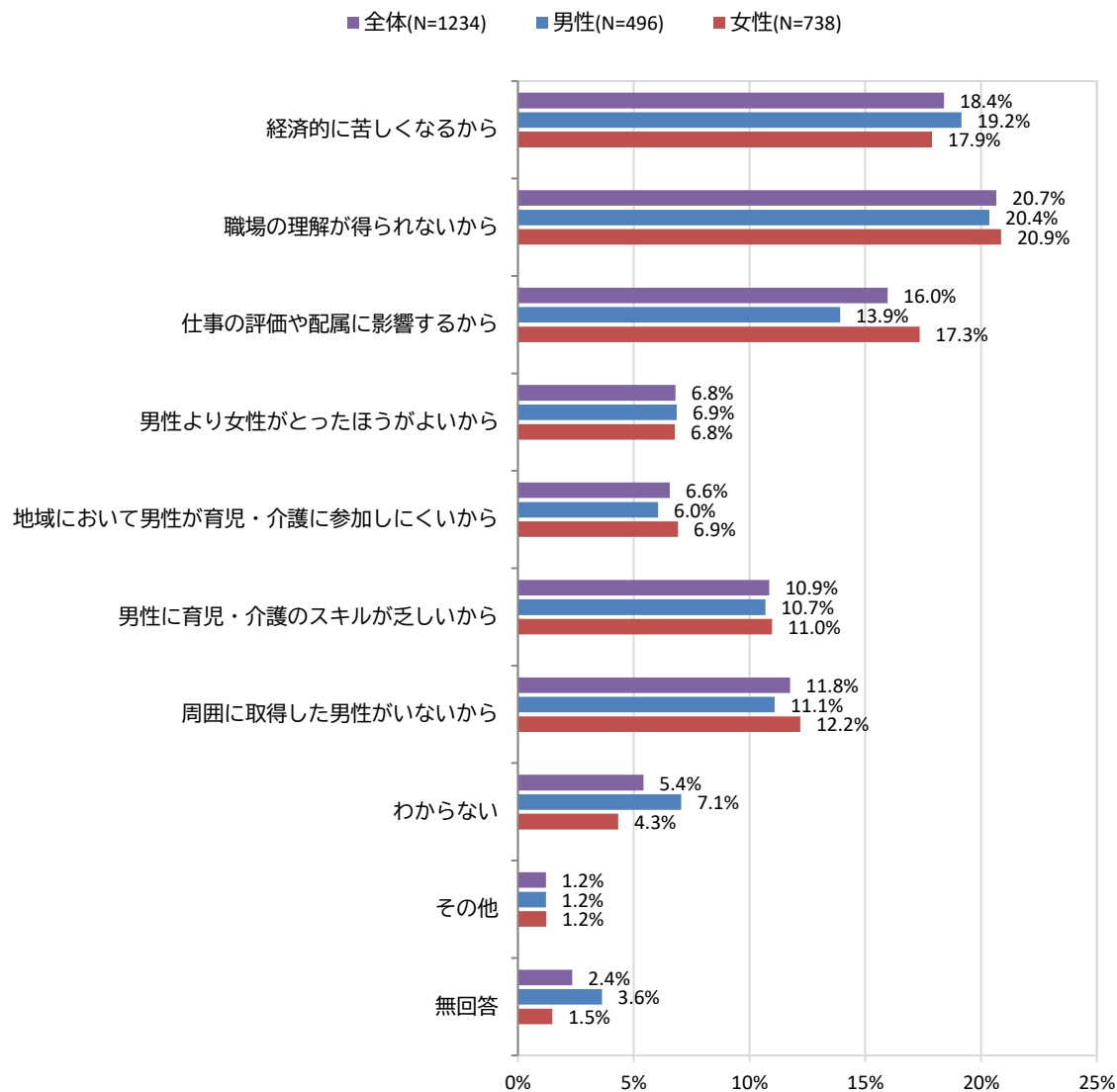
「出産」(10.1%)、「結婚」(9.8%)、「育児・子育て」(8.0%)により女性が仕事を辞めた割合は、それぞれ約1割となっている一方、これらの項目における男性の割合は非常に低い。



問11 あなたは、男性が育児・介護休業などを取得しない（できない）理由についてどう思いますか。（当てはまるすべての回答）

「職場の理解が得られないから」が最も高い。

全体では、「職場の理解が得られないから」（20.7%）が最も高く、次いで「経済的に苦しくなるから」（18.4%）、「仕事の評価や配属に影響するから」（16.0%）となっている。また、若干ではあるが男女でほぼ同じ割合で「男性より女性がとったほうがよいから」と答えた人がいる。

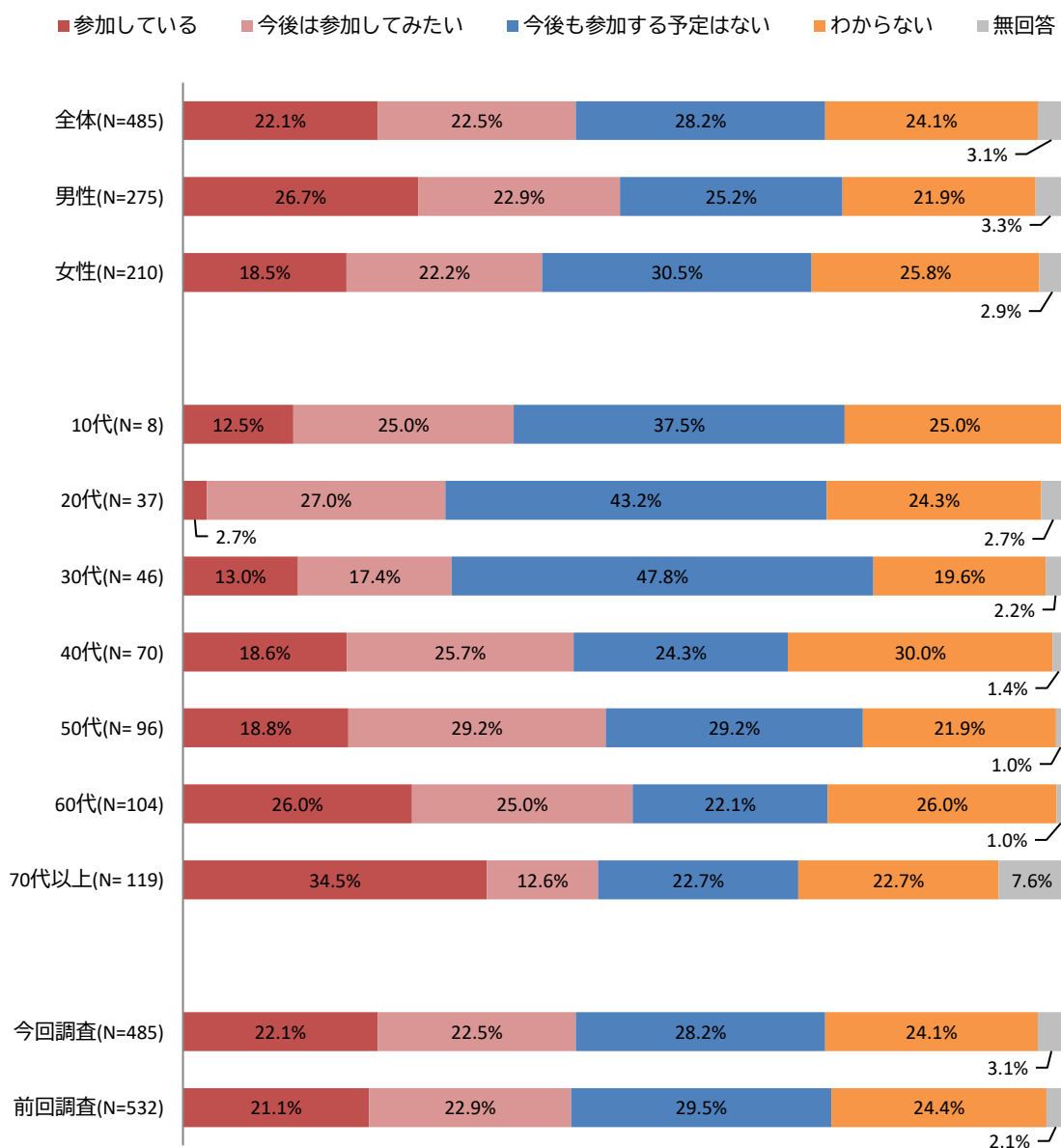


※新規調査項目：「わからない」

問12 あなたは、現在、社会活動・地域活動に参加していますか。また、今後参加したいと思いますか。

「参加している」と「今後は参加してみたい」の合計は4割を超えて最も高いが、20代、30代では「今後も参加する予定はない」が上回っている。

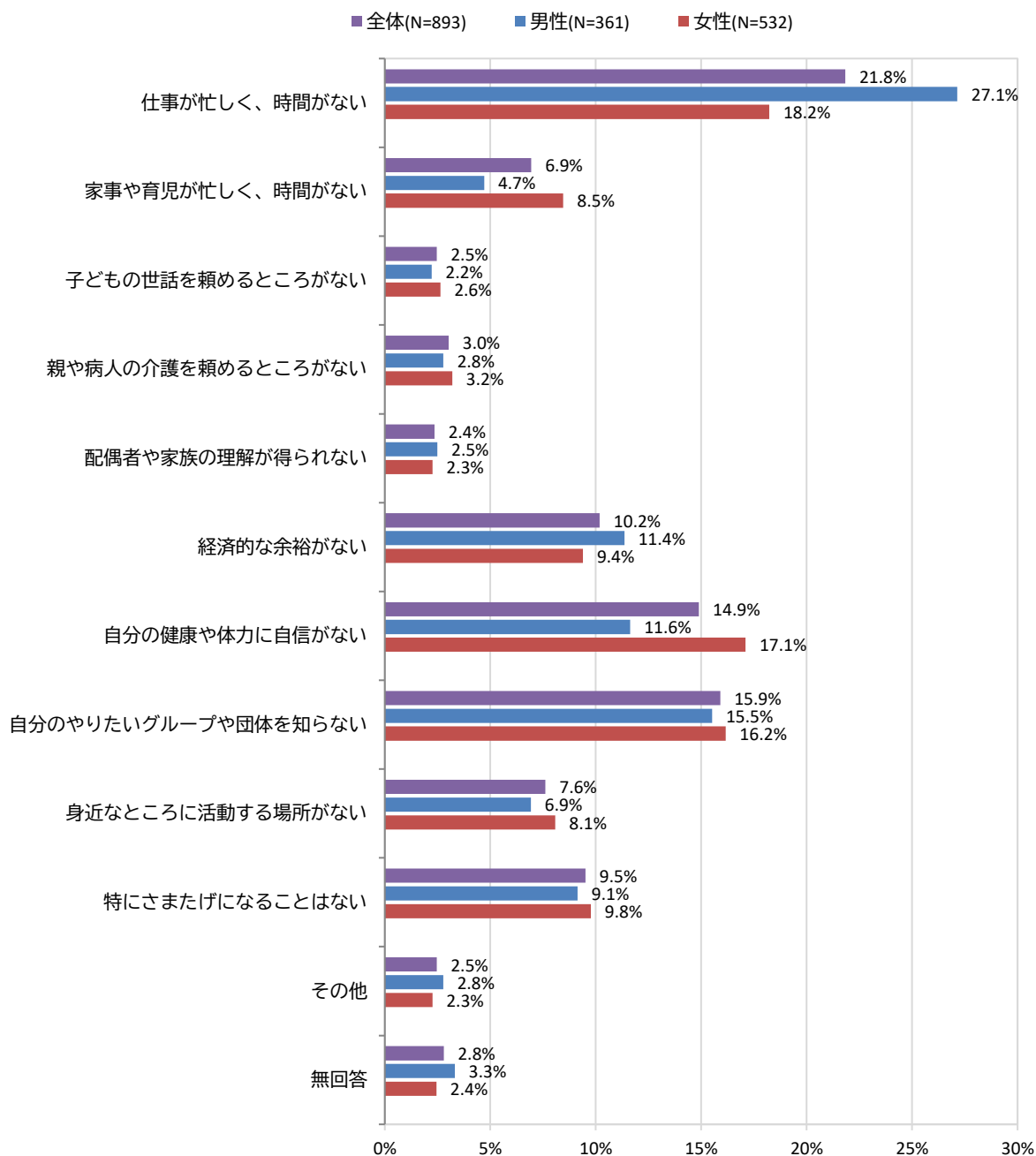
全体・男女とも「参加している」と「今後は参加してみたい」の合計が最も高かった（全体44.6%、男性49.6%、女性40.7%）。また20代、30代では、「今後も参加する予定はない」が「参加している」と「今後は参加してみたい」の合計を上回っている。



問13 あなたが社会活動・地域活動をしようとする際に、さまたげになっていることは何ですか。（当てはまるすべての回答）

「仕事が忙しく時間がない」が2割を超えて最も高いが、性別による差が見られる。

全体では「仕事が忙しく、時間がない」（21.8%）が最も高くなっている。男女別に見ても本項目が最も高いが、次いで男性は「自分のやりたいグループや団体を知らない」（15.5%）、女性は「自分の健康や体力に自信がない」（17.1%）で性別による差が見られる。

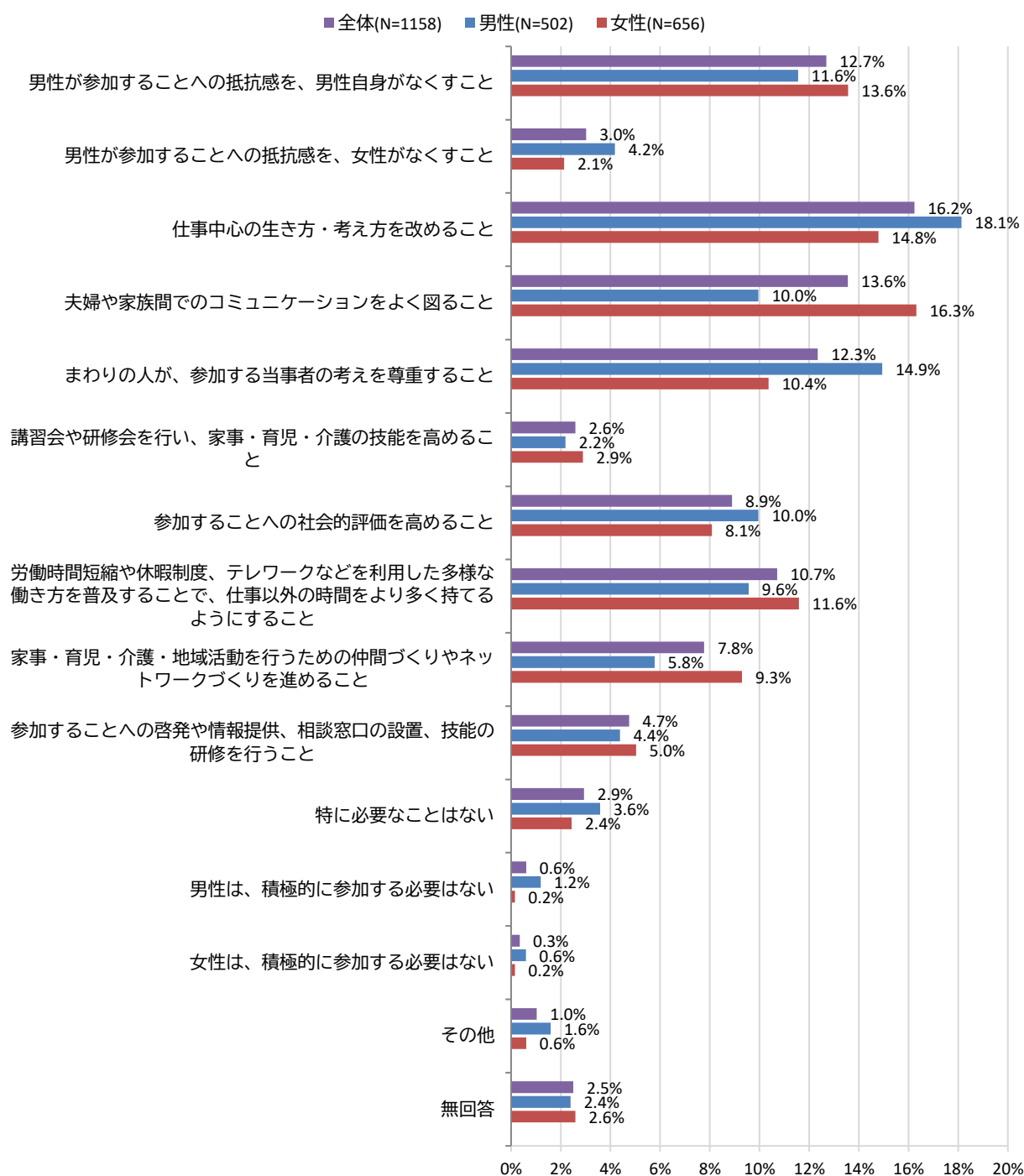


問14 あなたは、家事・育児・介護・地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが特に必要だと思いますか。（回答は3つまで）

「仕事中心の生き方・考え方を改めること」が約2割で最も高い。

全体では「仕事中心の生き方・考え方を改めること」（16.2%）が最も高く、次いで「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」（13.6%）となっている。

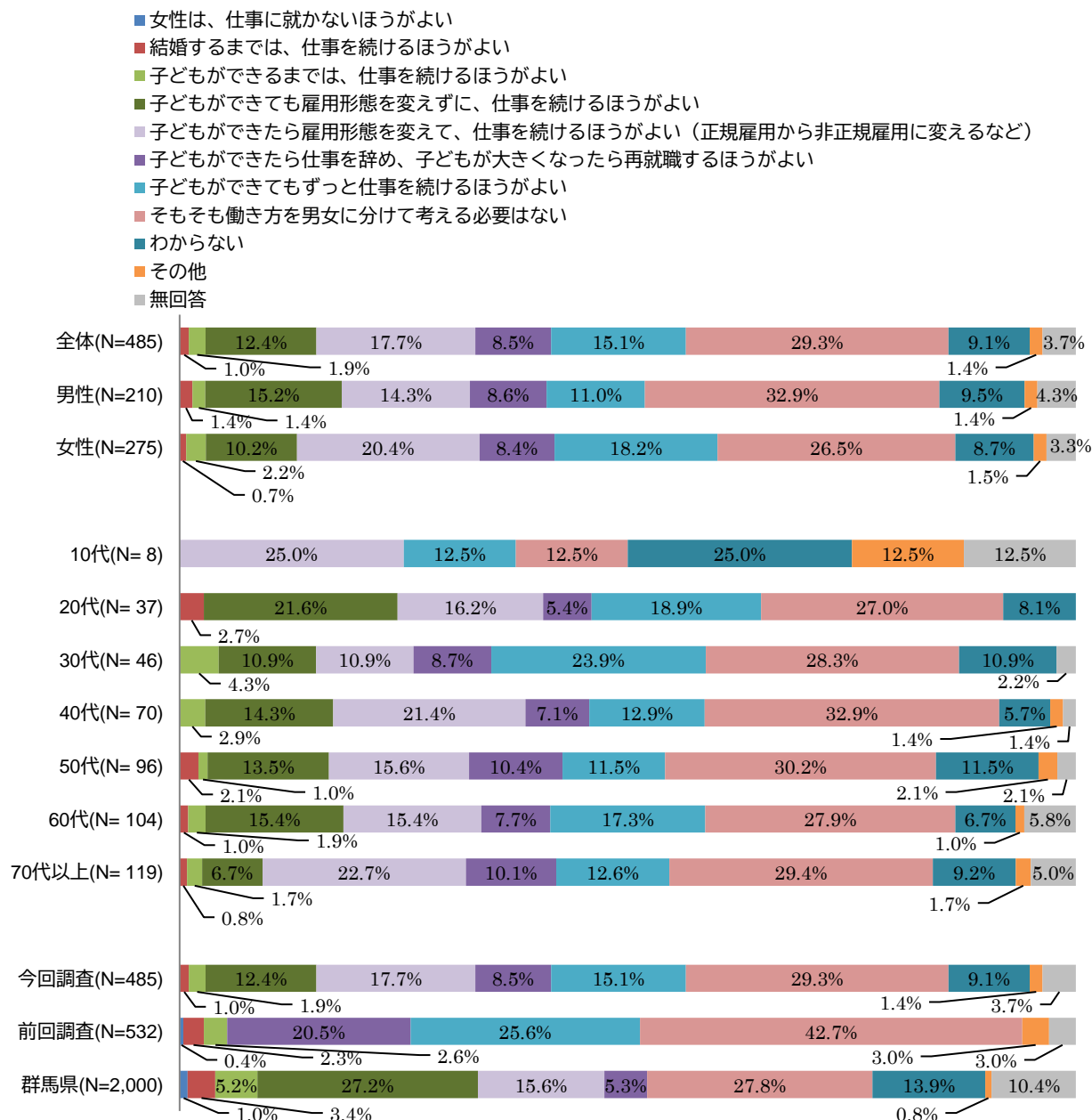
また、「男性は、積極的に参加する必要はない」（0.6%）、「女性は、積極的に参加する必要はない」（0.3%）はわずかとなっている。



問15 あなたは、「女性の働き方」についてどう思いますか。

「そもそも働き方を男女に分けて考える必要はない」が約3割で最も高い。

全体では「そもそも働き方を男女に分けて考える必要はない」(29.3%)が最も高い。年代別に見ると、20代は「子どもができて雇用形態を変えずに、仕事を続けるほうがよい」(21.6%)が他の年代に比べて高く、30代は「子どもができてずっと仕事を続けるほうがよい」(23.9%)が他の年代に比べて高い。



※新規調査項目：「子どもができて雇用形態を変えずに、仕事を続けるほうがよい」

「子どもができたなら雇用形態を変えて、仕事を続けるほうがよい」

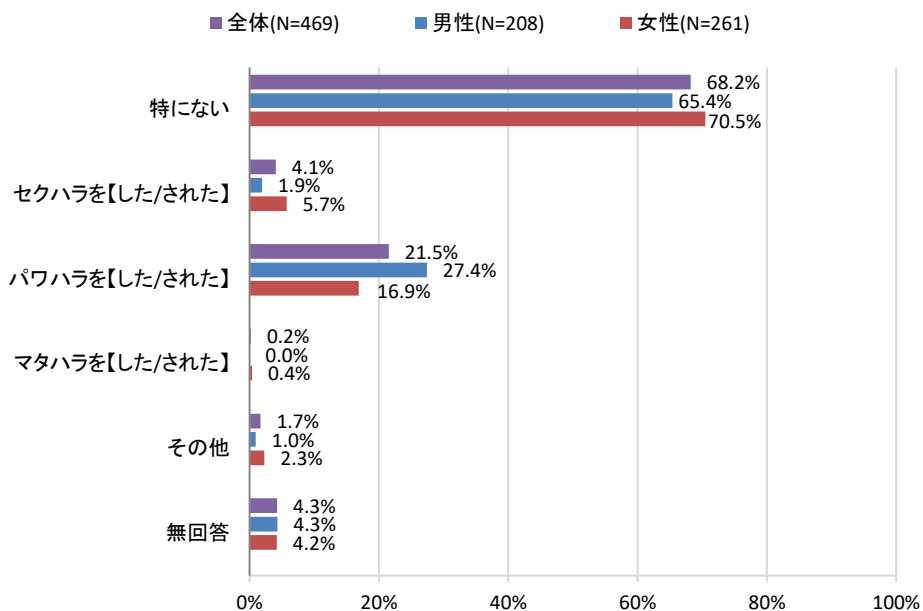
(正規雇用から非正規雇用に変えるなど)

「わからない」

Ⅲ 男女の人権について

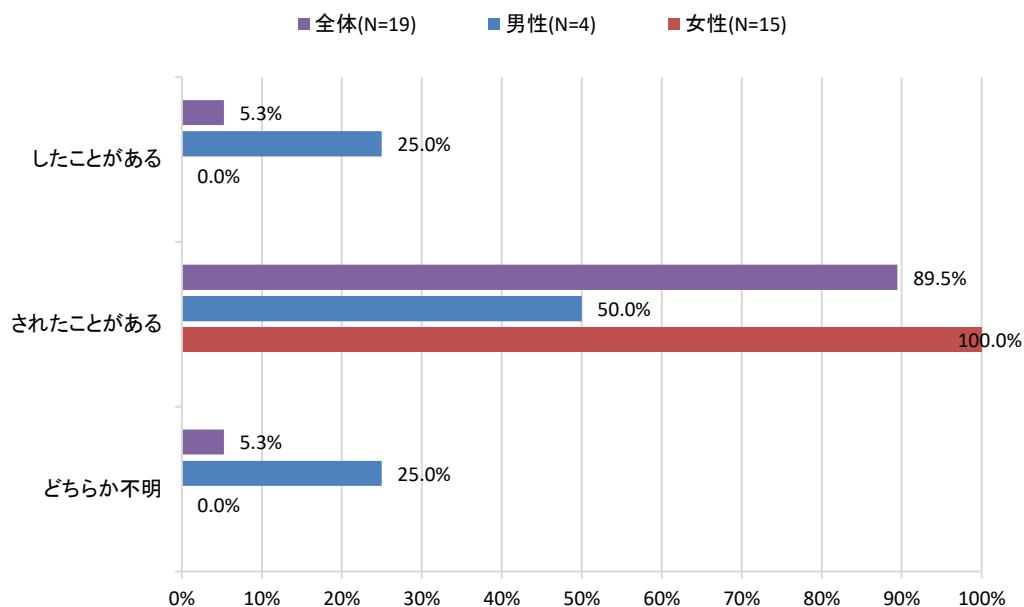
問16

(1) あなたは、ハラスメントをしたり（指摘された場合も含む）、あるいは受けたりしたことはありますか。

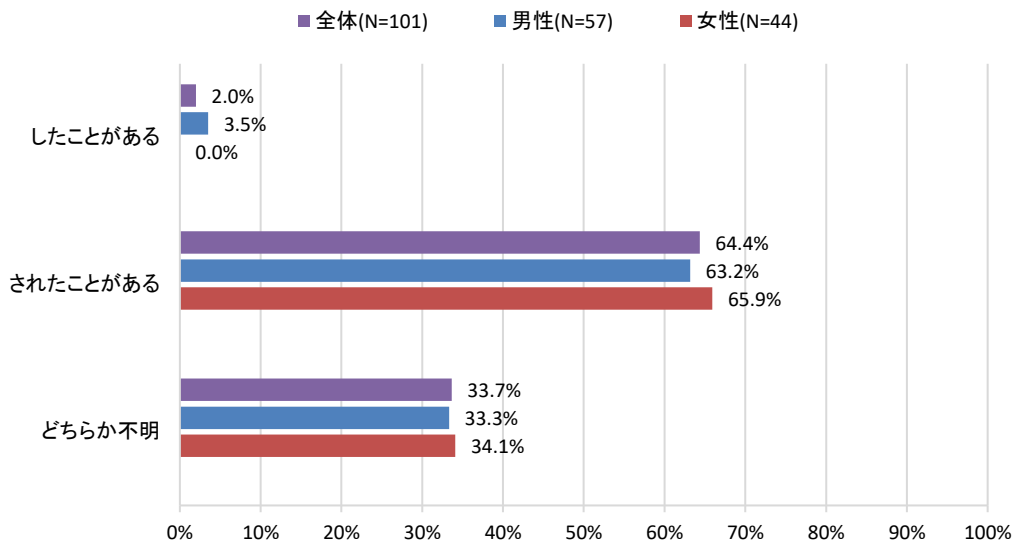


(1) の詳細

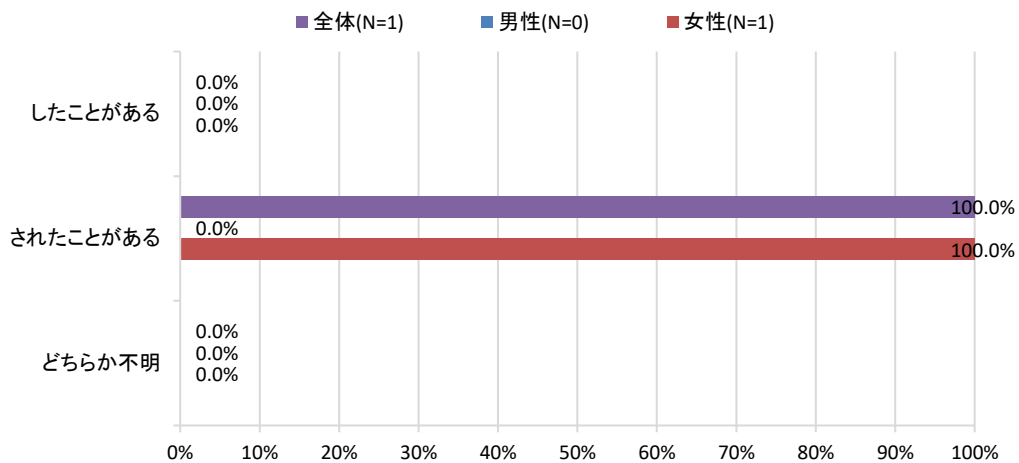
セクハラを【した/された】



パワハラを【した/された】



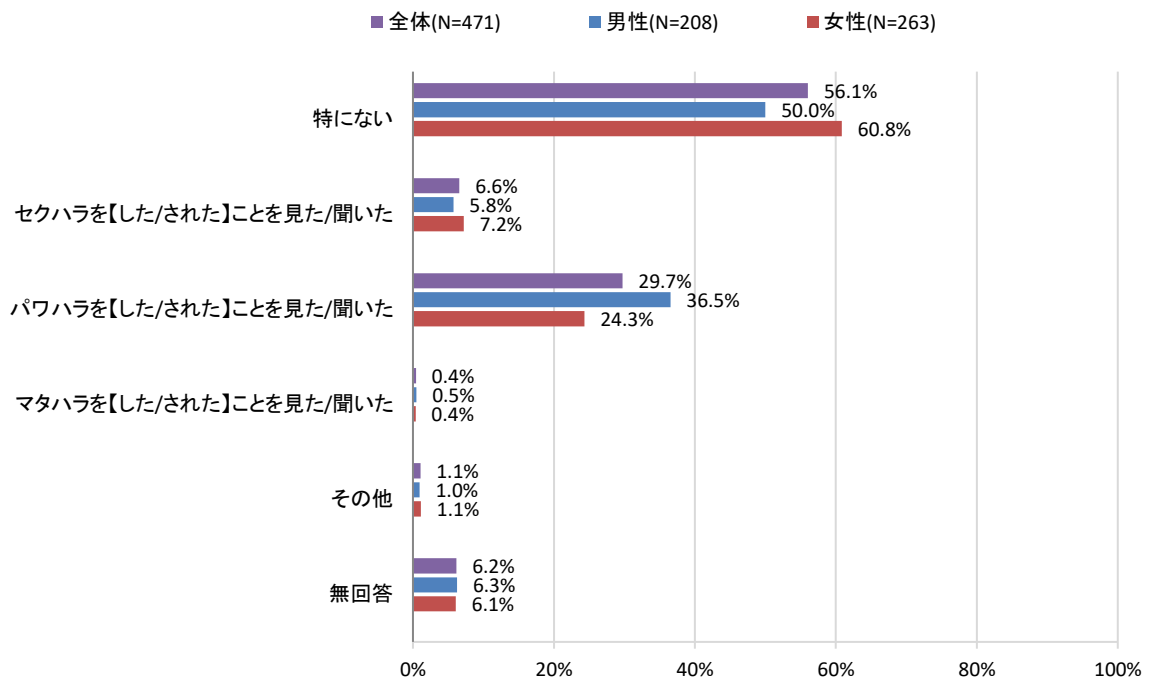
マタハラを【した/された】



ハラスメントの経験なしが約7割。ハラスメントを【した/された】方の中で割合が高いのはパワハラ。

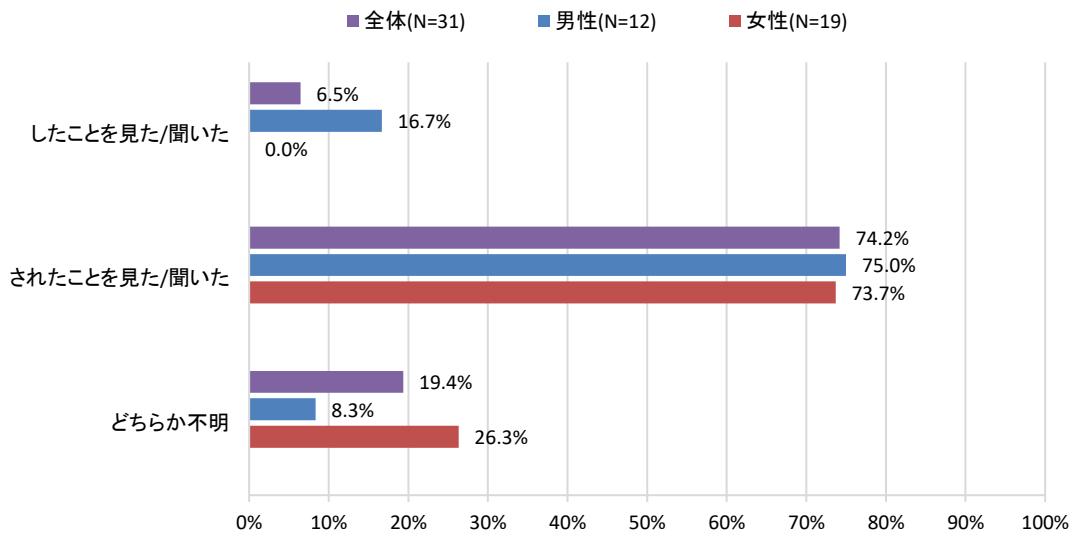
ハラスメントの経験が「特にない」(68.2%)が最も高く、次いで「パワハラを【した/された】」(21.5%)となっている。「パワハラをした」、もしくは「パワハラをされた」という回答について詳しく見てみると、パワハラをした経験よりもパワハラをされた経験が男女ともに高く、6割を超えている。

(2) 家族や知人など、身近な人のハラスメントについて、見聞きしたことはありますか。

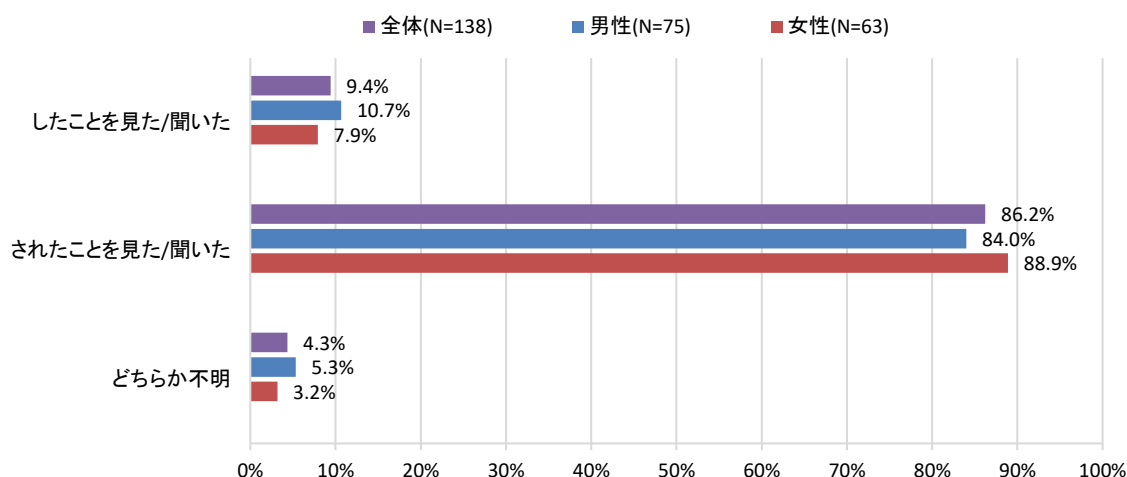


(2) の詳細

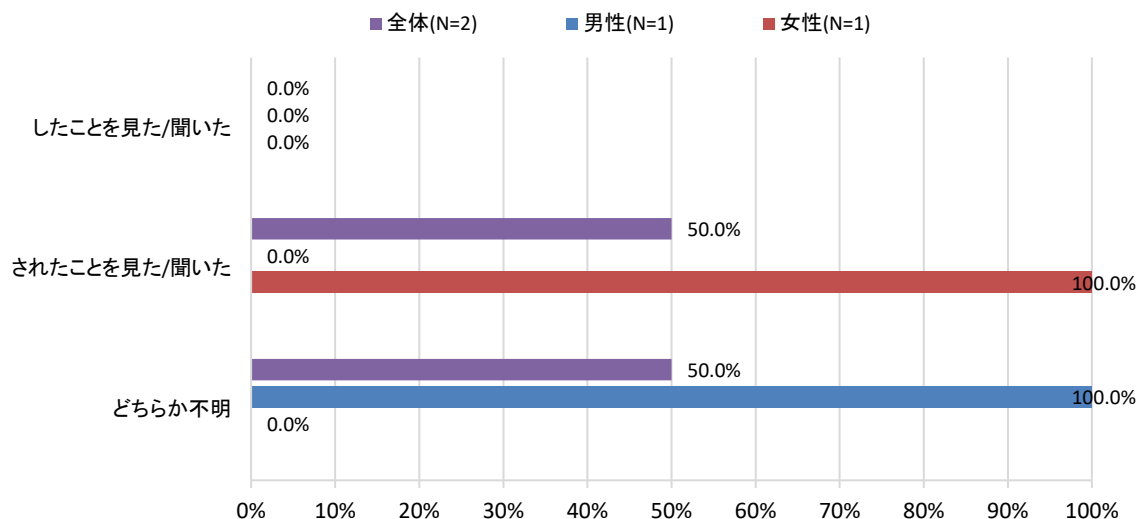
セクハラを【した/された】 ことを見た/聞いた



パワハラを【した/された】ことを見た/聞いた



マタハラを【した/された】ことを見た/聞いた

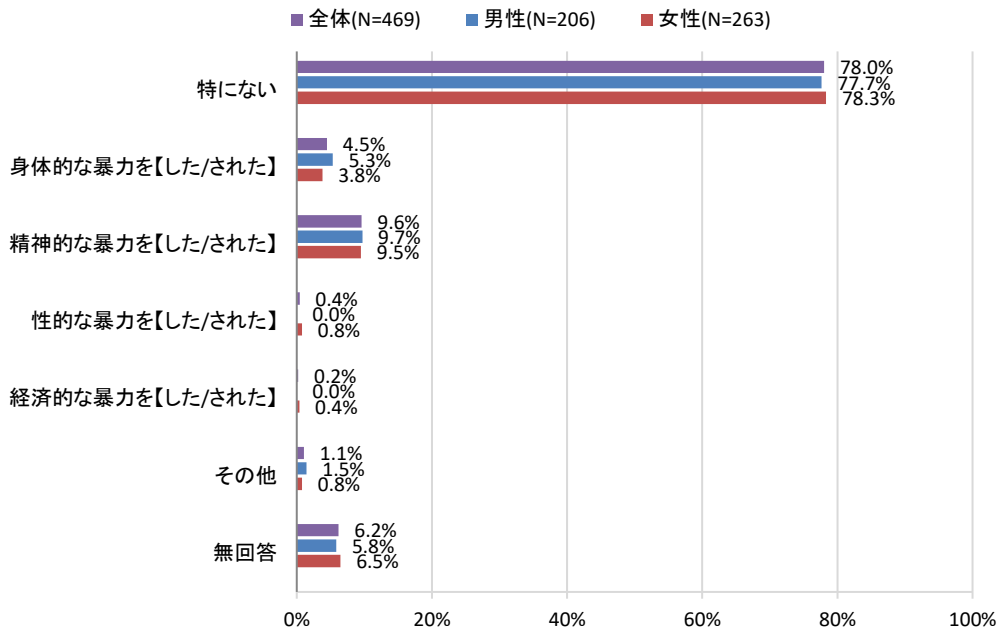


ハラスメントについて見聞きした経験なしが約6割。ハラスメントを【した/された】ことを見聞きした方の中で割合が高いのはパワハラ。

ハラスメントの見聞き経験が「特にない」(56.1%)が最も高く、次いで「パワハラをしたことを見た/聞いた」、もしくは「パワハラをされたことを見た/聞いた」が(29.7%)となっている。「パワハラをしたことを見た/聞いた」、もしくは「パワハラをされたことを見た/聞いた」という回答について詳しく見てみると、パワハラをしたことを見た/聞いた経験よりもパワハラをされたことを見た/聞いた経験が男女ともに高く、8割を超えている。

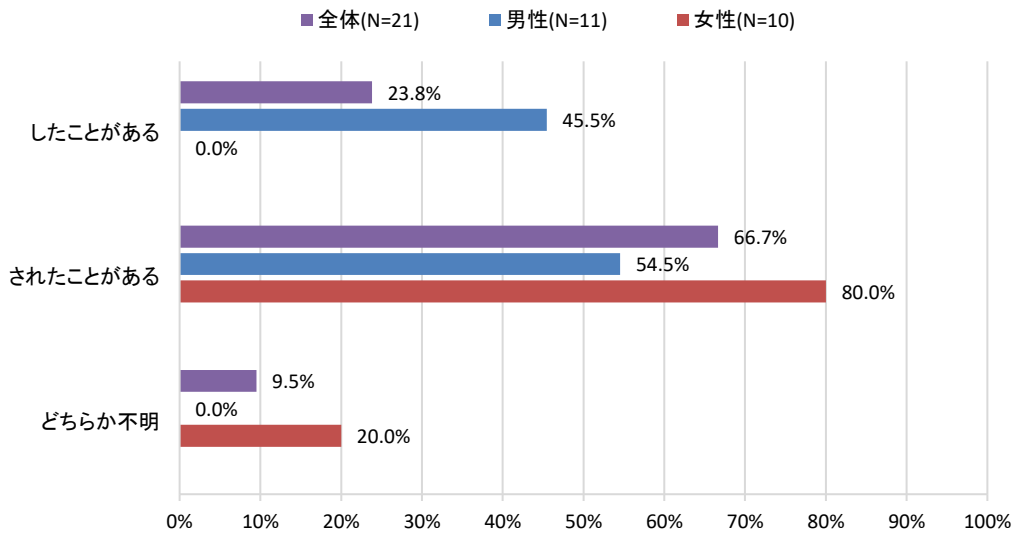
問17

(1) あなたは、暴力（DV）を振るったり（指摘された場合も含む）、あるいは受けたりしたことはありますか。

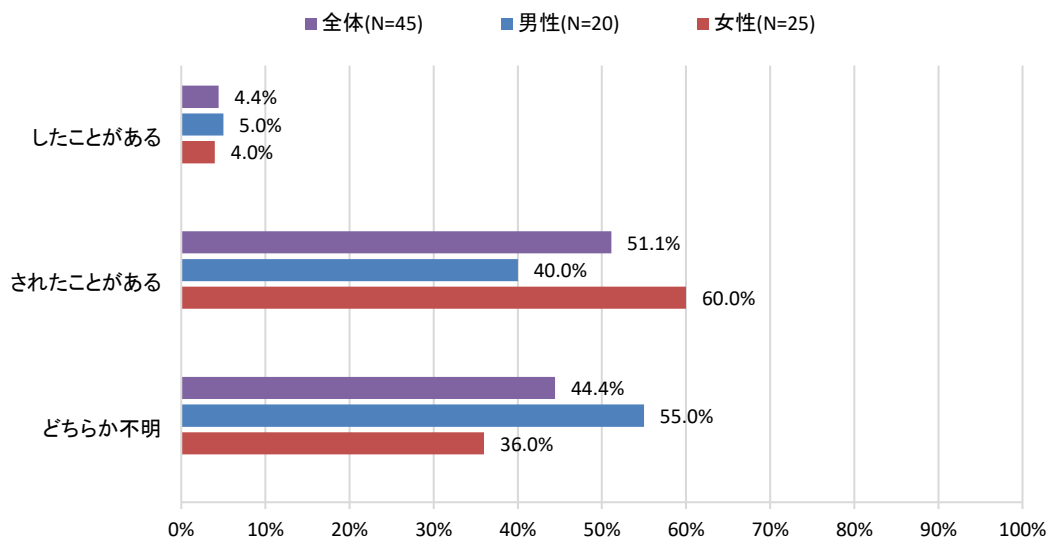


(1) の詳細

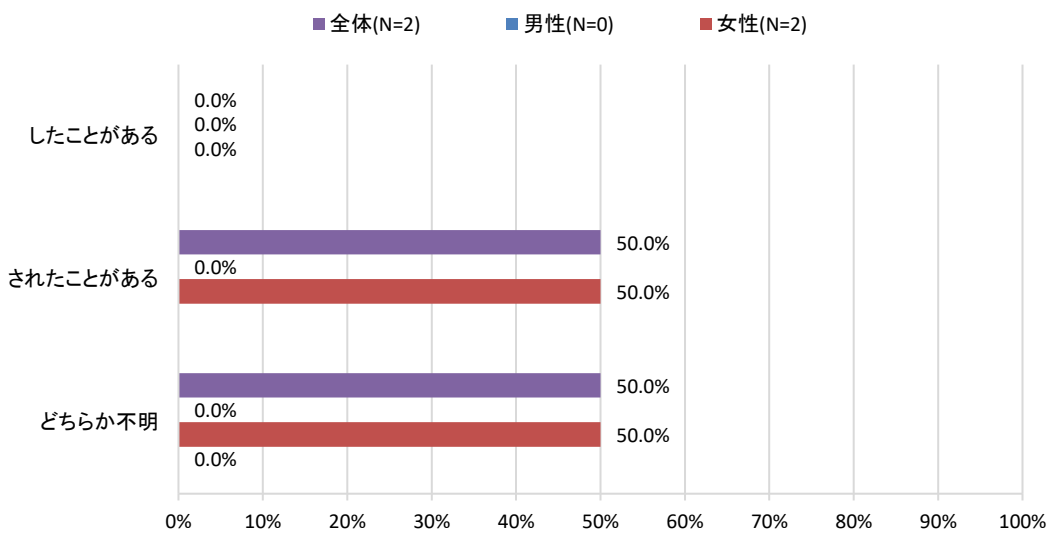
身体的な暴力を【した/された】



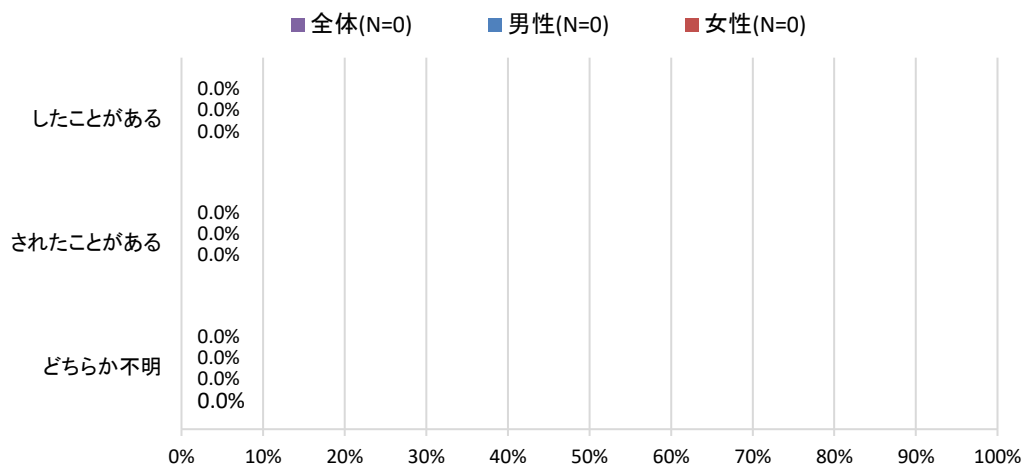
精神的な暴力を【した/された】



性的な暴力を【した/された】



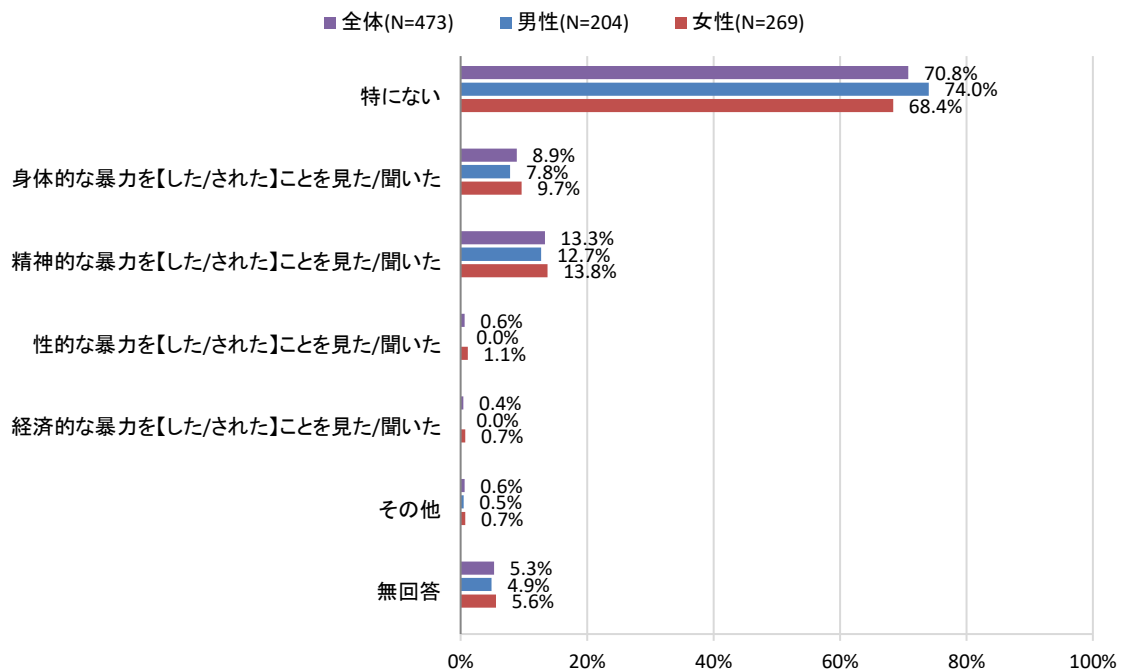
経済的な暴力を【した/された】



暴力（DV）の経験なしが約8割。暴力を【した/された】方の中で割合が高いのは精神的な暴力。

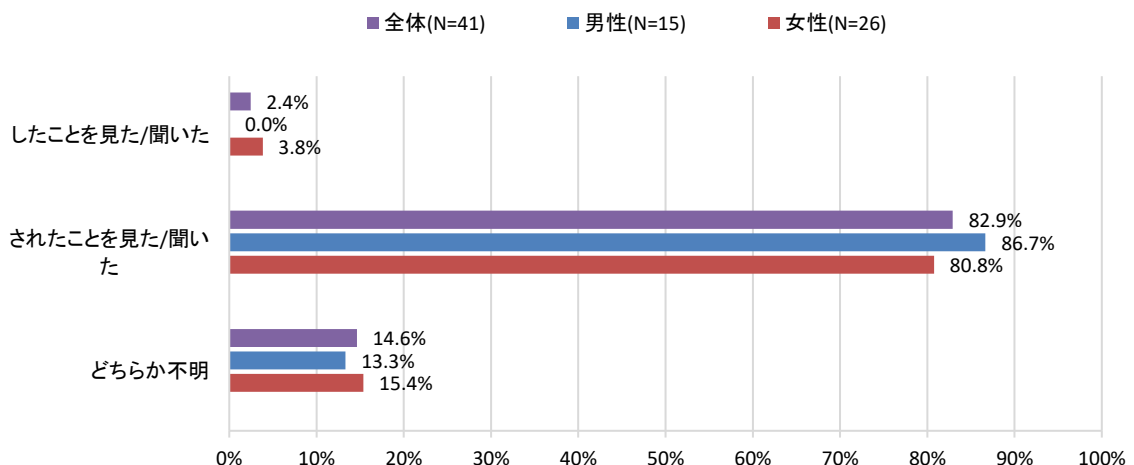
暴力の経験が「特にない」（78.0%）が最も高く、次いで「精神的な暴力を【した/された】」（9.6%）となっている。「精神的な暴力をした」、もしくは「精神的な暴力をされた」という回答について詳しく見てみると、精神的な暴力をした経験よりも精神的な暴力をされた経験が高く5割を占め、男性（40.0%）よりも女性（60.0%）の割合が高い。

（2）家族や知人など、身近な人の暴力(DV)について、見聞きしたことはありますか。

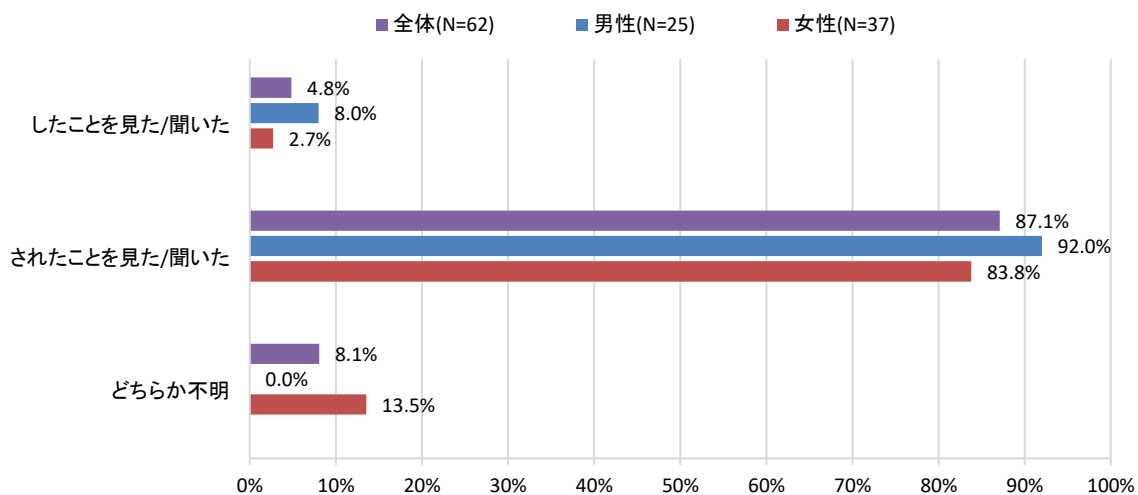


（2）の詳細

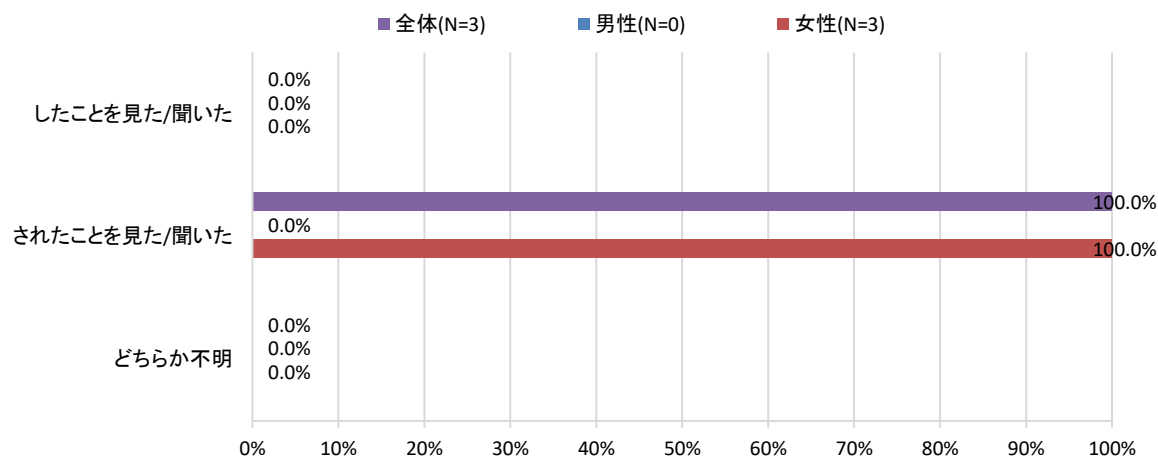
身体的な暴力を【した/された】ことを見た/聞いた



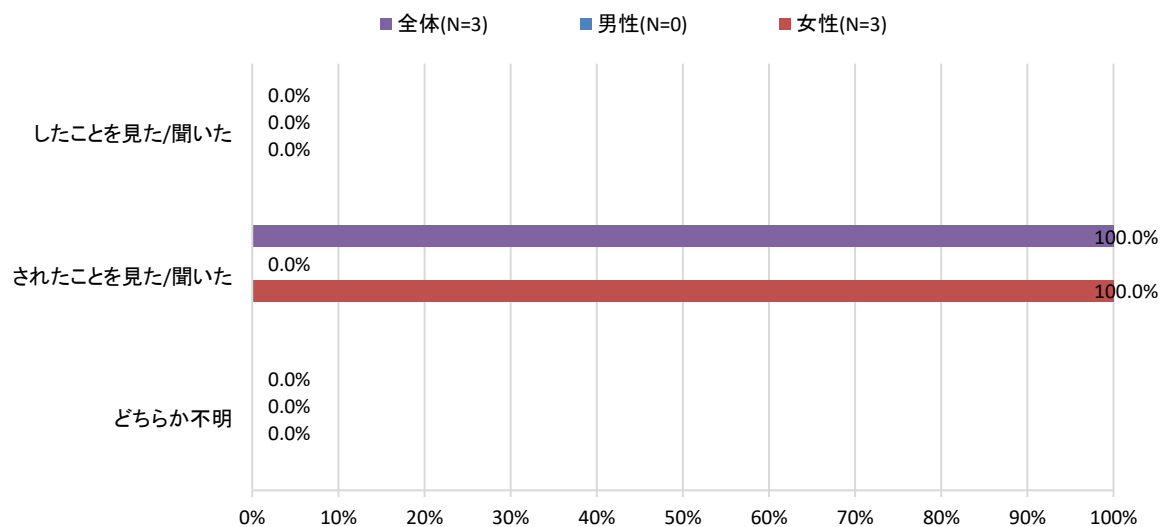
精神的な暴力を【した/された】ことを見た/聞いた



性的な暴力を【した/された】ことを見た/聞いた



経済的な暴力を【した/された】ことを見た/聞いた



暴力（DV）の見聞きの経験なしが約7割。暴力を【した/された】ことを見聞きした方の中で割合が高いのは精神的な暴力。

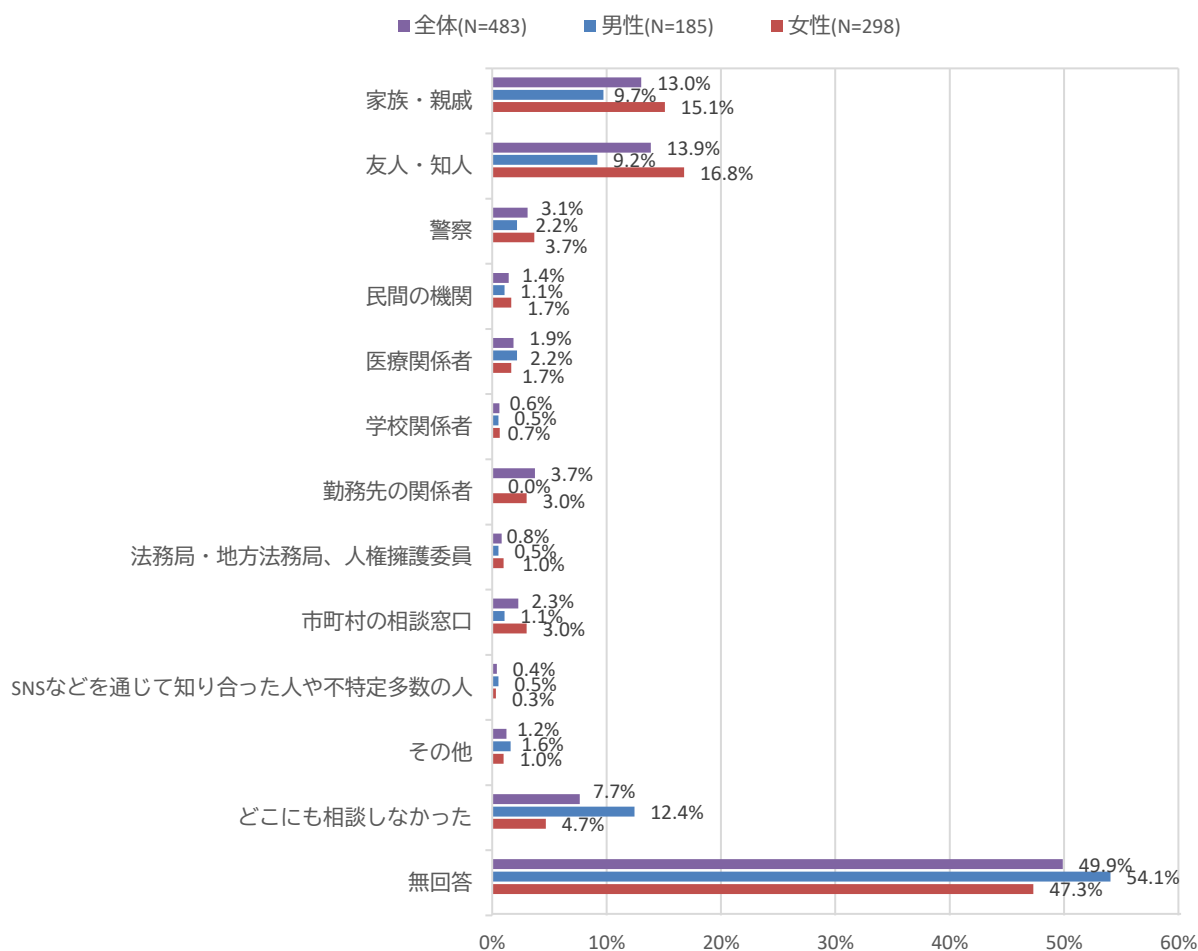
暴力の見聞き経験が「特にない」（70.8%）が最も高く、次いで精神的な暴力をしたことを見た/聞いた、もしくは精神的な暴力をされたことを見た/聞いたが13.3%となっている。

(3) DVを振るった、受けた、見聞きされた経験のある方にうかがいます。

その際、次のような機関や人に相談しましたか。（当てはまるすべての回答）

「友人・知人」が最も高い。

全体では「友人・知人」（13.9%）が最も高く、次いで「家族・親戚」（13.0%）となっている。男女別に見ると、女性は、「友人・知人」（16.8%）が最も高く、男性は、「どこにも相談しなかった」（12.4%）が最も高かった。



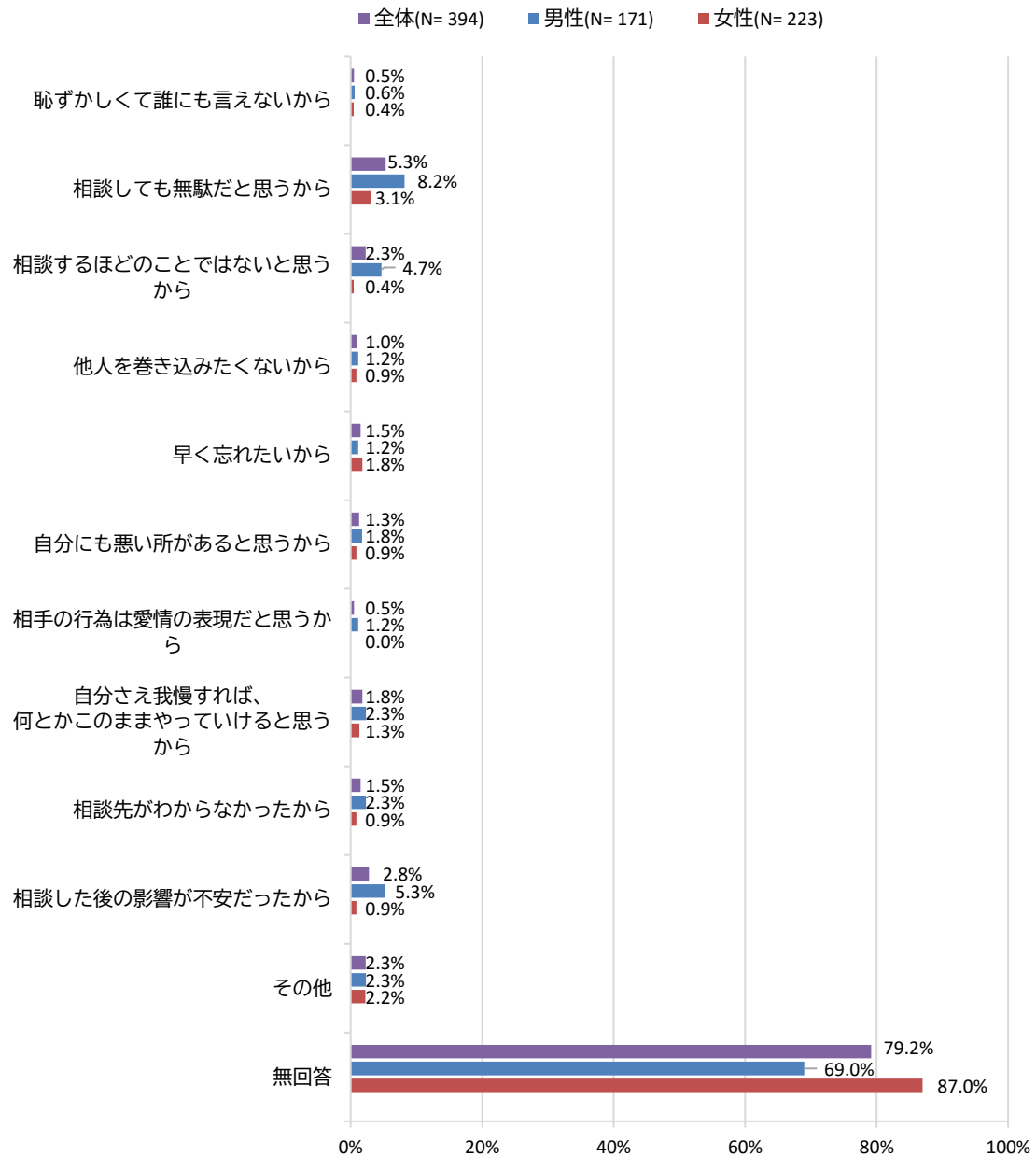
※新規調査項目：「学校関係者」「勤務先の関係者」「法務局・地方法務局、人権擁護委員」「市町村の相談窓口」「SNSなどを通じて知り合った人や不特定多数の人」

(4) (3)で「どこにも相談しなかった」方にうかがいます。

その理由は何ですか。(当てはまるすべての回答)

「相談しても無駄だと思うから」が最も高い。

全体で「相談しても無駄だと思うから」(5.3%)が最も高くなっている。また、男女別で見ても同様である。

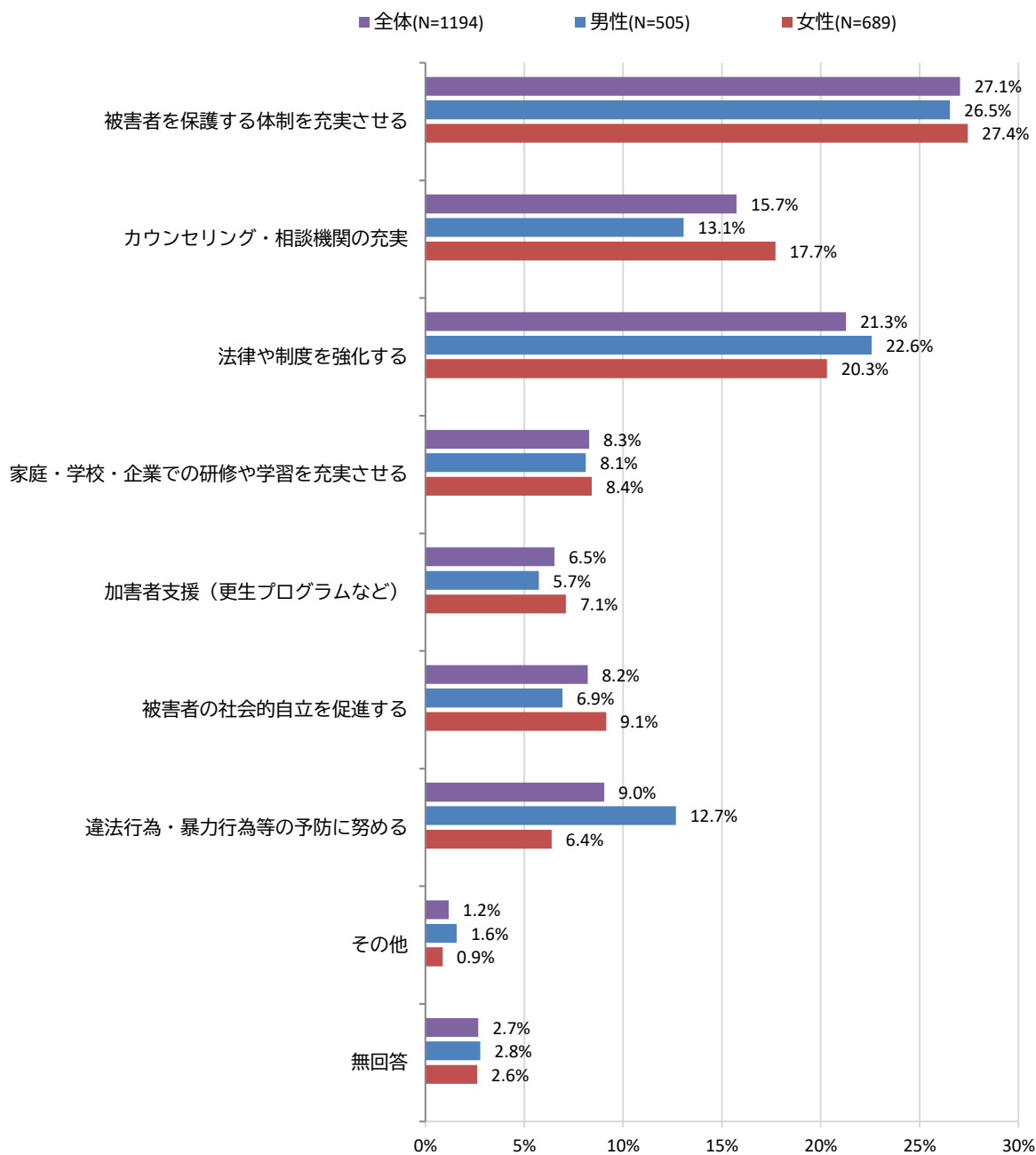


※新規調査項目：「相談した後の影響が不安だったから」

問18 あなたが、DV(配偶者やパートナーからの暴力)を防ぐために重要だと思うことは何ですか。(回答は3つまで)

「被害者を保護する体制を充実させる」が最も高い。

全体、男女とも「被害者を保護する体制を充実させる」(全体 27.1%、男性 26.5%、女性 27.4%)が最も高くなっている。性別間での差はあまりなかった。



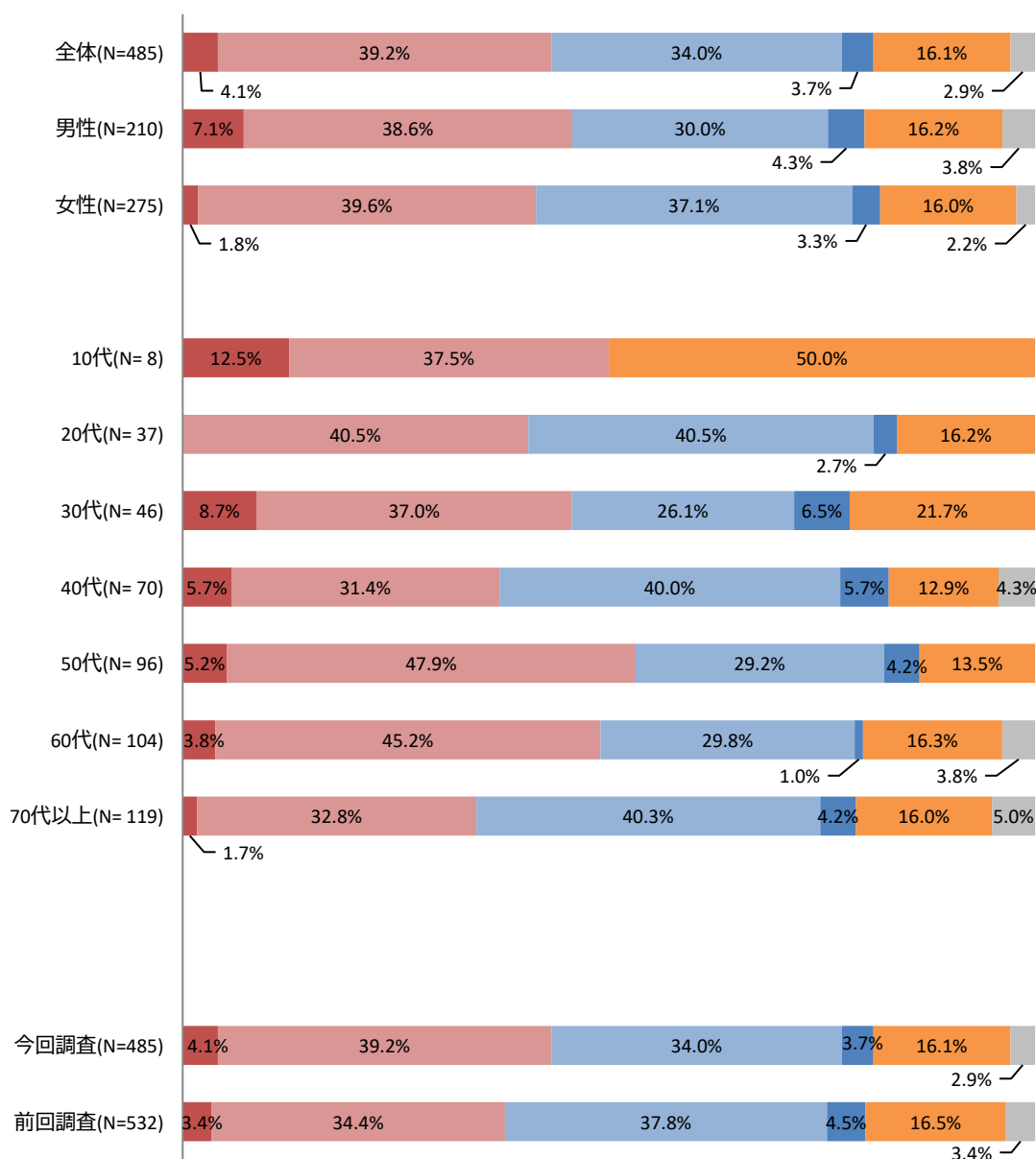
IV 男女共同参画社会について

問19 あなたは、行政や企業、社会活動などの企画づくりや方針決定の過程に、女性が現在どの程度進出していると思いますか。

『進出している』が4割を超え、前回調査と比べて女性の進出がやや進んでいる。

『進出している』（「十分進出している」と「ある程度進出している」の合計）と答えた割合（43.3%）は前回調査（37.8%）よりも5.5ポイント高くなっている。

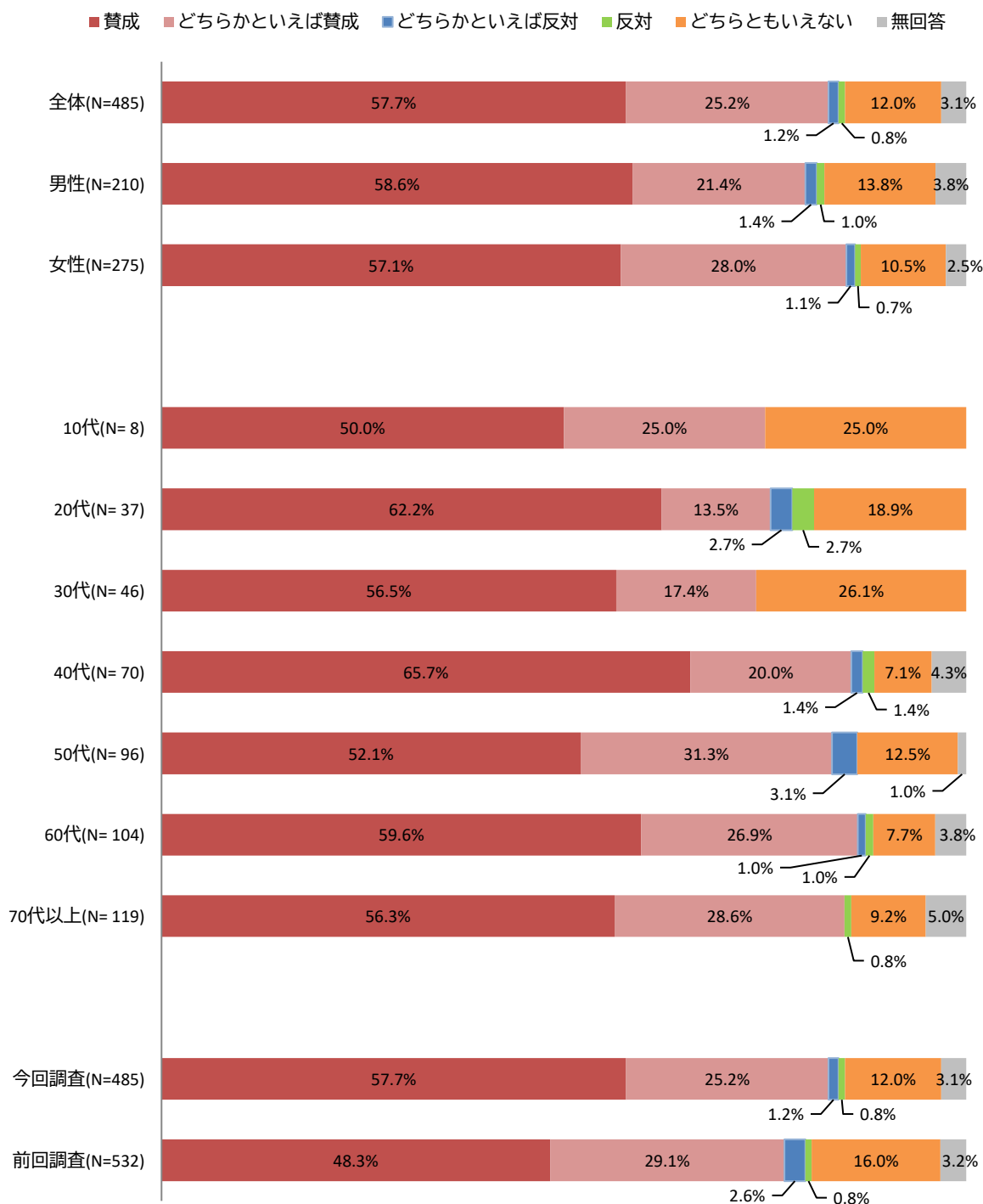
- 十分進出している ■ ある程度進出している ■ あまり進出していない
- ほとんど(まったく)進出していない ■ わからない ■ 無回答



問20 あなたは、女性が管理職に就いたり、地域自治会等の長に就いたりすることについてどう思いますか。

『賛成』が8割を超え、前回調査と比べてやや高くなっている。

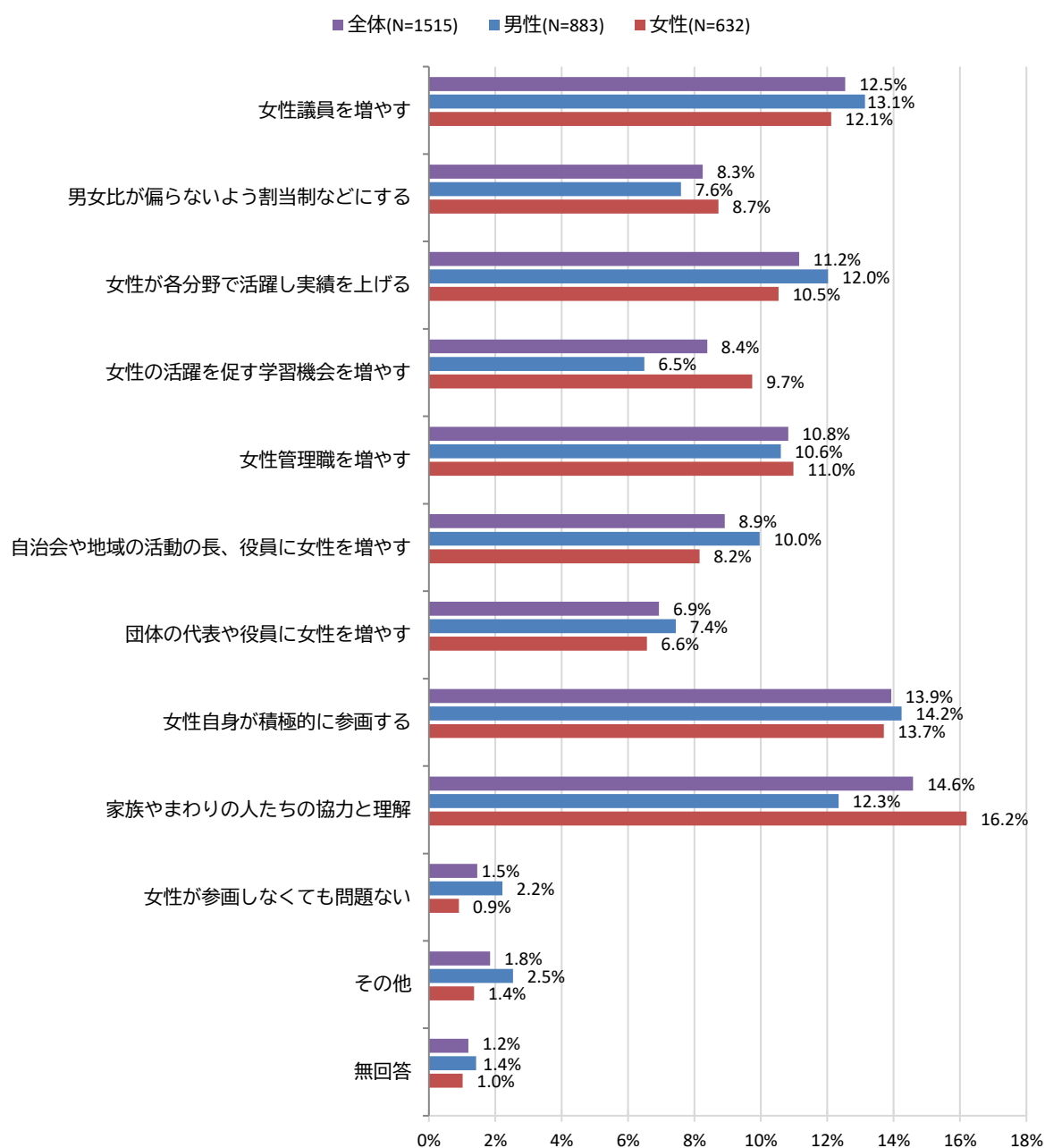
全体では『賛成』（82.9%）となっており、前回調査では『賛成』と答えた割合が77.4%であったのに対し、今回調査では82.9%と5.5ポイント増加した。



問2 1 館林市では各種委員会などの女性の割合35%以上にすることを目指していますが、現状は25.8%程度に留まっています。館林市の各種委員会など、政策や意思決定の場への女性の参画をさらに進めていくには、あなたは特にどのようなことが大切だと思いますか。（当てはまるすべての回答） 新規

「家族やまわりの人たちとの協力と理解」が最も高い。

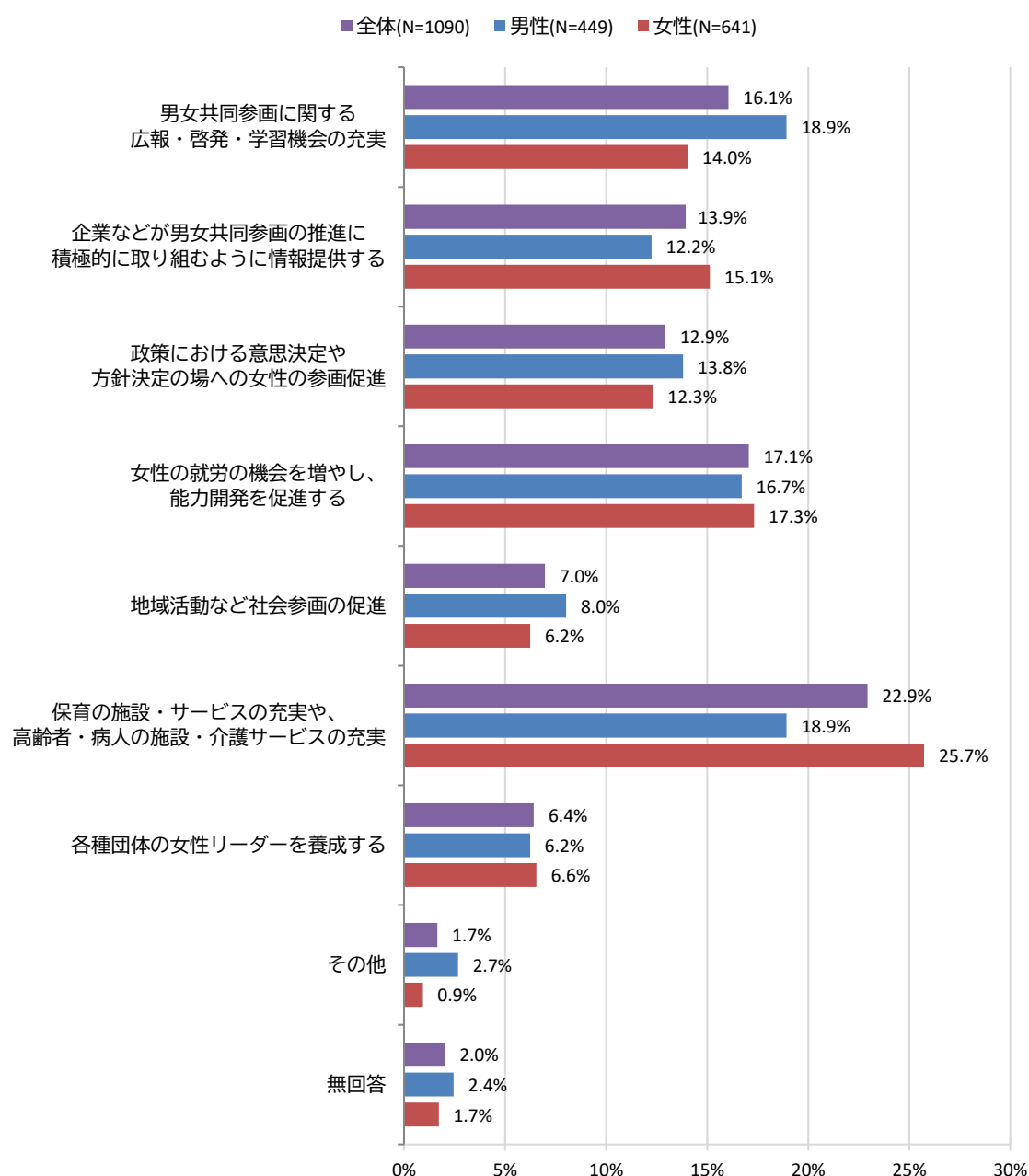
全体では「家族やまわりの人たちとの協力と理解」（14.6%）、「女性自身が積極的に参画する」（13.9%）、「女性議員を増やす」（12.5%）、「女性が各分野で活躍し実績を上げる」（11.2%）の順に高く、女性の社会参加には個人の意思はもちろんであるが、家族などの協力・理解が大切であることがわかる。



問22 あなたは、男女共同参画社会の実現に向けて、市がどのようなことに力を入れていったほうがよいと思いますか。（回答は3つまで）

「保育の施設・サービスの充実や、高齢者・病人の施設、介護サービスの充実」が最も高い。

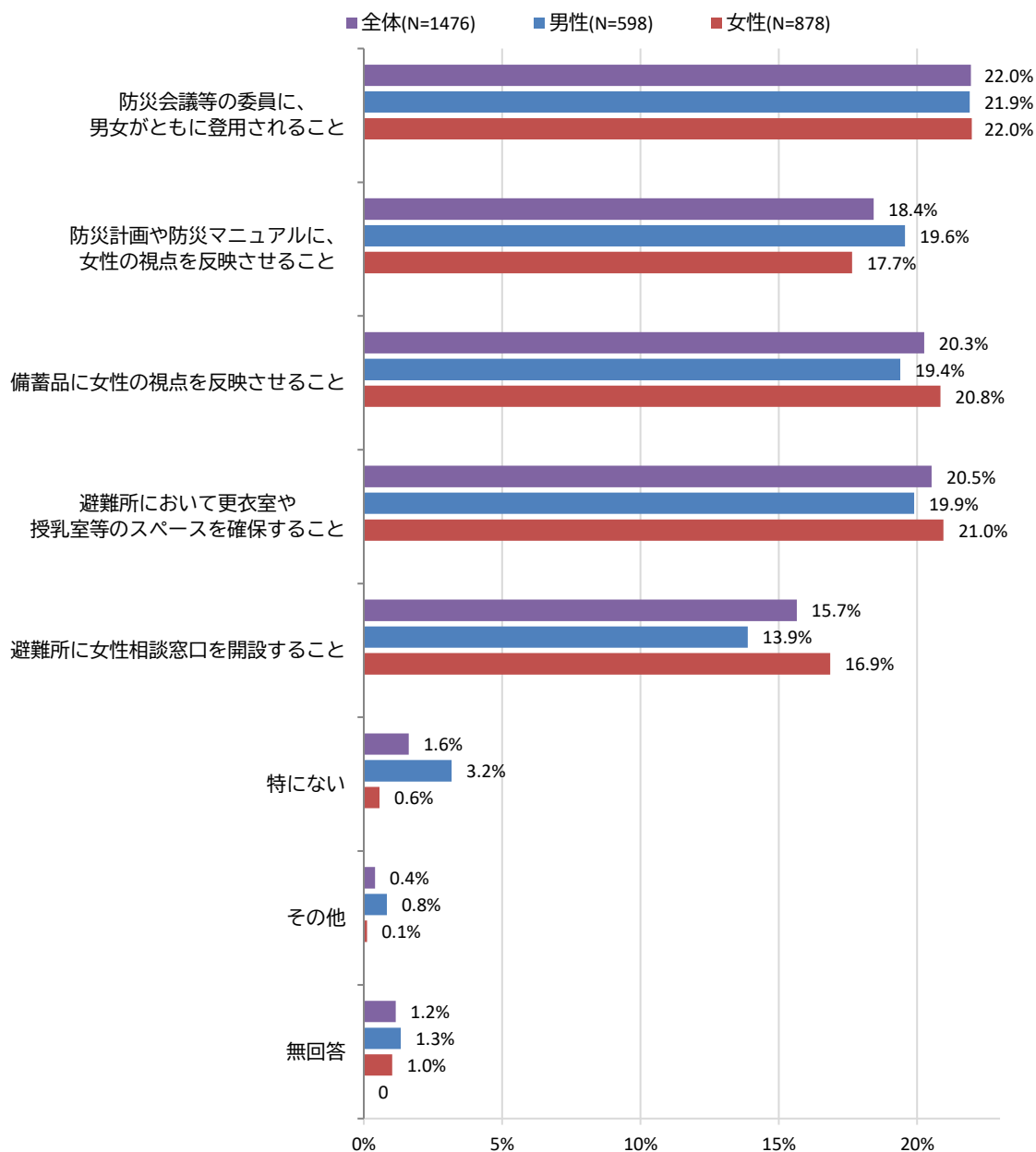
「保育の施設・サービスの充実や、高齢者・病人の施設、介護サービスの充実」（22.9%）が最も高く、次いで「女性の就労の機会を増やし、能力開発を促進する」（17.1%）となっている。男女別で見ると、男性は「男女共同参画に関する広報・啓発・学習機会の充実」（18.9%）と「保育の施設・サービスの充実や、高齢者・病人の施設、介護サービスの充実」（18.9%）が同率で最も高く、女性は「保育の施設・サービスの充実や、高齢者・病人の施設、介護サービスの充実」（25.7%）、「女性の就労の機会を増やし、能力開発を促進する」（17.3%）の順となっている。



問23 現在、防災のまちづくりの推進が一層重要となっています。あなたは、防災の分野で、男女共同参画の視点からどのようなことが必要だと思いますか。
 (当てはまるすべての回答)

「防災会議等の委員に、男女がともに登用されること」が最も高い。

全体では「防災会議等の委員に、男女がともに登用されること」(22.0%)が最も高いが、その他の4項目についても2割前後で横並びだった。「特にない」はわずかとなっており、防災分野での男女共同参画の視点が重要視されていることがわかる。

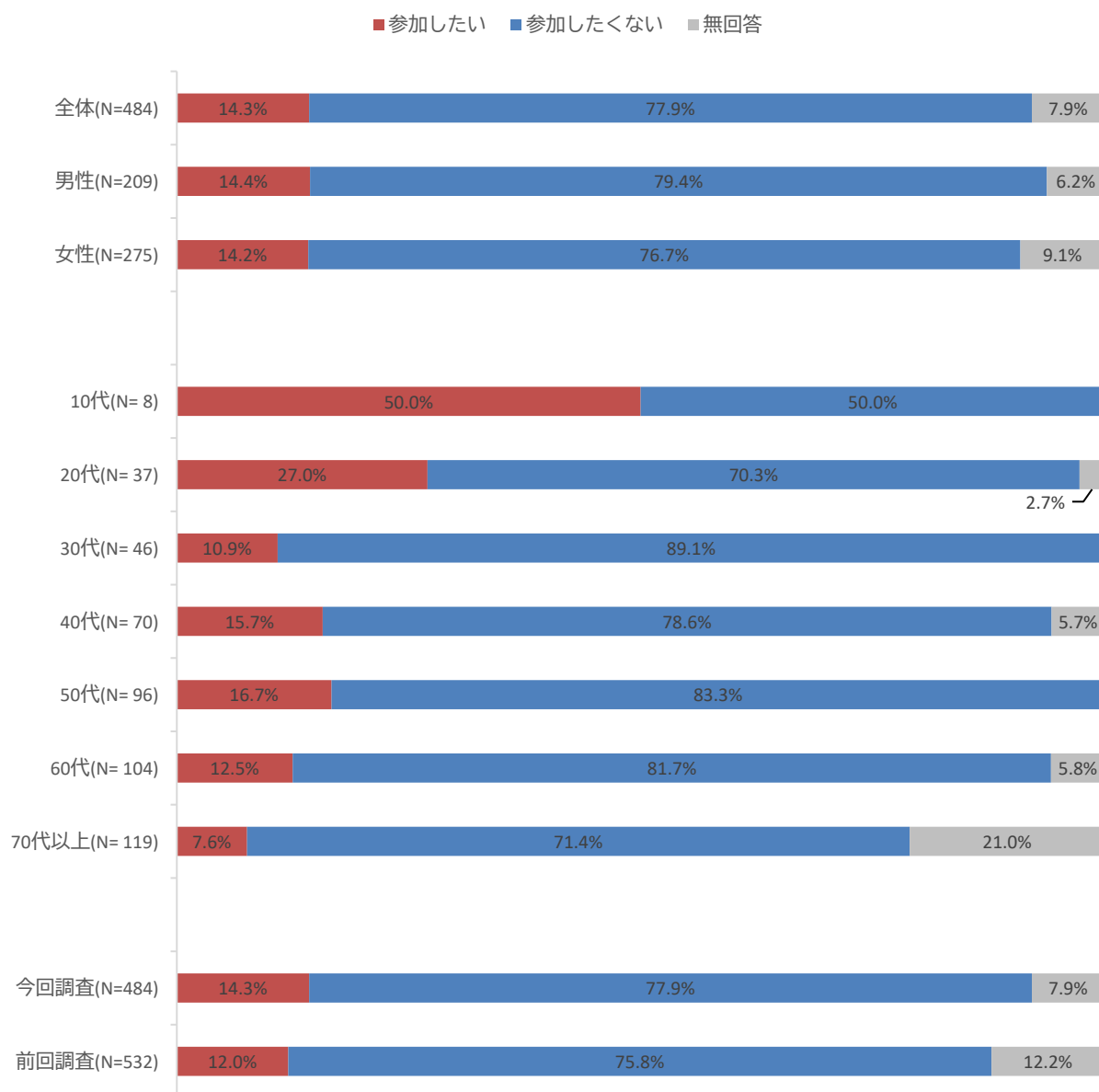


問24

(1) あなたは、男女共同参画社会の実現に向けたまちづくりに参加したいですか。

「参加したくない」が約8割だが、前回調査と比べて「参加したい」がやや増えている。

「参加したくない」が(77.9%)、「参加したい」が(14.3%)となっている。年代別に見ると、「参加したい」と答えた割合が10代(50.0%)、20代(27.0%)が高く、70代以上(7.6%)が最も低い。また、前回調査と比べ、「参加したい」(今回14.3%、前回12.0%)と答えた割合が2.3ポイント高くなっている。



．．．．． 4 自由意見 ．．．．．

自由記述形式で回答いただいたご意見の一部を紹介します。

問7 育児・介護休業をとることについて

- ・いろいろな制度のことがわからなかったから利用出来るものの理解（知識）がない（女性 70 代以上）
- ・パート、臨時の仕事だったので、制度対応なし（女性 70 代以上）
- ・パートなので休める時休めるから（男性 70 代以上）
- ・育児をとる時には子供が高校生になっていた。（男性 70 代以上）
- ・仕事をやめて対応したから（女性 50 代）
- ・仕事現役のころには、制度が確立していなかった。（男性 70 代以上2名、女性 70 代以上2名）
- ・私の時代に無かった制度（男性 40 代）
- ・必要な時期に制度がなかったから（女性 60 代）
- ・そういう制度がなかった（男性 20 代、男性 30 代、男性 60 代、男性 70 代以上2名）
- ・子が3歳になるまで働いていなかった（3～4年）（女性 50 代）
- ・自営業だったから（男性 60 代、女性 70 代以上2名）
- ・自営業で制度がないし、休めない（女性 60 代）
- ・有給でまかっていたから（女性 40 代）
- ・次回は取ろうと考えている（男性 40 代）
- ・自営業のため自分で仕事の調整が出来る（男性 60 代）
- ・知らなかった（男性 30 代）
- ・妊娠していた時、ちょうど仕事を辞めていたため（女性 20 代）

問8 育児・介護休業などをとることに、社会や企業の支援は十分と思うか

- ・育児は時代的、介護休業は理解されていない（女性 70 代以上）

- ・パート（扶養範囲内）でも、育児は必要だと思う。（女性 70 代以上）
- ・パートでもとれるのか分からない。とったところで、職場の人手不足が悪化する。新しい人を入れたら、自分が戻れなくなる。（女性 40 代）
- ・まわりにそういう人がいない（男性 60 代）
- ・もう少し上司等に理解してもらえる様な社会にしなければダメだと思う。（男性 40 代）
- ・育児は制度として認知度が高く、導入している企業や使用した人の話を多く聞かすが、介護休業はあまり聞かないから。（女性 20 代）
- ・育児後、時短復帰された社員と組むと時短後の仕事がこちらに全部まわってくる。同様の人員の補てんがないととらない人に負担がかかるため、こちらもとりにずらいし迷惑である。（女性 20 代）
- ・育児、介護休業が会社にあるのか無いのかわからない、又聞ける雰囲気ではない。（男性 60 代）
- ・介護に関する法令は介護される側のみで介護や日常の世話をしている家族側には全く配慮がない。会社には介護休暇制度はあるが2時間以上でないと該当されず数日の世話にあてはまらなく有給を取るしかない。（女性 50 代）
- ・介護は突然起こり得る場合が多いと思うので、周囲の状況を考えると利用しにくくなってしまふと感じる（女性 60 代）
- ・介護等事業者に対するサポートや人員が少ない時支援がないと育児休業等取りにくいし難しいと思う。（男性 30 代）
- ・会社の応援体制が不十分（男性 50 代）
- ・会社や地域社会の本音とタテマエの部分で制度はあっても、都心や大企業以外は利用しづらい現状があると思う（女性 50 代）
- ・会社側が良く思っていない、理解ある人間がいない（女性 40 代）
- ・各企業による（女性 40 代）
- ・企業によって休業期間のばらつきがある、せめて子が3歳までは一緒にいられたらうれしいと思う。また、休業中の給付金が給料の50%であることに納得いかない。（女性 30 代）

- ・企業に余裕がないから (男性 40 代)
- ・企業の基本的な体制は、1 人がやる仕事内容や仕事量は、専任でギリギリでやっているため。休んだ時のフォロー体制や 2 人体制になっていない。(係長等いるが、自分の仕事でフォロー体制できない) そのため、休むと、関係者や代行者に迷惑をかけたり、後で仕事がたまり、自分が苦しむ。社会や企業の支援や制度は、あっても企業の体制“風土” 雰囲気や、体制を作れる企業の資金と気概がないと難しい。特に、間接部門は専門性が高いので人材確保、育成体制が必要。(男性 60 代)
- ・休みとると変わりがいないのでとれない、とりにくい。(女性 60 代)
- ・休業はあり、大変だと思う (女性 20 代)
- ・休業を使うと周囲に迷惑がかかる、昇進に影響する (男性 60 代)
- ・勤め先の同僚が育児休業をとっていたから。(男性 30 代)
- ・現実的に無理。子供が 2~3 人いる場合、計画通りにはいかない。(女性 50 代)
- ・高齢者の増加に対し、支援がついていない (女性 50 代)
- ・今と子ども育てる時では違うと思います(のんびりしてた) (女性 70 代以上)
- ・仕事と介護、育児の両立は、大変だと思うから。(女性 20 代)
- ・子どもが減っている今、育児休業は、大きな組織では取りやすくなっていると思います。また 50 代後半から 60 代にかけて介護の必要性のある人が増加しているので理解はされつつあります。ただ堂々と取得できるかといえば、その会社組織におけるその人の役割によって違いがあると思います。(女性 60 代)
- ・自分の責任だと思えます。(女性 70 代以上)
- ・社会(企業)ではみとめているが、実際ほかの人に負担がかかるので取りづらい。(女性 50 代)
- ・社会、企業内に育児、介護で休むという考えは浸透していない、又中小企業は、人数をそんなに確保しているわけではないので休みはとれない。(男性 60 代)
- ・社会に制度を尊重する姿勢があまりない。(男性 70 代以上)
- ・主として、会社経営者の人達が、上記制度に対し、理解をしてほしい (男性 50 代)
- ・小規模企業は、現実、申請しにくい(女性 60 代)
- ・身近に休養制度を利用した人があまりいず、比較する人が少ない! (男性 70 代以上)
- ・人手不足。休んだらその給料がへるのでとりたくてもとれない (女性 20 代)
- ・制度ができて型だけであり、実際の社会に適用させられるに致っていない。政治、行政と実社会のギャップがありすぎる (男性 40 代)
- ・制度はあっても、現実にはきびしいように思う (女性 70 代以上)
- ・大企業などは、休みがきちんととれるかもしれないが中小は難しいまだまだなのでは? (女性 50 代)
- ・大手企業の少ない市町村はあまり重視してない。賃金に支障をきたす。(男性 70 代以上)
- ・中小企業では、対応できてない。人員不足、客との関係など。(男性 70 代以上)
- ・中小企業にはムリが生じる余裕がないと思えます (男性 70 代以上)
- ・働いていないので意見を言えるような立場ではないですが、休業明けの環境や、育児してても働ける職場のような環境を目指したほうが良いと思います (女性 30 代)
- ・同僚にしわ寄せがいく。人員配置や金銭で補えればいい (女性 70 代以上)
- ・特に介護休業に対して社会の意識が低く、職場によっては、理解されない事が多い。社会のしくみとして、月単位、年単位で育休同様取得できるようにしてほしい。(女性 40 代)
- ・年齢が高くなる方が多くなるので支援は年齢の高い人やその負担をかかえている人などにもっとやってほしい (女性 50 代)
- ・復帰する時の支援が不十分。(女性 40 代)
- ・平等な社会でない。理由、独身、子育てが終わった世代に厳しい社会。子育て世代も負担率は同じ

- にしていくべき。(男性 40 代)
- ・法的に進めて行く方向にしないと変わらない(男性 40 代)
 - ・じっさいに男性も育児休暇を取っているから。(女性 40 代)
 - ・そういう制度はかぎられた正規職員とかだけだからです、所詮パートは首を切られて終わりです(女性 60 代)
 - ・パートタイム労働や小規模個人事業者の下での就労等、非正規雇用形態では事業者の取組が求められている。理解が乏しい。(男性 30 代)
 - ・もう少し長くとれるとよい(男性 20 代)
 - ・育休は良く聞かすが、介護休暇は余り聞かない。(男性 50 代)
 - ・育児休暇は聞いたことがあるが、介護休暇は聞いたことがなかった(男性 50 代)
 - ・育児休業に関しては制度がしっかりしているし、子供成長とともにある程度期間がわかる。それに比べて介護休業は実質的な終わりが、要介護状態の家族の死だったり要介護状態の悪化で施設に入れたりということになる。その期間がいつになるのか誰にもわからないので、介護するために仕事をやめる人が多いと思っている。そこをやめずに資金面でどうにかなるような制度があればいいと思う。(女性 50 代)
 - ・育児休業はとっているが、介護休暇を取ってる人はまだ見たことない。看護休暇はみたことある。(男性 40 代)
 - ・育児休業や介護休業は必要だとは思っているが、仕事を休むと周囲の人に負担を強いるような状況は作らないようにすべき。(男性 50 代)
 - 社内介護休業した人がいるが、人員の補填もなく、仕事量が増えて大変だった。人の配置や手当の支給など、企業も考慮してほしいが、どうしても企業任せだと環境は変わらないので、何かしらの措置を講じてほしい。(女性 60 代)
 - ・育児休業を取得したが、自分の仕事の負担が他の人に回ってしまうため、申し訳ないと感じることがあった。主人は育児休業の制度はあるが、現実的に取得できなかった。とりあえず自分は育児休業を利用できたのは良かったです。(女性 40 代)
 - ・育児休業等の取得にあつては、公務員を除き、多くの民間企業は、社会的な評判等のために制度は導入しているものの、組織として取得できる、取得をすすめる状況、雰囲気にないとを感じる。(男性 10 代)
 - ・会社が許してくれない。同僚にも迷惑がかかる。納期の遅れで、お客様にも迷惑が掛かる。(男性 30 代)
 - ・会社はしっかり制度を整備しているが、職場は人員やスキル不足で制度を利用しづらいと感じる人もいると思うから(女性 50 代)
 - ・企業によって差がある。(女性 10 代)
 - ・個人的な意見です。女性の働きやすい環境というのは男性の力仕事など男性にしかできない作業の上で成り立っていると思います。得意不得意はあるものの男性の方ができることが多いことは紛れもない事実です。最近の世の中の風潮として女性を参画させるべきというのが推進されていますが、もちろん女性目線での意見などがあるため意見を出すことや話し合いの場に参画いただくことは非常に有意義だと思います。ただ完全に平等というのは絶対に難しく、男性も女性も同様の働き方や生活は同じにすることは不可能です。職場では業務量が男性に偏っている状況があります。上述したことはもちろんですが、できるできないがあるのでしようがないのですが、それに甘んじている方に憤りを感じるのが正直なところです。参画してくる以上、同様な働き方をしていただきたいのは当たり前で、それで成果を得て評価をされる方が上に上がるのがあるべき姿だと思います。女性を参画させるべきということが先行してしまつて平等とはほど遠く女性が優先されていると感じることが多々あります。(男性 60 代)
 - ・私の職場では、育児休業を最長で 3 年取得できるため(女性 60 代)

・社会的に風潮は広がっているように報道等されているが、実際では自分で調べない限り会社でどのような支援がされているのか不明である場合が多い。

また、支援に対しての質問は組織的に暗黙の了解でタブーである雰囲気がある。(男性 70 代以上)

・取りづらい雰囲気がある様に思います (男性 50 代)

・女性はとりやすいが、代わりを立てることが難しい男性はまだまだとりにくい。男性も休業することを前提に、人員を増やすべきだ。(女性 50 代)

・職場の人手が足りておらず、長期的に休むことを良く思わない人が多くいる。(女性 30 代)

・職場の人数がギリギリなので取るのが難しい。(男性 30 代)

・人手不足の中、昔に比べればかなり取得しやすい環境にあると感じます。制度を利用する人も周りに多くいます。企業は人材確保のため努力しておりますし、行政支援が必要な状況とは感じません。(男性 20 代)

・設問が偏りすぎの様に感じ実生活ではもっと曖昧な状態が有る。白黒 右左 では答えられない事が多く有る。(男性 30 代)

・大企業ではどちらの休業も取れる制度ができてきていると思うが、中小企業ではまだ、難しい状況にあると思う。(女性 40 代)

・認知症における介護では、休業制度がどこまで浸透していくのか不確かな気がします。元気で比較的重度の認知症介護・、休業制度よりも社会支援策の充実が急がれるように感じます。(男性 30 代)

問 9 (1) 働き方が変化したことがあるか

・転職 (女性 20 代、男性 40 代、男性 50 代)

・病気 (女性 40 代)

・県外に移住 (男性 40 代)

・離婚 (女性 50 代、女性 60 代)

・ケガ、病気 (女性 50 代)

・リストラ (男性 60 代)

・娘がシングルマザーのため孫を見るため、働く時間が少なくなった (女性 60 代)

・定年退職 (男性 70 代以上)

・5 年前に退社後再雇用 (男性 70 代以上)

・あまり変化感じず (男性 70 代以上)

・加齢 (男性 40 代)

・昇格 (男性 60 代)

・退職し、再就職 (男性 30 代)

・退職により変化した。(男性 20 代)

・定年後の継続雇用 (男性 10 代)

・転勤 (女性 50 代)

・彼氏と同棲するために、相手の職場近くに引っ越した (女性 50 代)

・友人関係 (男性 40 代)

問 9 (2) 職場で男女間に不公平や制度の未整備はあるか

・基本的に要職は一般的に女性ものぞんでいない (男性 60 代)

・女性が昇進や昇格を望まないのでは (男性 70 代以上)

・女性の方が優遇されている、過度な要求が多すぎる。不公平 (男性 50 代)

・職場に女性がいない。(男性 50 代)

・男性従業員がいない為、わかりません (女性 40 代)

・夫婦 2 人での営業なので制度は関係ない。(女性 60 代)

・職場に女性がいない (男性 60 代)

・特にない (男性 30 代)

問 10 仕事を辞めたきっかけ(働いてない方のみ)

・年齢 (女性 20 代、女性 70 代以上)

・テキパキ動けなくてクビになりました (女性 30 代)

・人間関係でやめた (女性 30 代)

・体調不良 (女性 40 代、女性 60 代)

- ・病気の為（男性 50 代、男性 70 代以上、女性 50 代、女性 60 代 2 名）
- ・定年退職（男性 60 代 5 名、男性 70 代以上 11 名、女性 60 代 2 名、女性 70 代以上 3 名）
- ・家業の手伝い（女性 60 代）
- ・健康上の問題（女性 60 代）
- ・仕事しながら結婚、出産、育児をしていた。仕事は隣町です。（女性 60 代）
- ・自分も病気になった。老いた（女性 60 代）
- ・体が弱くて体調をくずした（女性 60 代）
- ・年金受給の年齢に達したから（女性 60 代 3 名）
- ・50 代で会社を閉めたので（女性 70 代以上）
- ・80 才で無職、老後を楽しんでいます。（女性 70 代以上）
- ・一定期間働き、将来の設計ができたので（女性 70 代以上）
- ・会社の職場が無くなる（女性 70 代以上）
- ・経営者が代わって、環境が変わった為。（男性 70 代以上）
- ・高齢の為（女性 70 代以上）
- ・子どもが成人したため。（女性 70 代以上）
- ・小売業を廃業（女性 70 代以上）
- ・早期退職（男性 20 代、女性 30 代、女性 50 代、女性 70 代以上）
- ・早期退職の理由は働き方の問題。第 2 の仕事は高齢のため退職。（男性 70 代以上）
- ・体調・精神面の理由で（女性 40 代）
- ・体調不良（女性 60 代）

問 11 男性が育児・介護休業などを取得しない理由についてどう思うか

- ・意識や考え方の問題（女性 30 代）
- ・結局子供は女性に限るから（男性 40 代）
- ・職場のフォローアップ体制が整ってない（男性 50 代）
- ・男性の休業意識のなさ（女性 60 代）
- ・問 8 の意見欄（企業の基本的な体制は、1 人がやる仕事内容や仕事量は、専任でギリギリでやっているため……の回答）参照願います。他人への

- 迷惑や、仕事の効率等（男性 60 代）
- ・結婚してないから（男性 60 代）
- ・逆に取得していると思う（男性 60 代）
- ・退職してから大分年数が過ぎたので現在の働き方の環境がわからない。（女性 70 代以上）
- ・そういう制度がなかった（男性 70 代以上）
- ・男性は働くべき（女性 70 代以上）
- ・企業によって制度に差があるから。政治家が「育休中に資格を取る」などの外的な考えを持っているから。男性にスキルがないのではなくて、主体的にやろうとしないとスキルは身につかない（本来女性がやるものと思っている限り上達しない）。育休より早帰り制度などのほうが現実的だと思う。（女性 40 代）
- ・職場の人員不足（女性 60 代）

問 13 社会活動・地域活動に参加しようとする際に、さまざまになっていること

- ・コミュニケーション能力が無い（女性 30 代）
- ・参加の仕方が分からない（女性 40 代）
- ・必ず参加できるわけではないので。参加する事が仕事ではないので。（男性 50 代）
- ・対人関係（男性 50 代）
- ・人見知りな性格（女性 50 代）
- ・体が弱くて体力がなく買物に行くのも大変な時がある。（女性 60 代）
- ・外国人がふえてて面倒な事にまきこまれたくない。（男性 60 代）
- ・自分の生活が大切だから（男性 60 代）
- ・魅力を感じない。（女性 60 代）
- ・休みが合わない（女性 60 代）
- ・週一回社会活動に参加している（男性 70 代以上）
- ・地区先住の人の考え方（女性 70 以上）
- ・自分のやりたいことが何か、自分でも分からない。町内会の延長のような気がするから。現在の活動・運営 etc に違和感がある。（男性 70 代以上）
- ・ひま人ではない（男性 70 代以上）
- ・経済的（男性 70 代以上）

- ・病気の為（女性 70 代以上）
- ・老齢にて現状が分からない（女性 70 代以上）
- ・やりたいと思っていることが特にない（女性 40 代）
- ・具体的にどんな活動がいつ行われているのかわからない（女性 60 代）

問 14 家事・育児・介護・地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが特に必要だと思うか

- ・経済が好循環すること。様々な立場の人達にも（女性 30 代）
- ・分からない（女性 40 代、女性 60 代）
- ・あまり難しく考えない。健康のために参加活動すること（女性 70 代以上）
- ・本人次第だと思う（男性 70 代以上）
- ・仕事を休んでも十分な収入があれば（男性 50 代）
- ・金銭不足（男性 60 代）
- ・こうでなければならないという決めつけが良くないと思う（女性 60 代）
- ・地域の方への声かけ（地域活動）（男性 60 代）
- ・性別で役割が違うイメージを幼児期や学童期から持たせない。力や体格の違いが男女差であることは、お互い認識して、分類しないで、得意・不得意で相手の負担割合などを整理する。
地域活動は、地域活動に参加すると良い事があるなど、メリットを生み出す。
ボランティアや自主活動には限界がある（女性 40 代）

問 15 「女性の働き方」についてどう思うか

- ・本人の自由（女性 50 代）
- ・仕事をしたい女性はするべき（男性 70 代以上）
- ・それぞれの価値観で自由に選択できるといい（女性 40 代）
- ・各人のライフステージに合わせて自由に選択出来るが良い（男性 60 代）
- ・物理的に出産は女性にしかなれないのだから、男性と女性の制度を同じにしても本当の意味での

平等にはならない。産んでも産まなくても、女性が肩身の狭い思いをすることがないように社会が理解を示すことが必要。

また、仕事を続けるべき・やめるべきと周りが決めるのではなく、働き続けたい人は働ける、辞めたいひとはやめる、という本人の選択が尊重される世の中になってほしい。

女性にばかり変化を要求するのは間違っていると思う。

家庭と仕事の割合をどうするかは家庭によってそれぞれだが、もし男性が仕事を負うとしても妻の体調が悪いときに家事育児を代わりに担当できるようにしておかなければ生活が破綻する。稼いでいるから家事をやらなくていいと考える男性に意識を変えてほしい。（女性 30 代）

問 16 (1) ハラスメントをしたり、あるいは受けたりしたことはあるか

- ・パワハラをされているのを見た事はある（女性 40 代）
- ・職場ではないが地域のうわさ話などで不快な思いをした（女性 50 代）
- ・会社代表でしたので取引先とはいろいろありました（女性 70 代以上）
- ・夫からのモラハラ（女性 40 代）
- ・自分がされた（男性 70 代以上）

問 16 (2) 身近な人のハラスメントについて聞きしたことはあるか

- ・不機嫌ハラスメント（フキハラ）をされたことがある（女性 50 代）
- ・今なのか過去なのか？時代によってはすべてあったはず（男性 60 代）

問 17 (1) 暴力を振るったり、あるいは受けたりしたことはあるか

- ・してたかもしれませんが。指摘されたことはないですが（女性 30 代）

問 17 (2) 身近な人の暴力について見聞きした

ことはあるか

- ・ 家族間で行われている (男性 30 代)
- ・ あまり意識しない (女性 70 代以上)

問 17 (3) 暴力を振るった、受けた、見聞きさ

れた方はどのような機関や人に相談したか

- ・ 隣近所 (男性 40 代)
- ・ 親に殴られるのはあたりまえにあった。時代が変わりすぎた。(男性 40 代)
- ・ 弁護士 (女性 50 代)
- ・ 専門的な相談機関 (男性 70 代以上)

問 17 (4) どこにも相談しなかった理由は何か

- ・ 言っても直らないから我慢する、気持ちを切り変える。(女性 60 代)
- ・ 考えかたのちがいがい (男性 70 代以上)
- ・ 子供時代の為 (男性 40 代)
- ・ 相談してその人の独断で勝手な事や周りに面白半分で行政に話をされたくないの (男性 30 代)
- ・ 友人の事なので、2 人の問題だと思うから (女性 50 代)
- ・ 相手にするのが面倒くさい (男性 40 代)
- ・ 日常だったから。(女性 60 代)

問 18 DV を防ぐために重要だと思うことは何か

- ・ より添う (男性 30 代)
- ・ おこなった側への罰則。(男性 50 代)
- ・ 結婚したことがないからわからない。(女性 60 代)
- ・ 被害者の支援 (女性 60 代)
- ・ コマーシャル等で、「行為内容」と「刑罰と罰金」等を PR する (男性 60 代)
- ・ 加害者の小人的考え (男性 70 代以上)
- ・ 結婚を避ける。(男性 40 代)
- ・ 第三者に相談する前に日常の会話を大切にしてお互い相互理解とお互いを思いお互いに反省する事 (男性 60 代)
- ・ 幼い頃からの教育。昭和を知っている者からすれ

ば DV 意識への変化が飛躍し過ぎているようにも感じる。

やってはいけない事を親が示すことで子供はやってはいけない事が当たり前になっていく。

昭和の時代今より DV が多かった印象で、された人も多いイメージがあるが、自分が大人になった途端にガチガチにダメな風潮になったことに戸惑いを感じる事もあるのではないかと思う。(男性 30 代)

問 20 女性が管理職に就いたり地域自治会等の長に就いたりすることをどう思うか

.....【賛成の意見】.....

- ・ 政治も年寄ばかりがやっていて今の日本の少子化対策がまったくできていない。女性目線で考えられる人若い人材が必要である。(女性 20 代)
- ・ もし、やりたいのであれば、性別で差別される必要がないため (女性 20 代)
- ・ 男性だけではなく、女性も活躍できる所はたくさんあると思ったから。女性でも活躍 (良いと思う人) できる人は就いた後も活躍できると思ったから。(女性 20 代)
- ・ 男性と女性両方の視点で地域等が良くなるなら良いと思う。(男性 30 代)
- ・ 能力があれば男女関係ないと思う。(男性 10 代、男性 20 代、男性 30 代、男性 40 代、男性 50 代 2 名、男性 60 代、男性 70 代以上、女性 40 代、女性 50 代、女性 30 代、女性 60 代、女性 70 代以上)
- ・ 能力のあるなしに男女は関係ない (女性 30 代)
- ・ 男女の差なく能力を発揮できるとよい。(女性 70 代以上)
- ・ 但し、能力がなければダメ。(男性であっても同じ) (男性 60 代)
- ・ 別に男性である必要がないから (女性 40 代)
- ・ 口だけの奴が管理職にいるより、女性が管理職にいたほうがよい。男では、体制は変わらない、変えられない。(男性 40 代)
- ・ 適材適所で良いと思う (女性 40 代)

- ・女性の観点を多くとりいれて視点を多くする。
(男性 40 代)
- ・社会が成り立たないため (男性 40 代)
- ・男性と女性の仕事などについての考えが違うからきづきがあるから (女性 50 代)
- ・地方は、都市部に比べると、まだまだ考えが古く、保守的な年配の方が多い、地域のしがらみもある
(女性 50 代)
- ・男性の中には望んでやっていない場合もあり、やりたい人・やれる人が管理職なり長をやれば良い
(男性 60 代)
- ・男女共同、共同参画を願うから (女性 60 代)
- ・平等なので、(男性 60 代)
- ・実力や意欲のある人には活躍して欲しい。男女それぞれの役割を理解しあい思いやりのある社会になっていけるとよい (女性 60 代)
- ・男性には男性ならではの良い考えがあるように、女性には女性ならではの視点からの良い考えがあると思うので、女性が管理職につき自らの考えを伝え、実行にうつしていくことは幅広い社会をつくるために必要だと思うからです (女性 60 代)
- ・女性の意見や視点が、意志決定に反映される事でバランスの取れた判断になる (男性 60 代)
- ・男女にこだわる必要は無い (男性 60 代)
- ・女性の方が平等 (男性 60 代)
- ・女性の自治会長を見たことがない (男性 60 代)
- ・女性管理職を、多くするには、家族(夫など)の協力なしには難しい。出産による休職や復帰後の子育てとの両立や体制作りなど企業の協力なしには難しい。個人的には、女性の方が管理職に向いていると感じます。男性より人当たりが良かったり、愛情が多く、あめとムチの使い方が上手だと感じます。偏見かもしれませんが。(男性 60 代)
- ・考え方と現実が離れすぎている。(女性 70 代以上)
- ・意外に女性が女性に厳しいので、社会がそれが普通になれば良いと思う。館林は特に変化が少ないので市が変化あることを希望します。(女性 70 代以上)
- ・地域社会によって、考え方が違うのでは。(男性 70 代以上)
- ・男女比は 1:1 なのに企画づくりや方針方法の過程に女性の参加が少なすぎる。大いに登用してほしい。(女性 70 代以上)
- ・平等であるべきだから(能力重視) (男性 70 代以上)
- ・女性の考え方が大切だと思う (女性 70 代以上)
- ・やる気のある人が長の方が良いと思う。(男性 70 代以上)
- ・男は社会の目の自己満足虚栄心が高く、中身はとぼしい。女性は細く隅々まで観られる。(男性 70 代以上)
- ・留意点)男性中心の組織が社会からの批判を避ける目的で、「現行の風土を進認/肯定する女性を「長」に抜擢する」or「している」気がする。これではカタチは整っても、何も変わらない。(男性 70 代以上)
- ・責任の度合いが同じである事を自覚してもらい、だからと逃げ道はない事がわかってもらい身体的理由などを理由にしない！ (男性 70 代以上)
- ・男性よりコミュニケーション能力が有り業務が円滑に進むのでは。(男性 70 代以上)
- ・男性とは異なる視点で物事をとらえられる (女性 70 代以上)
- ・希望するのであれば男女は問わないでよいと思います (女性 70 代以上)
- ・まず、管理職や会長には「優秀な人」や「みんなからの信頼が厚い人」がなるべきであり、そこに男女の性差による違いはないと思うから。(男性 30 代)
- ・持っている能力を発揮してもらい、従来からの視点をどんどん変えて欲しい。(男性 20 代)
- ・女性の考え方なども必要だから (男性 50 代)
- ・女性は細かいことに気づけるなど、男性とは違う見方が出来ると思うので、能力でどんどんやっていくのは良いことだと思う。ただ男性が多い現状で男性側の理解と一緒にやっっていこうという、平等さが必要だと思う。(女性 50 代)

- ・女性は男女平等に見てくれる人が多いから。(女性 50 代)
- ・女性も能力のある人はそれ相応の職につくべき (女性 40 代)
- ・女性側の意見を通せる環境を整えるには女性の長が必要だと思うから。(女性 60 代)
- ・性別はどうでもいい (男性 40 代)
- ・正当で公平な判断を理論的に感情に流されずできるのであれば、男女関係なく賛成です。(男性 10 代)
- ・積極的に賛成でなく、どちらでも良い (男性 30 代)
- ・誰がなってもよい (男性 50 代)
- ・男女に関係なく、能力や適正に応じた役職に就くことが大切だと思うから (女性 10 代)
- ・男女関係なく、管理職として相応しい人間になるべきだと思う (女性 60 代 2 名)
- ・男女区別する必要はないと思います。(男性 70 代以上)
- ・男女平等で良いと思う (男性 50 代 2 名)
- ・男女平等なら誰がついてもいいから(女性 30 代)
- ・男女平等の社会を目指す為に必要不可欠だと思う。(女性 50 代)
- ・男性がほとんどだから (女性 40 代)
- ・特に女性が管理職についても問題はないから (女性 30 代)
- ・特に問題はない (男性 30 代)
- ・能力があれば男女という括りは関係ない (男性 10 代、20 代、50 代、60 代)
- ・本当の意味で平等になるのであれば男女問わず能力がある人が上になるのは当たり前。男性にしか出来ない、させない仕事がある限りは本当の平等ではないと思うので女性が上に立ってないのは当たり前。(男性 30 代)
- ・優秀な人材は積極的に活躍してほしい (男性 40 代)

.....【反対の意見】.....

- ・男女問わず、管理職、長に就く人物は、子どもの

- 体調等で、早退・遅刻することなくどっしりと仕事ができる人でなければならない。(男性 20 代)
- ・男性のほうが、知識や技能がすぐれているから (男性 30 代)
- ・男性の方がまとめ役にむいていると思うから… (女性 50 代)
- ・女性は、感情的になりやすく管理職、平等、に就いたりすることは好ましくない、やめてほしい、仕事・職場での実体験から。フェミニストの横暴さも目立つので。能力が無いのに管理職・長等に就くと回りが迷惑するのでやめてほしい。実態を見て。(男性 70 代以上)

.....【どちらともいえない】.....

- ・能力のある人間が就くべきで性別は関係ない。(男性 30 代 2 名、男性 50 代、男性 60 代、女性 50 代)
- ・女性男性関係なくやりたい人がやれば良いと思う。人それぞれ価値観ややりがいの比重が違うので (女性 30 代)
- ・仕事を優先出来る体制、気持ちがあれば良い。(男性 40 代)
- ・ひまな人が賛成すれば良い (男性 40 代)
- ・男も女も同じ人間なので (女性 50 代)
- ・女性がマネジメントの仕事をすることに賛成も反対もない。適材適所で差別なく従事すべきであるから。(男性 70 代以上)
- ・よくわからない (女性 50 代)
- ・ちゃんと仕事できる方なら特に問題ないかと。(男性 40 代)
- ・どの性別であっても、管理職や長に就くことができるべきであるから (女性 60 代)
- ・女性がどうの男性がどうのといった考え自体が男女差別になると思う才能や実行力が有れば男女問わず前を歩けば人はついてくると思う (男性 20 代)
- ・女性だからとか男性だからとかでなく、仕事の能力や人柄で判断すべき。性別を考慮に入れている時点で、男性にも女性にもフェアでない。(女

性 30 代)

- ・適材適所や女性が望むならよいと思うが、女性の登用率を上げるために優秀な男性職員を差し置くことはモチベーションの低下につながる。(男性 10 代)
- ・能力があるのであれば男女は問わない。実力主義であれば良い。ただ女性を参画させるために就かせる、というのであれば反対。(男性 60 代)

問 21 政策や意思決定の場への女性の参画をさらに進めるにはどのようなことが大切だと思うか

- ・しがらみの問題だと思います(女性 30 代)
- ・子供を見てくれる(預かり)を充実させる(女性 30 代)
- ・女性の割合よりもなにをやるかが大切(女性 30 代)
- ・やりがいを感じるなら自発的に増えると思います。男性だってしかたなくやっている人もいる。(女性 40 代)
- ・制度はあるだけでなく、前面に出る人物を選出すればよい(男性 40 代)
- ・古い考え方を持った男性への教育(女性 50 代)
- ・女性に原因を聞いて対策方針を決める(男性 50 代)
- ・男尊女卑思考の男性が今も多いので、男性への学習機会、講習、必要。これは、男女全体に行っても意味のないこと。(女性 50 代)
- ・無理にふやしても問題がふえるだけ、今のままで良い(男性 50 代)
- ・割合は重要ではないがどうしても割合をとるなら 50%以上(男性 60 代)
- ・数字にこだわる必要はない。能力適正を重視すべき(男性 60 代)
- ・体調や、出産前後、子育て支援や出勤体制の優遇など人類の半分は女性なので、その意見を反映してほしい(男性 60 代)
- ・特に興味なし(女性 60 代)
- ・前設問同様、男女関係なし。やる気のある人がやれば良い(男性 60 代)

- ・やさしい言葉のつかい方の活動(男性 70 代以上)
- ・わからない(女性 70 代以上)
- ・女性が活躍できる制度や環境を作る。(男性 70 代以上)
- ・女性ばかりいてもわかってない人では困る(女性 70 代以上)
- ・町内会の運営方法の抜本的見直し。老齡→若い人(世代交替)。フクザツな意志注意手段→簡素化・合理化(効率的な運営)。(男性 70 代以上)
- ・35%以上を目指すこと自体がおかしい(男性 40 代)
- ・活動内容を具体的に明示する。例えばミーティングの回数、頻度、時間、時期等(女性 60 代)
- ・参画したいと思う女性が多ければ、自ずと割合は増えるはず、増えないというのなら、女性が各種委員会に興味がないのでは?(男性 30 代)
- ・女性も参加していい、女性を尊重する受け入れ態勢を整えたらいいのではないかと思う。(女性 20 代)
- ・審議会等の行政がある程度コントロールできる組織体のメンバー選定にあっては、行政が積極的に女性を選定するようにすれば良い。(男性 50 代)
- ・前述の通り、本当の男女平等なのであれば自然と増える。女性の割合が少ないのは仕事を選ぶ女性がまだ多いということではないか。(男性 50 代)
- ・無理に女性の管理職数等を増やす前に世論の風潮を変えていく自然体が良いと思う(男性 50 代)

問 22 男女共同参画社会の実現に向けて、市がどのようなことに力を入れたほうがよいと思うか。

- ・何が大事なのか今こそ市が判断すべき。女性主義なのかどうか。(男性 40 代)
- ・これ以上問題をふやさないでほしい、今のままで良い(男性 50 代)
- ・特になし(女性 50 代)
- ・男女を分けている自体がおかしな話しでは?(男性 60 代)

- ・わからない (女性 60 代)
- ・従事する事を考えるべき (男性 70 代以上)
- ・学生時代からちゃんと仕事しないと悲惨だと学習させる。他の生徒に押しつけないでグループワークとかも自主的にやらせる。就職活動も催促してでもやらせる。(男性 40 代)
- ・自然でよいのでは (男性 30 代)
- ・社会全体で男女平等を間違えないで欲しい。都合の良い所だけ平等を謳っても意味はない。本当に平等にするなら女性の意見だけを汲み取るのは良くないと思う。(男性 20 代)
- ・女性の能力を適正に評価する。(男性 50 代)
- ・男女で測らず実力で。(男性 50 代)
- ・男女共同参画社会の必要性を感じない (男性 50 代)

問 23 防災の分野で男女共同参画の視点からどのようなことが必要だと思うか。

- ・防災は女性の方が具体的にアイデアをもっている人が多いです。ぜひ声をひろって下さい。(女性 40 代)
- ・男性にも女性にもやる気のある人-ない人がいます。人のため、市のため国のために頑張りたい人がやればよい。それよりも子供を育てられる環境の方が大切。(男性 60 代)
- ・地域内の弱者(単身高齢、引きこもりなど)の緊急避難のための具体的施策・方針*
「個人情報の機密性」を理由に、具体的対策が取れずに居る。「町内隣組」の機能もはたせていない現状がある。(男性 70 代以上)
- ・まず、一連の防災関連作業を女性にもさせてみてはいかがですか？
頭を使うことが女性の仕事ですか？
男性でもキツイ重労働をこなせる女性がいれば周りは何も文句は言えないのではないかと思います。(男性 40 代)
- ・男女で避難所を完全にわければ、男女間の問題は避けられそうな気がします。(男性 60 代)

問 24 男女共同参画社会の実現に向けたまちづくりに参加したいか

.....【参加したい】.....

- ・男女の差で差別せず、1人1人が活躍できる社会になればいいと思う。(女性 20 代)
- ・私はまだ学生だが、就職した企業で発言する場面があるのなら、育児や介護に女性、男性という区別をつけて休業制度を設けるのではなく、すべての人が公平に受けられるような制度を考えてみたい (女性 20 代)
- ・アンケートや役所等で必要なサービス支援を多く取り入れ平等に対策する必要がある。(男性 30 代)
- ・具体的には思いうかばないが自分にできることがあれば参加したい (女性 30 代)
- ・男女平等の施策を推進して頂けるなら、どのようなまちづくりでも参加したい。(男性 40 代)
- ・会議で決める前に「案」は SNS 等を活用して、たくさんたくさん話し合うのが大切だと思います。かしまった会議では声は出ないのでは？生活に1番接している問題ですから、敷居を下げたらもっと多くのアイデアがあつまると思います。そういう意味で「参加したい」を選択 (女性 40 代)
- ・現代社会では、生涯未婚率や単身世帯の増加が進んでることから、どんな世代でも利用可能な、家事等の代行サービスや公共施設の利用促進が必要と考えます。また、物価高上昇に伴い、単身者には、補助はなく、頼れる人もいなければ負担は一人にのしかかります。そこに対する政策も必要不可欠です。(女性 40 代)
- ・まだ未定。(男性 50 代)
- ・参加したくないのではないので参加したいにしましたが、具体的にと言われてもまだまだよくわかっていないので今回のアンケートを機に男女共同参画社会の事を知り得たいと思いました。(女性 50 代)
- ・男女平等は少し難しい事もありますが、だれでもこの社会で生きていける用になればいいと思います

- ・生活、教育、政治。参加しやすく、意見が通るやさしい市になっていければいいなと思います。安心、安全、でくらしたいです。(女性 50 代)
- ・講習会があれば参加したい、・呼びかけ活動が、参加しやすい雰囲気なら参加したい。(女性 50 代)
- ・住みやすいまちにするためには人それぞれに学習する機会が必要であると思います。その機会を創出する担い手になりたいです。(女性 50 代)
- ・女性が犠牲者(被害者)になりうるケースが多く、行政等でもう少しふみきった対応してほしい(女性 50 代)
- ・参加はしたいが今のところ具体案は持っていない。(女性 50 代)
- ・私は保守的な 70 代です、私が学生、社会に出た時代とはだいぶ、世の中の考えが変化していると思います。今の若者、現役世代の考え方を聞いてみたいです。但し体調次第です。(男性 70 代以上)
- ・差別のある時代に育ってきたので今後の共同参画社会の実現に向けて微力ながらも手助けできたらと考えます。(女性 70 代以上)
- ・後期高齢者なので責任重大な事は出来ませんが、地域の行事や公民館活動などには参加させて頂きたいと思っています。(女性 70 代以上)
- ・具体的にはないけど、その時々を考える。(女性 70 代以上)
- ・何事も役職や立場を取っ払ったミーティングやカンファレンスを基本として、性別等に関係なく住みやすい環境基盤の形成が必要だと思います。マイノリティへの配慮や理解をすすめ、地域コミュニティの再構築(現在の自治体制や地域住民との繋がりを見直しなど)を意識した居住環境(街づくり)ができれば、何か変化が起きるかも…と、思います。(男性 40 代)
- ・学校では男女平等に扱われるのに、社会に出ると男性優先になるというギャップを解消する面で何かお手伝いできたらと思う(現時点で具体案があるわけではないが)。(女性 60 代)

- ・行動と言うよりは提案をしていきたい。(男性 30 代)
- ・男女が可能な限りそれぞれ平等であること。(男性 20 代)

.....【参加したくない】.....

- ・男女とか青年、老人とか気にしないで生活したい。愛ある世界に自分がある(男性 70 代以上)
- ・男女関係なくより良い館林にしてほしい。(男性 60 代)

.....【無回答】.....

- ・参加したいという意欲はあるが具体的には思いあたりません。(女性 70 代以上)

問 25 男女共同参画に関するご意見 **新規**

- ・これ以上、女性の負担を増やさないでください。男女平等にしたいのなら保育や教育の強化をしてください。
館林に生まれてから 30 年住んでいますが子供に優しくない町のままです。いいかげんにしてほしいです。(女性 30 代)
- ・ラインや SNS 等で必要支援やサービス等を出したり、意見を出せる場所を作る必要がある。(男性 30 代)
- ・一市民として応援していますので役所も頑張ってください！以上。(男性 40 代)
- ・もう少し分かりやすくした方がいいかもです。(男性 40 代)
- ・男性にも優遇がある企画が欲しい(男性 40 代)
- ・無理にやらなくても、進めなくても良い、かんちがいする女性がふえるだけ、今のままで良い。(男性 50 代)
- ・結婚により都市部から館林に来ました。
地域のしがらみ、前倒などが、男女共同参画社会のさまたげになっていることも多いと思います。
地域の深いつながりからチームワークも、うまく作用した時は良いのですが、(女性 50 代)
- ・私 20 代で、下の世代とかかわりがないから 0-

10代のことは分からないが、同年代～高齢の男性の多くが、男尊女卑思考が強いように見える。

「女なんだからこれくらいしろよ」や能力がなくても「男でこの給料は低いからもっと高い給料にしよう！」など。

私が見聞きした中でそういう発言をする男性は、声の大きい（発言力のある）人、権威のある人だったりする。

×権威のある人→○自己愛が強く、プライドの高い人→考え方を考えるのは難しいだろう。→こういう人たちに対し、集中的な指導？学習活動？が必要だと思う。

（自己肯定感が低く外交的でない男性で女性なら身体的に勝てると思ったようで女性を下に見るような人も見たことがある。）（女性 20代）

・女性自身があまり積極的に仕事に向上心をもってやっている人は少ないと思う。（男性 60代）

・まずは、個々の生活が大切、それからのこと（男性 60代）

・館林市民だけでなく、社会全体での男女に対する意識が変わらなければ、いけないと思います。

未だに、女性の地位は低いです。（女性 60代）

・男女共同参画は具体的方策がむずかしい。まず学校教育の中で男女の違いを認めながらの男女平等を教え、大人は公民館レベルでの啓発講演を行い、考えを広めていく、こういうまちづくりをしていくと決めたなら身近なところから議会、市役所、学校・公民館などから女性の長を出していくことはすぐできることかと思う。（女性 70代以上）

・市役所の人たちだから物事強く考えるので、やさしく考えれば良い町になる（男性 70代以上）

・高齢者は自分達の生命を守ることを中心に活動。この世代は男/女の差は問題でない、動けるか否かが重要。

若い世代は、「自分と自分達の子供の生活の充実」も中心に活動するのが良い。既存のPTAなどではなく。

「子ども会、育成会員とOB・OG」を主体に組

みたてたらどうか？この世代では、「男女共同参画」は普通のことになっている（なりつつある）。

（男性 70代以上）

・現状には、どうしても男女の差がつく様に思います。（女性も力をつけなければ）（女性 70代以上）

・73才、自分の健康管理で精一杯です。

地域(行政区)に男女共同参画のための、推進員や相談員などを配置(要属)すれば、もっと身近に意見を上げることができると思います。（女性 70代以上）

・まずは、いちばん身近な家庭内での男女平等を実現しないと、男女共同参画の社会は、理想で終わってしまうだろう。（男性 70代以上）

・設問に対しての回答欄を検討してはどうでしょうか（男性 70代以上）

・男・女と分ける必要は無い。（男性 70代以上）

・年令的に参加は出来ませんが、女性の地位向上社会実現を願います。（女性 70代以上）

・男女平等、男女参画などの言葉は、よく周知され定着されて、いると思いますが、まだまだ男性社会を感じています。しかし、若い共稼ぎの方々は、出来る事を、出来る人が、やっていると話を、よく聞きますので、年齢が若い方々の間では実行されている思う。

根本的な男女の違いを理解しながら、助け合い、平和と均衡を保ちよりよい社会を作り進めてほしいです。（女性 70代以上）

・男性だから女性だからというのではなく、やりたい人がやりたい事を、周囲に意見されたり防げられることなく、選択できることが大切だと思います。

いずれ男女というか、人として皆平等になるといいですね。（女性 70代以上）

・理想と現実には開きがある。（女性 70代以上）

・すでに行政支援や指導のフェーズは終わっていると思います。私の家庭は妻があまり働きたがらないし、収入面の不安も少ないため、男が仕事、女が家事との分担になっています。それぞれの個人や家庭の判断で選択できる時代だと感じてお

- ります。昇進は過去を引きずっている面こそあれ、直近は有能な女性は昇進してますし、有能な女性でも家庭を優先したく責任を持ちたくないと選択する人もいます。10年前とはだいぶ状況が変わっていると思っております。(男性 40 代)
 - ・育児や家事など女性が仕事をしていても女性がやる比率が多いと感じる。家事や育児は女性の仕事と思っている人がまだまだ多い。男性の意識改革とお互いに思いやりをもつことが大切だと思う。(女性 60 代)
 - ・館林市の古い、硬直した風土を改善する。(男性 30 代)
 - ・共同参画という名の元に強制的に比率をふやしたりすることは良いとは思わない。適材適所で能力や知識によって事が進められると良いと思う。(男性 20 代)
 - ・効果があるか非常に疑問です。(男性 50 代)
 - ・今の社会では本当の男女平等は無理だと思います。男性目線で恐縮ですが、女性進出の言葉だけ一人歩きしていて最近では女尊男卑になっているのではないかと思います。少なくとも、男性が得をする場面にはあったことはありません。(男性 50 代)
 - ・仕事と家庭で精一杯で、参加する時間と精神的な余裕がない(女性 50 代)
 - ・子育てで一旦社会から取り残されるような現状を改善すべき。子どもが1歳になったあとも、子育てがしやすいような制度を雇用の面で充実させるべき。(女性 40 代)
 - ・女性議員、管理職を増やすとの設問があるが、目標ありきではなく、能力評価を正しく行った上での増加が必要と思う。現状の処遇が良いと感じている女性も居ると思うが…。これはどうするのか？(男性 60 代)
 - ・制度を作るのも大切ですが、女性がガマンすればよいという社会のあり方から変えていく必要があると思います。(女性 40 代)
 - ・男女がお互いを尊重して行くことが大事。(男性 10 代)
 - ・男女とくくらずに、優秀な人が社会的地位を持てればよいと思います(男性 30 代)
 - ・男女を問わずに話が始まる状況を作っていく。(男性 50 代)
 - ・平等より公平がよい(男性 60 代)
- ※掲載内容について
- ①個人情報やプライバシーに関わると考えられるもの
 - ②誹謗中傷や公序良俗に反する表現と考えられるもの
 - ③男女共同参画の推進との関連がないと考えられるものを除き原文のまま掲載しています。

男女共同参画社会に関する意識調査

市民の皆さまには、日ごろより市政へのご理解とご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

館林市では、令和4年度に「第6次館林市男女共同参画基本計画」を策定し、男女共同参画社会の実現に向け、様々な施策を推進しておりますが、計画期間が令和8年度をもって終了することとともない、第7次計画を策定することとしております。

この調査は、市民の皆さまの男女共同参画に関する意識や考え方をおうかがいし、第7次計画の策定や、施策の立案・推進に役立てるために実施するものです。今回、市内にお住まいの18歳から70代までの男女500人ずつを無作為に選ばせていただいたところ、あなた様にご回答をお願いすることになりました。

調査結果は、集計結果として公表いたしますが、記入していただいた内容は、すべて統計的に処理され、お名前が出ることや個人が特定されることは決してありません。ぜひ、率直なご意見をお寄せください。

◆家庭・学校・地域・職場などあらゆる場において、男女が共に個性と能力を発揮できる生き生きとした館林市をつくるために、大切な調査です。調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

令和7年8月

館 林 市

ご回答にあたってのお願い

この調査は、あなた(あて名のかた)ご自身にお願いするものです。ご自身のお考えでご記入ください。また、太枠の回答欄には丸囲みをせず**数字のみ**をご記入ください。その他を選ばれた場合は太枠に数字を記入した上で()内に具体的な内容をご記入ください。調査票(紙)またはインターネットのどちらか一方で回答してください。

①調査票(紙)による回答

記入が終わりましたら、同封の返信用封筒(切手不要)に入れて **9月25日(木)**までにご投函ください。(ご住所やお名前を記入する必要はありません)

②インターネットによる回答

スマートフォン、タブレット、パソコンのいずれかで、下記のURL または QR コードから回答専用サイトにアクセスし、**9月25日(木)23:59**までにご回答ください。

【URL】 <https://logoform.jp/form/UdDE/1164775>



QR コード

◆この調査に関するお問い合わせ◆

館林市 市民環境部 共生社会推進課 多文化共生係

電話(直通)0276-47-5120

電話(代表)0276-72-4111 (内線 687)

I 男女の役割や地位に関する意識について

問1

あなたは、次の①～⑤の分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。各設問について当てはまる選択肢の数字を太枠の回答欄に記入してください。

<p>① 家庭生活の場で</p> <ol style="list-style-type: none">1.男性のほうが非常に優遇されている2.どちらかといえば男性のほうに優遇されている3.平等4.女性のほうに非常に優遇されている5.どちらかといえば女性のほうに優遇されている6.わからない	<input type="text"/>
<p>② 就職活動の場で</p> <ol style="list-style-type: none">1.男性のほうに非常に優遇されている2.どちらかといえば男性のほうに優遇されている3.平等4.女性のほうに非常に優遇されている5.どちらかといえば女性のほうに優遇されている6.わからない	<input type="text"/>
<p>③ 職場環境の面で</p> <ol style="list-style-type: none">1.男性のほうに非常に優遇されている2.どちらかといえば男性のほうに優遇されている3.平等4.女性のほうに非常に優遇されている5.どちらかといえば女性のほうに優遇されている6.わからない	<input type="text"/>
<p>④ 賃金・報酬の面で</p> <ol style="list-style-type: none">1.男性のほうに非常に優遇されている2.どちらかといえば男性のほうに優遇されている3.平等4.女性のほうに非常に優遇されている5.どちらかといえば女性のほうに優遇されている6.わからない	<input type="text"/>
<p>⑤ 学校教育の場で</p> <ol style="list-style-type: none">1.男性のほうに非常に優遇されている2.どちらかといえば男性のほうに優遇されている3.平等4.女性のほうに非常に優遇されている5.どちらかといえば女性のほうに優遇されている6.わからない	<input type="text"/>

<p>⑥ 政治の場で</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 男性のほうが非常に優遇されている 2. どちらかといえば男性のほうが優遇されている 3. 平等 4. 女性のほうが非常に優遇されている 5. どちらかといえば女性のほうが優遇されている 6. わからない 	<input type="checkbox"/>
<p>⑦ 法律や制度の上で</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 男性のほうが非常に優遇されている 2. どちらかといえば男性のほうが優遇されている 3. 平等 4. 女性のほうが非常に優遇されている 5. どちらかといえば女性のほうが優遇されている 6. わからない 	
<p>⑧ 社会通念・習慣・しきたりなどで</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 男性のほうが非常に優遇されている 2. どちらかといえば男性のほうが優遇されている 3. 平等 4. 女性のほうが非常に優遇されている 5. どちらかといえば女性のほうが優遇されている 6. わからない 	<input type="checkbox"/>
<p>⑨ 地域活動の場で</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 男性のほうが非常に優遇されている 2. どちらかといえば男性のほうが優遇されている 3. 平等 4. 女性のほうが非常に優遇されている 5. どちらかといえば女性のほうが優遇されている 6. わからない 	
<p>⑩ 社会全体で</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 男性のほうが非常に優遇されている 2. どちらかといえば男性のほうが優遇されている 3. 平等 4. 女性のほうが非常に優遇されている 5. どちらかといえば女性のほうが優遇されている 6. わからない 	<input type="checkbox"/>

問2

あなたは、結婚に関する次の①～⑦の考え方についてどう思いますか。各設問について当てはまる選択肢の数字を太枠の回答欄に記入してください。

① 結婚する、しないは個人の自由である 1. 賛成 2. どちらかといえば賛成 3. どちらかといえば反対 4. 反対 5. わからない	<input type="checkbox"/>
② 夫婦は別々の姓を名乗っても構わない 1. 賛成 2. どちらかといえば賛成 3. どちらかといえば反対 4. 反対 5. わからない	<input type="checkbox"/>
③ 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない 1. 賛成 2. どちらかといえば賛成 3. どちらかといえば反対 4. 反対 5. わからない	<input type="checkbox"/>
④ 愛情や信頼がなくなれば離婚するのもやむを得ない 1. 賛成 2. どちらかといえば賛成 3. どちらかといえば反対 4. 反対 5. わからない	<input type="checkbox"/>
⑤ 子どもがいたら離婚しないほうがよい 1. 賛成 2. どちらかといえば賛成 3. どちらかといえば反対 4. 反対 5. わからない	<input type="checkbox"/>
⑥ 事実婚も法律に基づく結婚と同様に理解され、制度なども利用できるとうい 1. 賛成 2. どちらかといえば賛成 3. どちらかといえば反対 4. 反対 5. わからない	<input type="checkbox"/>
⑦ 同性同士の結婚も法律に基づく結婚と同様に理解され、制度なども利用できるよい 1. 賛成 2. どちらかといえば賛成 3. どちらかといえば反対 4. 反対 5. わからない	<input type="checkbox"/>

問3

(1) あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守る」働き方についてどう思いますか。当てはまる選択肢の数字を太枠の回答欄に記入してください。

1. 賛成 2. どちらかといえば賛成 3. どちらかといえば反対 4. 反対 5. わからない	<input type="checkbox"/>
--	--------------------------

(2) (1)の内容について、子どものころ、あなたの家庭ではどのような考えでしたか。当てはまる選択肢の数字を太枠の回答欄に記入してください。

1. 賛成 2. どちらかといえば賛成 3. どちらかといえば反対 4. 反対 5. わからない	<input type="checkbox"/>
--	--------------------------

問4

(1) あなたは、次のような家庭内における理想の役割について、どのように担っていきたいと考えますか。各設問について当てはまる選択肢の数字を太枠の回答欄に記入してください

① 食事の支度 1. 主として男性 2. 男女が共に 3. 主として女性	<input type="checkbox"/>
② 食事の後片付け、食器洗い 1. 主として男性 2. 男女が共に 3. 主として女性	<input type="checkbox"/>
③ 掃除・洗濯 1. 主として男性 2. 男女が共に 3. 主として女性	<input type="checkbox"/>
④ 子育て 1. 主として男性 2. 男女が共に 3. 主として女性	<input type="checkbox"/>

⑤ 看護・介護 1. 主として男性 2. 男女が共に 3. 主として女性	<input type="checkbox"/>
⑥ 学校行事への参加 1. 主として男性 2. 男女が共に 3. 主として女性	<input type="checkbox"/>
⑦ 自治会などの地域活動 1. 主として男性 2. 男女が共に 3. 主として女性	<input type="checkbox"/>
⑧ 家計の管理 1. 主として男性 2. 男女が共に 3. 主として女性	<input type="checkbox"/>
⑨ 主たる収入の獲得 1. 主として男性 2. 男女が共に 3. 主として女性	<input type="checkbox"/>
⑩ 日常の買い物 1. 主として男性 2. 男女が共に 3. 主として女性	<input type="checkbox"/>
⑪ 家庭内の教育・しつけ 1. 主として男性 2. 男女が共に 3. 主として女性	<input type="checkbox"/>

(2) あなたは、次のような家庭内における現状の役割について、どのように担っていますか。各設問について当てはまる選択肢の数字を太枠の回答欄に記入してください。

① 食事の支度 1. 主として男性 2. 男女が共に 3. 主として女性 4. 該当しない	<input type="checkbox"/>
② 食事の後片付け、食器洗い 1. 主として男性 2. 男女が共に 3. 主として女性 4. 該当しない	<input type="checkbox"/>
③ 掃除・洗濯 1. 主として男性 2. 男女が共に 3. 主として女性 4. 該当しない	<input type="checkbox"/>
④ 子育て 1. 主として男性 2. 男女が共に 3. 主として女性 4. 該当しない	<input type="checkbox"/>
⑤ 看護・介護 1. 主として男性 2. 男女が共に 3. 主として女性 4. 該当しない	<input type="checkbox"/>
⑥ 学校行事への参加 1. 主として男性 2. 男女が共に 3. 主として女性 4. 該当しない	<input type="checkbox"/>
⑦ 自治会などの地域活動 1. 主として男性 2. 男女が共に 3. 主として女性 4. 該当しない	<input type="checkbox"/>
⑧ 家計の管理 1. 主として男性 2. 男女が共に 3. 主として女性 4. 該当しない	<input type="checkbox"/>
⑨ 主たる収入の獲得 1. 主として男性 2. 男女が共に 3. 主として女性 4. 該当しない	<input type="checkbox"/>
⑩ 日常の買い物 1. 主として男性 2. 男女が共に 3. 主として女性 4. 該当しない	<input type="checkbox"/>
⑪ 家庭内の教育・しつけ 1. 主として男性 2. 男女が共に 3. 主として女性 4. 該当しない	<input type="checkbox"/>

問5

あなたは、次の①～⑬の言葉や法律、市の事業についてどの程度知っていますか。各設問について当てはまる選択肢の数字を太枠の回答欄に記入してください。

① 男女共同参画社会 1. 知っている 2. 聞いたことがある 3. 知らない	<input type="checkbox"/>
② 館林市男女共同参画推進条例 1. 知っている 2. 聞いたことがある 3. 知らない	<input type="checkbox"/>
③ 館林市男女共同参画基本計画 1. 知っている 2. 聞いたことがある 3. 知らない	<input type="checkbox"/>
④ 女子差別撤廃条例 1. 知っている 2. 聞いたことがある 3. 知らない	<input type="checkbox"/>
⑤ 女性活躍推進法 1. 知っている 2. 聞いたことがある 3. 知らない	<input type="checkbox"/>
⑥ ジェンダー(社会的役割) 1. 知っている 2. 聞いたことがある 3. 知らない	<input type="checkbox"/>
⑦ ポジティブアクション(積極的改善措置) 1. 知っている 2. 聞いたことがある 3. 知らない	<input type="checkbox"/>
⑧ デート DV 1. 知っている 2. 聞いたことがある 3. 知らない	<input type="checkbox"/>
⑨ 男女雇用機会均等法 1. 知っている 2. 聞いたことがある 3. 知らない	<input type="checkbox"/>
⑩ LGBTQ 1. 知っている 2. 聞いたことがある 3. 知らない	<input type="checkbox"/>
⑪ アンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み) 1. 知っている 2. 聞いたことがある 3. 知らない	<input type="checkbox"/>
⑫ 女性活躍推進法に基づいた認定制度「えるぼし」「プラチナえるぼし」 1. 知っている 2. 聞いたことがある 3. 知らない	<input type="checkbox"/>
⑬ 次世代育成支援対策推進法に基づいた認定制度「くるみん」「プラチナくるみん」 1. 知っている 2. 聞いたことがある 3. 知らない	<input type="checkbox"/>

Ⅱ 仕事と家庭生活等の両立について

問6

生活における「仕事」「家庭生活」「ボランティアなどの地域活動」「個人の生活(学習・趣味など)」についてうかがいます。

(1) あなたが理想とする優先順位(数字)を太枠の回答欄に記入してください。

仕事	家庭生活	地域活動	個人の生活
□ 位	□ 位	□ 位	□ 位

(2) あなたの現実の優先順位(数字)を太枠の回答欄に記入してください。

仕事	家庭生活	地域活動	個人の生活
□ 位	□ 位	□ 位	□ 位

問7

(1) 育児や家族介護を行うために、法律に基づき育児休業や介護休業を取得できる制度があります。あなたは、この制度を活用したことはありますか。当てはまる選択肢の数字を太枠の回答欄に記入してください。

1. といったことがある	2. といったことがない	□
--------------	--------------	---

(2) (1)の制度をとったことがない方にうかがいます。

その理由は何ですか。当てはまるすべての選択肢の数字を太枠の回答欄に記入してください。

1. 働いたことがないから	□	□
2. 必要となったことがないから	□	□
3. 家族の協力で、利用しなくても対応できるから	□	□
4. 職場に休める雰囲気がないから	□	□
5. 自分の仕事は代わりの人がいないから	□	□
6. 経済的に生活が成り立たなくなるから	□	□
7. 職場にそのような制度があるかわからないから	□	□
8. 一度休むと元の仕事に戻れないから	□	□
9. 休みをとると勤務評価に影響するから	□	□
10. 現在取り組んでいる仕事を続けたいから	□	□
11. 家族の理解が得られないから	□	□
12. 対象となる子どもや要介護状態にある家族がいないから	□	□
13. その他()	□	□

問8

あなたは、育児休業などをとることについて、現在、社会や企業の支援は十分だと思いますか。当てはまる選択肢の数字を太枠の回答欄に記入してください。

(1) 育児休業 1. そう思う 2. ある程度そう思う 3. あまりそう思わない 4. そうは思わない 5. わからない	<input type="text"/>
(2) 介護休業 1. そう思う 2. ある程度そう思う 3. あまりそう思わない 4. そうは思わない 5. わからない	<input type="text"/>

理由やご意見等ご自由にお書きください。

問9 働いている方のみお答えください。

(1) あなたの働き方が変化したことがありますか。当てはまるすべての選択肢の数字を太枠の回答欄に記入してください。

1. 結婚	<input type="text"/>	<input type="text"/>
2. 出産(ご自身または配偶者の出産)	<input type="text"/>	<input type="text"/>
3. 育児・子育て	<input type="text"/>	<input type="text"/>
4. 介護	<input type="text"/>	<input type="text"/>
5. 変化していない	<input type="text"/>	<input type="text"/>
6. その他()	<input type="text"/>	<input type="text"/>

(2) あなたの職場では、男女間に次のような不公平や制度の未整備はありますか。当てはまるすべての選択肢の数字を太枠の回答欄に記入してください。

1. 募集や採用で男女の不公平がある	<input type="text"/>	<input type="text"/>
2. 賃金や昇給で男女の不公平がある	<input type="text"/>	<input type="text"/>
3. 昇進や昇格で男女の不公平がある	<input type="text"/>	<input type="text"/>
4. 転勤や配置転換で男女の不公平がある	<input type="text"/>	<input type="text"/>
5. 時間外の労働時間で男女の不公平がある	<input type="text"/>	<input type="text"/>
6. 入社研修や業務研究などの機会に男女の不公平がある	<input type="text"/>	<input type="text"/>
7. 女性は補助的業務や雑務が多い	<input type="text"/>	<input type="text"/>
8. 女性が結婚や出産を機に退職や非正規雇用となる慣習や雰囲気がある	<input type="text"/>	<input type="text"/>
9. 男性が育児・介護休業を取りにくい慣習や雰囲気がある	<input type="text"/>	<input type="text"/>
10. 働いているが、特になし	<input type="text"/>	<input type="text"/>
11. 働いているが、わからない	<input type="text"/>	<input type="text"/>
12. その他()	<input type="text"/>	<input type="text"/>

(3)あなたのワーク・ライフ・バランス度を点数化すると、何点ですか。

ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)

「一人ひとりのやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たし、家庭や地域生活などでも、多様な生き方が選択・実現できる」こと

点/100 点満点中

問10 働いていない方のみお答えください。

あなたが仕事を辞めたきっかけとして当てはまるすべての選択肢の数字を太枠の回答欄に記入してください。

1. 結婚
2. 出産
3. 育児・子育て
4. 介護
5. 働いたことはない
6. その他()

<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>

問11

あなたは、男性が育児・介護休業などを取得しない(できない)理由についてどう思いますか。

当てはまるすべての選択肢の数字を太枠の回答欄に記入してください。

1. 経済的に苦しくなるから
2. 職場の理解が得られないから
3. 仕事の評価や配属に影響するから
4. 男性より女性がとったほうがよいから
5. 地域において男性が育児・介護に参加しにくいから
6. 男性に育児・介護のスキルが乏しいから
7. 周囲に取得した男性がいないから
8. わからない
9. その他()

<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	

問12

あなたは、現在、社会活動・地域活動に参加していますか。また、今後参加したいと思いますか。

当てはまる選択肢の数字を太枠の回答欄に記入してください。

1. 活動に参加している
2. 現在は活動に参加していないが、今後は参加したい
3. 現在も活動に参加していないし、今後も参加するつもりはない
4. わからない

問13

あなたが社会活動・地域活動に参加しようとする際に、さまたげになっていることは何ですか。

当てはまるすべての選択肢の数字を太枠の回答欄に記入してください。

1. 仕事が忙しく、時間がない	
2. 家事や育児が忙しく、時間がない	
3. 子どもの世話を頼めるところがない	
4. 親や病人の介護を頼めるところがない	
5. 配偶者や家族の理解が得られない	
6. 経済的な余裕がない	
7. 自分の健康や体力に自信がない	
8. 自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない	
9. 身近なところに活動する場所がない	
10. 特にさまたげになることはない	
11. その他()	

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	

問14

あなたは、家事・育児・介護・地域活動などに積極的に参加していくためには、次のうち、どのようなことが特に必要だと思いますか。当てはまる選択肢の数字を3つまで太枠の回答欄に記入してください。

1. 男性が参加することへの抵抗感を、男性自身がなくすこと	
2. 男性が参加することへの抵抗感を、女性がなくすこと	
3. 仕事中心の生き方・考え方を改めること	
4. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること	
5. まわりの人が、参加する当事者の考えを尊重すること	
6. 講習会や研修会を行い、家事・育児・介護の技能を高めること	
7. 参加することへの社会的評価を高めること	
8. 労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	
9. 家事・育児・介護・地域活動を行うための仲間づくりやネットワークづくりを進めること	
10. 参加することへの啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと	
11. 特に必要なことはない	
12. 男性は、積極的に参加する必要はない	
13. 女性は、積極的に参加する必要はない	
14. その他()	

<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>

問15

あなたは、「女性の働き方」についてどう思いますか。当てはまる選択肢の数字を太枠の回答欄に記入してください。

1.女性は、仕事に就かないほうがよい
2.結婚するまでは、仕事を続けるほうがよい
3.子どもができるまでは、仕事を続けるほうがよい
4.子どもができて雇用形態を変えずに、仕事を続けるほうがよい
5.子どもができたなら雇用形態を変えて、仕事を続けるほうがよい(正規雇用から非正規雇用に変えるなど)
6.子どもができたなら仕事を辞め、子どもが大きくなったら再就職するほうがよい
7.子どもができて、ずっと仕事を続けるほうがよい
8.そもそも働き方を男女に分けて考える必要はない
9.わからない
10.その他()

Ⅲ 男女の人権について

当てはまる選択肢の数字を太枠の回答欄に記入してください。

問 16

(1) あなたは、ハラスメントをしたり(指摘された場合も含む)、あるいは受けたりしたことはありますか。

セクハラ:性的いやがらせ

パワハラ:仕事上の上下・権利関係を不当に利用したいやがらせ・いじめなど

マタハラ:働く女性が妊娠・出産を理由として解雇されたり、職場で精神的・肉体的いやがらせを受けたりすること

【した／された】がある場合、太枠に数字を記入した上、どちらかに☑をつけてください。

1.特にない	<input type="checkbox"/>
2.セクハラを【 <input type="checkbox"/> した / <input type="checkbox"/> された 】	
3.パワハラを【 <input type="checkbox"/> した / <input type="checkbox"/> された 】	
4.マタハラを【 <input type="checkbox"/> した / <input type="checkbox"/> された 】	
5.その他()	

(2) 家族や知人など、身近な人のハラスメントについて、見聞きしたことはありますか。

【した／された】がある場合、太枠に数字を記入した上、どちらかに☑をつけてください。

1.特にない	<input type="checkbox"/>
2.セクハラを【 <input type="checkbox"/> した / <input type="checkbox"/> された 】 ことを見た/聞いた	
3.パワハラを【 <input type="checkbox"/> した / <input type="checkbox"/> された 】 ことを見た/聞いた	
4.マタハラを【 <input type="checkbox"/> した / <input type="checkbox"/> された 】 ことを見た/聞いた	
5.その他()	

問17

(1) あなたは、暴力(DV)を振るったり(指摘された場合も含む)、あるいは受けたりしたことはありますか。

身体的な暴力:殴る、蹴る、ものを投げつける、突き飛ばす、刃物で脅す など

精神的な暴力:脅す、人格を否定する、無視する、行動を監視する など

性的な暴力:性行為や中絶の強要、避妊に協力しない、ポルノを見せる など

経済的な暴力:生活費を渡さない、働くことを妨害する など

【した／された】がある場合、太枠に数字を記入した上、どちらかに☑をつけてください。

1.特にない	<input type="checkbox"/>
2.身体的な暴力を【 <input type="checkbox"/> した / <input type="checkbox"/> された 】	
3.精神的な暴力を【 <input type="checkbox"/> した / <input type="checkbox"/> された 】	
4.性的な暴力を【 <input type="checkbox"/> した / <input type="checkbox"/> された 】	
5.経済的な暴力を【 <input type="checkbox"/> した / <input type="checkbox"/> された 】	
6.その他()	

(2) 家族や知人など、身近な人の DV(暴力)について、見聞きしたことはありますか。
【した／された】がある場合、太枠に数字を記入した上、どちらかに☑をつけてください。

1.特にない
2.身体的な暴力を【 □ した / □ された 】ことを見た/聞いた
3.精神的な暴力を【 □ した / □ された 】ことを見た/聞いた
4.性的な暴力を【 □ した / □ された 】ことを見た/聞いた
5.経済的な暴力を【 □ した / □ された 】ことを見た/聞いた
6. その他()

(3) DVを振るった、受けた、見聞きされた経験のある方にうかがいます。
その際、次のような機関や人に相談しましたか。当てはまるすべての選択肢の数字を太枠の回答欄に記入してください。

1.家族・親戚
2.友人・知人
3.警察
4.民間の機関
5.医療関係者
6.学校関係者
7.勤務先の関係者
8.法務局・地方法務局、人権擁護委員
9.市町村の相談窓口
10.SNS などを通じて知り合った人や不特定多数の人
11. その他()
12.どこにも相談しなかった

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(4) (3)で「どこにも相談しなかった」方にうかがいます。
その理由は何ですか。当てはまるすべての選択肢の数字を太枠の回答欄に記入してください。

1.恥ずかしくて誰にも言えないから
2.相談しても無駄だと思うから
3.相談するほどのことでもないと思うから
4.他人を巻き込みたくないから
5.早く忘れたいから
6.自分にも悪いところがあると思うから
7.相手の行為は愛情の表現だと思うから
8.自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思うから
9.相談先がわからなかったから
10.相談した後の影響が不安だったから
11.その他()

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	

問 18

あなたが、DV(配偶者やパートナーからの暴力)を防ぐために重要だと思うことは何ですか。

当てはまる選択肢の数字を3つまで太枠の回答欄に記入してください。

1.被害者を保護する体制を充実させる
2.カウンセリング・相談機関の充実
3.法律や制度を強化する
4.家庭・学校・企業での研修や学習を充実させる
5.加害者支援(更生プログラムなど)
6.被害者の社会的自立を促進する
7.違法行為・暴力行為等の予防に努める
8.その他()

<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>

IV 男女共同参画社会について

問 19

あなたは、行政や企業、社会活動などの企画づくりや方針決定の過程に、女性が現在どの程度進出していると思いますか。当てはまる選択肢の数字を太枠の回答欄に記入してください。

1.十分に進出している
2.ある程度進出している
3.あまり進出していない
4.ほとんど(まったく)進出していない
5.わからない

問 20

あなたは、女性が管理職に就いたり、地域自治会等の長に就いたりすることについてどう思いますか。当てはまる選択肢の数字を太枠の回答欄に記入してください。また、理由があればお書きください。

1.賛成
2.どちらかといえば賛成
3.どちらかといえば反対
4.反対
5.どちらともいえない

理由

問21

館林市では各種委員会などの女性の割合 35%以上にすることを目指していますが、現状は 25.8%程度に留まっています。館林市の各種委員会など、政策や意思決定の場への女性の参画をさらに進めていくには、あなたは特にどのようなことが大切だと思いますか。当てはまるすべての選択肢の数字を太枠の回答欄に記入してください。

1.女性議員を増やす	
2.男女比が偏らないよう割当制などにする	
3.女性が各分野で活躍し実績を上げる	
4.女性の活躍を促す学習機会を増やす	
5.女性管理職を増やす	
6.自治会や地域の活動の長、役員に女性を増やす	
7.団体の代表や役員に女性を増やす	
8.女性自身が積極的に参画する	
9.家族やまわりの人たちの協力と理解	
10.女性が参画しなくても問題ない	
11.その他()	

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	

問22

あなたは、男女共同参画社会の実現に向けて、市がどのようなことに力を入れていったほうがよいと思いますか。当てはまる選択肢の数字を3つまで太枠の回答欄に記入してください。

1.男女共同参画に関する広報・啓発・学習機会の充実	
2.企業などが男女共同参画の推進に積極的に取り組むように情報提供する	
3.政策における意思決定や方針決定の場への女性の参画推進	
4.女性の就労の機会を増やし、能力開発を促進する	
5.地域活動など社会参画の促進	
6.保育の施設・サービスの充実や、高齢者・病人の施設・介護サービスの充実	
7.各種団体の女性リーダーを養成する	
8.その他()	

<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>

問23

現在、防災のまちづくりの推進が一層重要となっています。あなたは、防災の分野で、男女共同参画の視点からどのようなことが必要だと思いますか。当てはまるすべての選択肢の数字を太枠の回答欄に記入してください。

1.防災会議などの委員に、男女がともに登用されること	
2.防災計画や防災マニュアルに、女性の視点を反映させること	
3.備蓄品に女性の視点を反映させること	
4.避難所において更衣室や授乳室などのスペースを確保すること	
5.避難所に女性相談窓口を開設すること	
6.特にない	
7.その他()	

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	

問 24

(1)あなたは、男女共同参画社会の実現に向けたまちづくりに参加したいですか。当てはまる選択肢の数字を太枠の回答欄に記入してください。

1.参加したい 2.参加したくない

(2) (1)で参加したいと回答した方にうかがいます。

具体的にどのようなことをお考えですか。ご自由にお書きください。

問 25

男女共同参画に関するご意見がありましたら、お聞かせください。

次のページにも設問があります。

あなた自身のことについて

①あなたの性別を教えてください。 ※ご自身が認識している性別を選んでください。

1. 男性 2. 女性 3. その他

②あなたの年代を教えてください。 ※令和7年8月1日現在でお答えください。

1. 10代
2. 20代
3. 30代
4. 40代
5. 50代
6. 60代
7. 70代以上

③あなたの職業はどれですか。

1. 正社員・正職員

2. 会社・団体などの役員

3. パート・アルバイト・契約社員・派遣社員

4. 自営業・自由業・家族従業

5. 専業主婦・主夫

6. 学生

7. 無職

8. その他()

④あなたの家族構成はどれですか。(同居者の範囲に限ります)

1. ひとり暮らし

2. 夫婦またはパートナーのみ(事実婚を含む)

3. 二世帯世帯(親と子ども夫婦が同居)

4. 三世帯世帯(親と子と孫が同居)

5. その他()

⑤あなたは、現在結婚していますか。

1. 結婚している(配偶者と同居)

2. 結婚している(配偶者と別居)

3. パートナーと暮らしている(事実婚を含む)

4. 死別

5. 離別

6. 未婚

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

男女共同参画社会に関する意識調査
報告書

令和8年3月
館 林 市
(市民環境部 共生社会推進課)